

第三百三十條 同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位左ノ如シ

第一 不動産質貸、旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權

第二 動産保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツ

第三 動産質買、種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權

第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シテ亦同シ
果實ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業者ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ質貸人ニ屬ス

第三百三十一條 同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ掲ケタル順序ニ從フ
同一ノ動産ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣

第三百三十二條 種苗肥料供給ノ先取特權。破九三ニ特別ノ先取特權。民三二二ニ動産質貸ノ先取特權。三二二ニ土地ノ質貸人ノ先取特權。三一七ニ旅店宿泊ノ先取特權。三二八ニ運輸ノ先取特權。三三四・三三二・三二二・三二四・八八。

主相互間ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ル
〇三三七ニ動産保存ノ先取特權。三三八ニ動産質買ノ先取特權。三四〇ニ動産質買ノ先取特權。三三九。破九三。

第三百三十二條 同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ受ク
〇九三ニ特別ノ先取特權。

第四節 先取特權ノ效力

〇三四二ニ質權ノ意義。三五二ニ動産質買。
第三百三十三條 先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

〇八六二項ニ動産ノ意義。一八二ニ占有權ノ讓渡。一八三ニ占有權ノ取得。一八四ニ代理人ニ依ル占有。三〇四・四二四。

第三百三十四條 先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第四節 先取特權ノ效力

三三三 動産ノ先取特權者ハ動産カ何人ノ手ニアルモ優先權ヲ有スルヤ(大四・中・横田)

三三四 括當權、質權ニ優先スル先取特權ノ種類(大一一・中・二上)(共通)三三九(圖例)三三七・三三八

338 建物ヲ新築スルニ當リ不動産工事ノ先取特權ノ登記ヲ爲シタルトキハ其建物ノ建築カ終リタルトキハ其登記用紙中ニ該所有權ノ登記ヲ爲スヘキモノニシテ同一建物ニ付二以上ノ別用紙ニ所有權登記ヲ爲スコトハ法ノ許容セザルトコロニ屬ス(昭二・大審「法新二七三〇號一五頁」)

第三百三十五條

一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ動産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付テハ先ツ特別擔保ノ目的ヲサルモノニ付キ辨濟ヲ受ケルコトヲ要ス
一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受ケヘカリシモノノ限度ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス
前三項ノ規定ハ不動産以外ノ動産ノ代價ニ先チテ不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ動産ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

〇八六一項ニ定著物ノ意義。

第三百三十六條 一般ノ先取特權ハ不動産ニ付キ登記ヲ爲ササルモノ之ヲ以テ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對シタルコトヲ妨ケス但登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス
〇八六一項ニ定著物ノ意義。三〇六ニ一般ノ先取特權。二九六ニ留置權。三四一ニ先取特權ノ效力。二七七ニ動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更。

第三百三十七條 不動産保存ノ先取特權ハ保存行爲完了ノ後直チニ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ保存ス

〇三二五ニ不動産ノ保存。三二六ニ不動産保存

ノ先取特權。三二九二項ニ一般ノ先取特權ノ競合。三三一ニ特別ノ先取特權ノ競合。三三九ニ登記シタル先取特權。三四一ニ先取特權ノ效力。三六一ニ動産質。

第三百三十八條 不動産工事ノ先取特權ハ工事ヲ始ムル前ニ其費用ノ豫算額ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス但工事ノ費用カ豫算額ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其超過額ニ付テハ存在セス
工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價額ハ配當加入ノ時裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ要ス

〇三二五ニ動産ノ工事。三二七ニ動産工事ノ先取特權。三二九ニ一般ノ先取特權ノ競合。三六一ニ動産質買準用規定。三三九ニ登記シタル先取特權。三四一・三六一。

第三百三十九條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

〇三六一ニ動産質。

〇動産質權ト動産先取特權トノ順位(大ニ・中・横田)

三三六 先取特權ノ對抗要件(昭五・日・山下)(共通)

三三七―三三九

348 民法第二九八條第二項ノ規定ハ轉質ニ關シテ其準用ナキモノトス(大一四・大審「評論一四卷民四五九頁」)

民法
物權
質權
總則

引渡ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

- 一八一||占有權ノ取得・一八二||占有權ノ讓渡・一八四||占有權ノ取得・三四五||質物ノ占有。
- 第三四四||質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス
- 代ハリテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス
- 三四四||質權ノ設定・一八一||占有權ノ取得・一八二||占有權ノ讓渡・一八四||占有權ノ取得。
- 第三四四||十六條 質權ハ元本、利息、違約金、質權實行ノ費用、質物保存ノ費用及ヒ債務ノ不履行又ハ質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ擔保ス但設定行為ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
- 四二〇||項||債務ノ不履行・一九六||占有物ノ回復・三五〇||質權・二九九||留置物ニ付テノ必要費・三四七||質物ノ留置・三五四・三六七・三六一・三七四・三三四・三三〇||項・五五九・五七〇・四一五。競賣法二||項・一五二・二〇二・二一・三三三・四六二||項。
- 第三四四||十七條 質權者ハ前條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受ケルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得但此種利ハ之ヲ以テ自己ニ對シ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 二九五||留置權ノ意義・二九六||留置權・二九七||留置權者ノ權利・三五〇||質權・三三四||先取特權ト動產質權トノ競合・三六一||不動產質・三七三・三三九・三五三。府縣制一六四||項。市制一

三十一||項。町村制一||一四||項。

第三四四||十八條 質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉質ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉質ヲ爲ササレハ生セサルヘキ不可抗力ニ因ル損失ニ付テモ亦其責ニ任ス

- 三六〇||不動產質ノ存續期間・三四四||質權ノ設定・三四五||質物ノ占有・三五〇||質權・二九八||善良ナル管理者ノ注意ト留置物ノ占有・三六一・三六二||項・三七五・三七六。
- 三||同一動產上ニ二個ノ質權ヲ設定シ得ルカ(昭五。三||(關例)三五二)
- 三四五 質權成立後質取人カ目的物ヲ質入人ニ貸貸セシトキ質權ノ受タル影響(昭六・九・舟橋)(共)
- 三四二
- 三四八 轉質ノ意義要件效力(大二・大一・二・京・中島 大一三・明・久保。昭二・東北・石田。昭三・司口。昭五・中・三。昭五・東・末弘。昭六・九・舟橋)
- 甲金百圓貸與ノ擔保トシテ乙ヨリ受取リタル物ヲ乙ノ同意ナクシテ質入シ金百五十圓ヲ借リタリ其質契約ノ效力(昭五・東・末弘)

342 擔保ナル語ハ要スルニ人的擔保ノ外ハ或財產權ノ價格ヲ以テ或債務ノ辨濟ニ充ツル權能ヲ債權者ニ附與スル場合ヲ汎稱ス(大一五・大審「評論一五卷民一〇八〇頁」)

344 引渡ハ質權設定ノ要件ナリト雖モ其方法ニ制限ナキヲ以テ現實ノ引渡タルト第一八二條第二項第一八四條所定ノ引渡タルトヲ問ハス(大九・法決「法曹二三〇卷五號一三頁」)

民法
物權
先取特權ノ效力
質權
總則

第三四四||十條 不動產質權ノ先取特權ハ賣買契約ト同時ニ未ク代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス

- 三二五||三||不動產ノ賣買・三一八||運輸ノ先取特權・三三二||特別ノ先取特權ノ競合・三四一||先取特權ノ效力・三六一。
- 第三四四||十一條 先取特權ノ效力ニ付テハ本節ニ定メタルモノノ外抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章 質權

第一節 總則

第三四四||十二條 質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ケル權利ヲ有ス

- 三七七||抵當不動産ノ差押・三七三||抵當權ノ順位・三七四||利息ト抵當權・二四七||項||合成物・混和物又ハ加工物ノ單獨所有者。
- 第三四四||十三條 質權ハ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ス
- 三六二||證書ノ保存・二八一||項||地役權ト要役地ノ所有者・四六六||債權ノ讓渡・六一二||質借人ノ權利讓渡又ハ質借物ノ轉貸・六二五・九六三・八七二||項・五九五・三五〇。商一四九・六八八。民訴五七〇・六一八。
- 第三四四||十四條 質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物ノ

第九節 質權

第一節 總則

- 現行法ノ解釋上質抵當以外ニ如何ナル物的擔保ヲ設クルコトカ可能ナルカ(昭二・東・末弘)
- 未成債權ノ爲メニ擔保物權ヲ設定シ得ルカ(昭五。早・遊佐)
- 代リ擔保ノ提供(昭六・東北・中川、石田)
- 質權(昭四・司口)
- 三四二 質權ト留置權トノ差(大三・東・川名)
- 質權ノ對抗要件(昭三・行口)
- 質權ト占有ノ關係(大七・東・富井。昭二・東・三浦)
- 質權ノ移轉性(大一一・早・遊佐)(關例)五一八
- 質契約(大二三・中・稻本)(共)三四九
- 質權ノ客體(昭二・早・遊佐)
- 質權ニヨリテ擔保セラルヘキ債權ノ範圍(昭四。中・久保)
- 質權ニヨリ擔保サル債權ト抵當權ニヨリ擔保サルヘキ債權トハ其ノ範圍ヲ異ニスルカ(大四・法)
- 將來債權擔保ノ爲メ設定シタル質權ノ效力(昭三。早・遊佐)
- 三四四 質權成立ノ要件(大一五・中・西川)
- 質權設定ハ如何ナル部類ノ法律行為ナルヤ(昭二。早・遊佐)

349 本條ハ質權ニ關スル規定タルニ止マリ擔保權ニ關スル一般
的禁止規定ニ非サル故代物擔保契約カ質權ニ於ケル流質契約ト同
様ノ結果ヲ招致スヘキモノナリトスルモ本條ノ適用ナキモノトス
「昭六・東控「法新三三四六號一六頁」

第三百四十九條 質權設定者ハ設定行為又ハ債務ノ
辨濟期間ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟トシテ質物ノ
所有權ヲ取得セシメ其他法律ニ定メタル方法ニ依
ラシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ約スルコトヲ
得ス
◇三五四〇共有者ノ一人カ共有物ニ付キ他ノ共有
者ニ對シテ有スル債權・三三六七〇地上權者ノ土
地ノ所有者。南二七七。號實法三三二二。
第三百五十一條 第二百九十六條乃至第三百條及ヒ
第三百四十九條ノ規定ハ質權ニ之ヲ準用ス
第三百五十二條 他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ
設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質權ノ實行ニ
因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ保證債務ニ
關スル規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス
◇四五九〇主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲
シタル保證人ノ求償權・四六〇〇主タル債務者
ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル保證人ノ求償權
ノ行使。四六一一四六五・四七四・五〇〇一五〇一。
第二節 動產質

第三百五十三條 動產質權者ハ繼續シテ質物ヲ占有
スルニ非サレハ其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコ
トヲ得ス
◇三四四〇債務者ニ對スル分擔ノ請求。一七八〇
動產ニ關スル物權ノ讓渡。一八一〇代理人ト占
有權ノ取得。一八二〇占有權ノ讓渡。一八四〇代
理人ニ依ル占有。一八四・三四五・一八六二項・三
四二・二〇三但書。
第三百五十四條 動產質權者カ質物ノ占有ヲ奪ハレ
タルトキハ占有回復ノ訴ニ依リテ之ノ其質物ヲ回
復スルコトヲ得
◇二〇〇〇占有ノ侵奪。二〇一〇一〇項〇〇占有保持ノ
訴。二〇三但書〇〇占有回復ノ訴。一三七二〇債務
者ノ擔保毀滅又ハ減少。三五二一
三四九 第三四九條ノ說明(昭二・司)
流質契約(昭三・司口)
流質契約ノ禁止理由及擔取引質屋營業ニ於テ之ヲ
許ス理由(大七・明・橫田・大一一、昭三・東・穂積)
賣渡擔保(昭六・東北・中川・石田)
三五〇 物上代位(大三・法) (英) 三〇四・二九六・
三七二
質權者ノ質物保管義務(昭三・司口) (關係) 二九八
三五二 動產質權者ハ使用權ヲ有スルカ(昭三・明・
早川)
動產質ノ對抗要件(大二三、昭三・中・西川)
三五三 質權者ハ權利ナクシテ質物ヲ占有スル者ニ
對シ占有回復ノ請求ヲナスコトヲ得ルヤ(大五・
中・橫田) (關係) 三四二

356 共有地持分ノ上ニ設定シタル質權ハ權利質ニ非スシテ不動
產質權ナリトス (大九・法決「法曹三〇卷六號一七頁」)

第三百五十四條 動產質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケ
タルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限リ設定人ノ評
價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁
判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ質權者ハ
豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス
◇三四九〇質物ノ處分。非訟八三二二・一九・八九。
號實法三三二二。
第三百五十五條 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ
動產ニ付キ質權ヲ設定シタルトキハ其質權ノ順位
ハ設定ノ前後ニ依ル
◇三四五〇質物ノ占有。三四七〇質物ノ留置。
第三節 不動產質

第三百五十六條 不動產質權者ハ質權ノ目的タル不
動產ノ用方ニ從ヒ其使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得
◇三四二〇質權ノ意義。三四七〇質物ノ留置。三五
〇〇質權。二九八〇留置者ト善良ナル管理者ノ
注意ヲ以テ留置物ノ占有。三五九〇不動產質權
者ト設定行為。
第三百五十七條 不動產質權者ハ管理ノ費用ヲ拂ヒ
其他不動產ノ負擔ニ任ス
第三百五十八條 不動產質權者ハ其債權ノ利息ヲ請
求スルコトヲ得ス
◇三四六〇擔保債權ノ擔保。三五六〇不動產質權
者ト不動產ノ使用及ヒ收益權。三五九〇設定行
爲ノ適用。
第三百五十九條 前三條ノ規定ハ設定行為ニ別段ノ
定アルトキハ之ヲ適用セス
第三百六十條 不動產質ノ存續期間ハ十年ヲ超ユ
ルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ不動產質
ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス
不動產質ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間
ハ更新ノ時ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス
質物カ盜難ニカカリタル場合ノ法律關係(昭六・
東・穂積)
質物カ奪取サレシ場合、債權者對奪取者、所有者
對奪取者、質權者對所有者、所有者對質權者ノ各
權利ニ關スル法律關係(昭五・東・末弘)
質權者カ質物ヲ遺失セル場合拾得者ヨリ取戻ス方
法アリヤ(昭六・行)
三五四 動產質ノ實行方法(昭二・日・山下。昭五・日・
東)
動產質權者ハ動產ヲ以テ直チニ辨濟ニ充テ得ルカ
(大二三・中・西川)
動產質ト留置權トノ差異(大一一四・中・西川)
三五五 質權ノ順位讓渡ト拋棄ノ別(大四・京・中島)
第三節 不動產質
三五六 不動產質權ノ效力(昭三・明・霜山)

民法

物權 質權 權利質

361 抵當權ノ實行ニ因ル競賣ノ場合競賣申立抵當權者ニ對シ優先權アル不動産質權者ノ質權ハ競落ニ因リ消滅セサルモ優先權ヲ有セサル不動産質權者ノ質權ハ競落ニ因リ當然消滅ス(大一四・大審「新報四三號七〇頁」)

第三百六十一條 不動産質ニハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ準用ス

第四節 權利質

第三百六十二條 質權ハ財產權ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

○三四二 質權ノ意義・三四三 質權ノ讓渡・三四四 質權ノ設定・二六五 地上權ノ權利・二七〇

○三四二 質權ノ意義・二八〇 地役權ノ意義

○三四三 質權ノ設定・二八〇 地役權ノ意義

○三四四 質權ノ讓渡・二八〇 地役權ノ意義

○三四五 質權ノ消滅・二八〇 地役權ノ意義

○三四六 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四七 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四八 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四九 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四〇 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四一 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四二 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四三 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四四 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四五 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四六 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四七 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四八 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四九 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四〇 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四一 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四二 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四三 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四四 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四五 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四六 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四七 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四八 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四九 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四〇 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四一 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四二 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四三 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四四 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四五 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四六 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四七 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四八 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四九 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

民法

物權 質權 權利質 抵押權 總則

368 質權者カ本條ニ基キ質權ノ實行ヲ爲スニハ債務名義ノ必要ナシ(昭五・法決「法曹八卷一號一三七頁」)
369 抵當權ノ目的タル土地カ他地ト合併セラレ一筆ノ土地ト爲リタリトスルモ抵當權ハ消滅セス(昭五・大審「評論一九卷八號四三三頁」) 一抵當權ニテ擔保スヘキ債權ノ範圍内ニハ抵當權實行ノ費用ヲ含ム(昭二・大審「大判六卷五五四頁」)

第三百六十六條 指圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ其證券ニ質權ノ設定ヲ表書スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○三四二 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四三 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四四 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四五 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四六 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四七 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四八 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四九 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四〇 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四一 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四二 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四三 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四四 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四五 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四六 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四七 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四八 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四九 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四〇 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四一 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四二 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

○三四三 質權ノ其他ノ事項・二八〇 地役權ノ意義

ノ假簿ニ質權ノ設定ヲ記入スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
○商二〇六 記名社債ノ移轉・一七一 株主名簿及ヒ社債原簿・一七三 社債原簿ノ記載事項・二六二 二九 民三四二一三四四

第四節 權利質

三六二 權利質ノ目的トナル權利ヲ舉ケヨ(大四・大五・法・富井)

權利質制度(大一四・東・穂積)

權利質ノ目的ト設定方法(昭四・中・久保)

權利質ノ要件(大三・中・富井)

地上權ハ質權ノ目的タルヲ得ルカ、其ノ實行方法如何(大二・東・川名)

三六三 債權質ノ性質(大二・京・中島)

債權質ノ對抗要件(大四・中・富井。昭三・明・眉山)

債權質ノ效力(昭三・早・遊佐) (四三・三六二・三六四)

三六四 記名株式ヲ質權ノ目的トスル時配當ヲ取立テ得ルカ(昭五・明・眉山)

記名株式及無記名株式質入ノ對抗要件(大二・日・飯島。昭六・日・三浦)

指名債權ニ對スル質權ノ實行方法(大一四・昭二・明・早川)

第十章 抵押權

第一節 總則

第三百六十九條 抵押權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サシメテ債務ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付シテ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ擔保ヲ受クル權利ヲ有ス

地上權及ヒ水小作權モ亦之ヲ抵押權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本章ノ規定ヲ準用ス

○一八一 占有權ノ取得・一八二 占有權ノ讓渡・一八三 占有權ノ消滅・一八四 占有權ノ取得・南六八六一項・五四〇一五四一・破九二・九七 抵證法一

三六七 債權質ノ實行方法(大二・明。大五・日・三浦。昭五・明・横田)

債權質ニ於テ質權ノ目的タル債權ノ擔保期カ主タル債權ノ擔保期前ニ到來スル時質權者及ヒ第三債務者ノ權利如何(大一〇・中・二上)

第十章 抵押權

第一節 總則

不動産金融ノ方法ヲ列舉シ其利害得失ヲ略述セヨ(昭三・東・我妻) (四三) 三五六

三六九 抵押權ノ性質(大二・中・横田。大一・關

374 根抵當ハ興信契約ニ基キ將來發生スヘキ元來債權ノ最高額ヲ定メ之ニ抵當權ヲ設定スルモノニシテ有效ナルト共ニ民法第三七四條ノ適用アリ (昭六・法決)

民法

物權

抵當權 抵當權ノ效力

第三百七十條 抵當權者カ利息其他ノ定期金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其滿期ト爲リタル最後以前ノ定期金ニ付テモ滿期後特別ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ妨ケス

前項ノ規定ハ抵當權者カ債務ノ不履行ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其最後ノ二分分ニ付テモ亦之ヲ適用ス但利息其他ノ定期金ト通シテ二分分ヲ超ユルコトヲ得ス (明治三十四年法律第三十六號ヲ以テ本項追加)

○民一六八〇定期金ノ債權。一六九〇給付ヲ目的トスル債權。四〇四〇利息ヲ生スヘキ債權。四一〇二項目トスル債權ノ不履行。

第三百七十五條 抵當權者ハ其抵當權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲シ又同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵當權者クハ其順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ抵當權者カ數人ノ爲メニ其抵當權ノ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ノ利益ヲ受ケタル者ノ權利ノ順位ハ抵當權ノ登記ニ附記ヲ爲シタル前後ニ依ル

○一七七〇不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更。三三三〇抵當權ノ順位。

第三百七十六條 前條ノ場合ニ於テハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ抵當權ノ處分ヲ通

知シ又ハ其債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ其債務者、保證人、抵當權設定者及ヒ其承諾人ニ對抗スルコトヲ得ス

主タル債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルトキハ抵當權ノ處分ノ利益ヲ受ケル者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ其受益者ニ對抗スルコトヲ得ス

○四八八〇辨濟ノ充當ノ要件。三六四〇指名債權。第三百七十七條 抵當不動産ニ付キ所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル第三者カ抵當權者ノ請求ニ應ジテ之ニ其代價ヲ辨濟シタルトキハ抵當權ハ其第三者ノ爲メニ消滅ス

○二〇六〇所有權ノ内容。二六五〇地上權者ノ權利。四七四〇債務ノ辨濟。五〇〇一五〇四。

三七四 利息其他ノ定期金ニ對スル抵當權ノ制限條件(大四・中・橫田)

▽被擔保債權ニ關スル質權ト抵當權トノ差異(大一・中・二上) [共四] 三四四

▽抵當權ニヨリテ擔保セラルル債權ノ範圍(大五・中・橫田)

三七五 抵當權ノ讓渡並ニ拋棄(大三・中・橫田。昭五・日・東)

▽抵當權ノ處分(大一・三・中・稻本。昭二・明・霜山) 三七七 第三七七條ノ說明(昭五・日・東)

372 抵當權ハ不可分性アルヲ以テ抵當權者カ債權一部ノ辨濟ヲ受ケルモ殘餘ノ債權ニ付キ抵當不動産全部ニ付テ抵當權ヲ行フコトヲ得 (昭二・大審「法新二七一六號九頁」)

民法

物權

抵當權 總則 抵當權ノ效力

第三百七十條 抵當權ハ抵當物ノ上ニ存スル建物ヲ除ク外其目的タル不動産ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ニ及ブ但設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及ヒ第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取柄スコトヲ得ル場合ハ此限ニ在ラス

○八六一項目定當物ノ意義。八七二項目從物。二四二〇不動産ノ從物シテ附合シタル物ノ所有權。

二八一〇一項。

第三百七十一條 前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セズ但抵當不動産ノ差押アリタル後又ハ第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタル後ハ此限ニ在ラス

第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其後一年內ニ抵當不動産ノ差押アリタル場合ニ限リ前項但書ノ規定ヲ適用ス

○八八〇天然果實ノ意義。民訴五六四・六四〇・六四四・七〇六一項。

第三百七十二條 第二百九十六條、第三百四條及ヒ第三百五十一條ノ規定ハ抵當權ニ之ヲ準用ス

第二節 抵當權ノ效力

第三百七十三條 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ設定シタルトキハ其抵當權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ル

○三三九〇登記シタル先取特權。三七五〇抵當權ノ順位讓渡及ヒ變更。

三金。昭三・中・久保。昭四・中・吉田。昭四・司。

▽抵當權ノ定義及性質(昭五・專・大倉)

▽抵當權ノ效力ヲ及ニスヘキ目的物ノ範圍(昭三・明・霜山) [共四] 三七〇・三七一

▽根抵當(本二〇・京・中島。昭三・中・久保。昭四・司。昭四・東・三浦。昭四・關・入江。昭六・東・末弘) [共四] 三四二

▽根抵當ノ物體(大一・關・金) [共四] 三四二

▽質權ト抵當權トノ區別(大三・東・宮井。大二・關・三金) [共四] 三四六・三七四

▽抵當權ト不動産質ノ異同(昭二・東北・廣瀨) [共四] 三五六・三六四

▽未成債權ノタメノ抵當權(昭五・早・遊佐)

▽賣渡抵當(大一・二・京・中島。大一四・京・宮本)

▽抵當權ノ目的ノ範圍(昭三・明・霜山)

▽動產抵當ヲ認メサル理由(大五・中・富井。昭三・東・末弘)

三七二 物上代位(大三・法) [共四] 二九六・三〇四。

三五〇 第二節 抵當權ノ效力

▽流抵當契約ハ許サルルカ(昭三・東・穗積)

378 所謂第三取得者中ニハ當該權利ニ付假登記ヲ爲シタル者モ含ム (昭四・大審「評論一八卷一二號二四五頁」)

381 抵押權者カ第三八七條ニ依リ抵押不動産競賣請求權ヲ有スルニ至リシ後ハ第三取得者ノ權利ヲ讓受ケシ者ニ對シ通知ノ要ナシ (昭四・大審「評論一九卷一號三五頁」)

382 抵押權者ハ第三取得者ニ對シ抵押權實行ノ通知ノ後一ヶ月ヲ經過スルニ非サレハ抵押權ヲ實行スルコトヲ得サルモノトス

第三百八十八條 抵押不動産ニ付キ所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ハ第三百八十二條乃至第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵押權者ニ提供シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵押權ヲ濫除スルコトヲ得

○二〇六〇〇所有權ノ内容・二六五〇〇地上權者ノ權利・二七〇〇〇永小作權・三七七〇〇第三取得者ト抵押權・四九四〇〇四九八。供託物取扱規則。

第三百七十九條 主タル債務者、保證人及ヒ其承諾人ハ抵押權ノ濫除ヲ爲スコトヲ得ス

○三七八〇〇抵押權ノ濫除・四四六〇〇保證人ノ責任。

第三百八十條 停止條件附第三取得者ハ條件ノ成否未定ノ間ハ抵押權ノ濫除ヲ爲スコトヲ得ス

○一二七〇〇停止條件附法律行為・一二九〇〇條件附權利・三七八〇〇抵押權ノ濫除。

第三百八十一條 抵押權者カ其抵押權ヲ實行セント欲スルトキハ第三八七條乃至第三八八條ニ據ケタル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

○三八二〇〇第三取得者ニ對スル抵押權實行ノ通知。

第三百八十二條 第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受ケルマテハ何時モテモ抵押權ノ濫除ヲ爲スコトヲ得

第三取得者カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ一ヶ月内ニ次條ノ送達ヲ爲スニ非サレハ抵押權ノ濫除ヲ爲スコトヲ得ス

前條ノ通知アリタル後ニ第三百七十八條ニ據ケタル權利ヲ取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得者カ

三〇〇權利ヲ取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得者カ濫除ヲ爲スコトヲ得ル期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

○三七八〇〇抵押權ノ濫除。

△代價辨濟ノ意義(昭三・中・久保)

三七八 抵押權ノ濫除(大一一・關・金。昭三・中・久保。昭六・中・三浦)(共)三七九―三八四

▽抵押不動産ニ地上權ヲ得タル者如何ニセハ抵押權ノ拘束ヲ免ルルヤ(大一一・中・西川)

▽抵押不動産上ニ存スル所有權、地上權、永小作權及賃借權ハ抵押權實行ニヨリテ效力ヲ失フヤ(大一一・明・早川)

三八二 抵押權實行ノ制限(大一一・中・吉田)

(大一四・法決「法曹三卷四號九六頁」)

384 債權者ハ濫除權者ノ提供セル金額カ自己ノ債權辨濟ニ足ルトキモ其提供ヲ拒絶シテ増價競賣ヲ申請スルコトヲ得ルモノトス (昭三・大審「大判七卷六六五頁」) 一増價競賣請求ハ其通知カ相手方ニ到達ノトキ效力ヲ生ス (大一四・大審「大判民四五七頁」)

第三百八十三條 第三取得者カ抵押權ヲ濫除セント欲スルトキハ登記ヲ爲シタル各債權者ニ左ノ書面ヲ送達スルコトヲ要ス

一 取得ノ原因、年月日、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、住所、抵押不動産ノ性質、所在、代價其他取得者ノ負擔ヲ記載シタル書面

二 抵押不動産ニ關スル登記簿ノ原本但既ニ消滅シタル權利ニ關スル登記ハ之ヲ掲ケタルコトヲ要セス

三 債權者カ一ヶ月内ニ次條ノ規定ニ從ヒ増價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ハ第一號ニ據ケタル代價又ハ特定シタル金額ヲ債權ノ順位ニ從ヒテ辨濟又ハ供託スヘキ旨ヲ記載シタル書面

○三七八〇〇抵押權ノ濫除・二九三〇〇抵押權ノ登記・四九八。〇一〇〇〇代位辨濟ノ意義・二一〇〇〇住所・四九三〇〇四九八。

第三百八十四條 債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル後一ヶ月内ニ増價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ノ提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

増價競賣ハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵押不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ十分ノ一ノ増價ヲ以テ自ラ其不動産ヲ買受クヘキ旨ヲ附言シ第三取得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ債權者ハ代價及ヒ費用ニ付キ

擔保ヲ供スルコトヲ要ス

○三七八〇〇抵押權ノ濫除。競賣法四〇―五一。外國土地法。

第三百八十五條 債權者カ増價競賣ヲ請求スルトキハ前條ノ期間内ニ債務者及ヒ抵押不動産ノ讓渡人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百八十六條 増價競賣ヲ請求シタル債權者ハ登記簿ニ據ケタル他ノ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其請求ヲ取消スコトヲ得ス

第三百八十七條 抵押權者カ第三百八十二條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ヨリ債務ノ辨濟又ハ濫除ノ通知ヲ受ケサルトキハ抵押不動産ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得

○四九三〇〇辨濟ノ準備・四九四〇〇辨濟ノ受領不能・四九五〇〇供託・四九六―四九八。

第三百八十八條 土地及ヒ其上ニ存スル建物カ同一ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其土地又ハ建物ノミヲ抵押ト爲シタルトキハ抵押權設定者ハ競賣ノ場合ニ付キ地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但地代ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ム

○三八五〇〇増價競賣ノ請求・三八七〇〇第三取得者ト抵押權・二八五〇〇地上權者ノ權利・二六八〇〇地上權ノ拋棄。

第三百八十九條 抵押權設定ノ後其設定者カ抵押地ニ建物ヲ築造シタルトキハ抵押權者ハ土地ト共ニ之ヲ競賣スルコトヲ得但其優先權ハ土地ノ代價ニ

395 本條ノ規定ハ不動産所有權カ競賣申立ニ依リ其行爲ヲ制限セラレシ場合適用ナシ(昭四・大審「評論一八卷八號三頁」)一抵當權設定不動産ニ爲セル貸借カ抵當權ヲ害スルヤ否ハ抵當權實行ノ時ヲ標準トシテ定ム(昭六・大審「評論二〇卷七號六六頁」)一本條規定ノ貸借期間ハ借地法ニ依リ變更セラレシモノニ非ス(昭二・大審「大判六卷六頁」)

民法
物權

抵當權ノ效力
抵當權ノ消滅

第三百九十五條 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸借ハ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對シタルコトヲ得但其實債力カ抵當權者ニ損害ヲ及ホストキハ裁判所ハ抵當權者ノ請求ニ因リ其解除ヲ命スルコトヲ得

第三節 抵當權ノ消滅

第三百九十六條 抵當權ハ債務者及ヒ抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ時効ニ因リテ消滅セス

一六六〇消滅時効。一六七〇項ハ債權又ハ所有權以外ノ債權ノ消滅時効。

第三百九十七條 債務者又ハ抵當權設定者ニ非サル者カ抵當不動産ニ付キ取得時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ抵當權ハ之ニ因リテ消滅ス

一六二〇所有權ノ取得時効。二八九〇地役權ノ消滅。

第三百九十八條 地上權又ハ永小作權ヲ抵當ト爲シタル者カ其權利ヲ拋棄シタルモノ之ヲ以テ抵當權者ニ對シタルコトヲ得ス

二六五〇地上權。二七〇〇永小作權ノ意義。

テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テ、ミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ抵當不動産ノ代價ニ先テ他ノ財産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但他ノ各債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムル爲メ之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

三六九〇抵當權ノ意義。四九三〇辨濟ノ準備。四九四〇辨濟ノ受領不能。四九五〇供託。四九六一四九八。

三八九 抵當權ノ目的タル土地ノ上ニ家屋、庭園ヲ作リタル場合抵當權ハ家屋及庭園ノ樹木、庭石、温室ニ及フヤ(大三・東・富井。大一五・中・西川)

三九三 甲乙丙三名丁ニ對シテ各一萬圓ヲ貸與セル場合、丁ハ甲ノ爲メ其ノ所有ノ家屋ニ抵當權ヲ設定シ乙丙ハ無擔保ノ債權者ナリ、抵當家屋ノ價格ハ六千圓、他ノ財産ノ價格ハ四千八百圓ナル時、甲乙丙ハ競賣ノ結果各幾何ノ配當ヲ受クルヲ得ルカ(昭五・明・横田)

三九〇 本條ノ規定ハ不動産所有權カ競賣申立ニ依リ其行爲ヲ制限セラレシ場合適用ナシ(昭四・大審「評論一八卷八號三頁」)一抵當權設定不動産ニ爲セル貸借カ抵當權ヲ害スルヤ否ハ抵當權實行ノ時ヲ標準トシテ定ム(昭六・大審「評論二〇卷七號六六頁」)一本條規定ノ貸借期間ハ借地法ニ依リ變更セラレシモノニ非ス(昭二・大審「大判六卷六頁」)

民法
物權
抵當權ノ效力

付テノミ之ヲ行フコトヲ得

三七〇〇永小作權。民訴六四〇一項ハ不動産ニ對スル強制執行。競賣法二二・四〇。

第三百九十九條 第三取得者ハ競買人ト爲ルコトヲ得

競賣法二・四

第三百九十一條 第三取得者カ抵當不動産ニ付キ必要費又ハ有益費ヲ出シタルトキハ第九百九十六條ノ區別ニ從ヒ不動産ノ代價ヲ以テ最モ先ニ其償還ヲ受クルコトヲ得

三七〇〇永小作權。三八九〇地役權ノ消滅。競賣法三三。

第三百九十二條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數個ノ不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其代價ヲ配當スヘキトキハ其各不動産ノ價額ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分ツ

或不動産ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其代價ニ付キ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツルマテ之ニ代價シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

三七三〇抵當權ノ順位。三九三〇抵當權ノ登記。

第三百九十三條 前條ノ規定ニ從ヒ代價ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當權ノ登記ニ其代價ヲ附記スルコトヲ得

第三百九十條條 抵當權者ハ抵當不動産ノ代價ヲ以

テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テ、ミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ抵當不動産ノ代價ニ先テ他ノ財産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但他ノ各債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムル爲メ之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

三六九〇抵當權ノ意義。四九三〇辨濟ノ準備。四九四〇辨濟ノ受領不能。四九五〇供託。四九六一四九八。

三八九 抵當權ノ目的タル土地ノ上ニ家屋、庭園ヲ作リタル場合抵當權ハ家屋及庭園ノ樹木、庭石、温室ニ及フヤ(大三・東・富井。大一五・中・西川)

三九三 甲乙丙三名丁ニ對シテ各一萬圓ヲ貸與セル場合、丁ハ甲ノ爲メ其ノ所有ノ家屋ニ抵當權ヲ設定シ乙丙ハ無擔保ノ債權者ナリ、抵當家屋ノ價格ハ六千圓、他ノ財産ノ價格ハ四千八百圓ナル時、甲乙丙ハ競賣ノ結果各幾何ノ配當ヲ受クルヲ得ルカ(昭五・明・横田)

400 本條ノ注意義務ハ債權遲滯ニ因リ輕減セラルルコトナシト解スルヲ相當トス (大・五・東控「評論一五卷民八〇一頁」)

401 債務者ハ給付ノ目的物ヲ債權者ノ受領スルヲ得ヘキ地位ニ置キタルトキニ非サレハ給付ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス持參債務ノ場合ハ債權者ノ住所ニ於テ履行ヲ提供スルヲ要ス (大八・大審「法新一六五七號一七頁」)

民法 債權 總則 債權ノ目的

第四〇一條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇二條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇三條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇四條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇五條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇六條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇七條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇八條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇九條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

民法 債權 總則 債權ノ目的

第三編 債權

第一章 總則

第一節 債權ノ目的

第三九十九條 債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第四〇〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇一條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇二條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇三條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇四條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇五條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇六條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇七條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇八條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇九條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第三編 債權

第一章 總則

第一節 債權ノ目的

第三九十九條 債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第四〇〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇一條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇二條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇三條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇四條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇五條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇六條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇七條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇八條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四〇九條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四一〇條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

問題

債權ノ不可侵性(大一〇・中・岡村。昭五・日・山下)

債權ノ箇數決定ノ標準(昭四・中・岡村)

債務者ノストライキニ關シ(イ)債務不履行ニヨル損害賠償要求權(ロ)即時履原權(ハ)働動者タル勞働組合ニ對スル損害賠償要求權アリヤ(大・四・東・末弘)

債權ノ財產的價值(昭六・東北・勝本)

債權編中辨濟者ノ保護ヲ目的トスル規定ヲ列舉シテ説明セヨ(昭六・東・我妻)

債權法改正ニ付キ何カ一題ヲ捉ヘテ論セヨ(大・四・東・鳩山)

債權ノ目的(大三・大四・行口)

三九九 第三九九條、第四一五條、第四一七條ノ關係(大・五・東・穂積) [共通] 四一五・四一七

債權ノ目的ノ要件(大三・日)

主觀的不能(大・二・京・中島)

主觀的不能ト客觀的不能ノ區別及之ト債權成立トノ關係(大・二・大七・日・横田)

履行不能(大三・中・豐水。昭二・行) [共通] 四一五

第三者所有ノ特定物ヲ以テ賣買契約ノ目的トシタル場合、買手ハ賣手ニ對シテ、第三者ヨリ買求メ、早ク渡セヨト請求シ得ルヤ(大・一・早・中村)

特定物金時計(百圓)賣買契約後、該時計ハ他ニ窃マレタリ、賣主買主間ノ法律關係如何(昭二・東北・勝本)

既中ノ一頭ノ給付ハ制限債務カ又ハ選擇債務カ(昭三・早・嘉山)

民法 債權 總則 債權ノ目的

イシセイセキルモトニ... (F04) ... (F07) ... (F08) ... (F09) ... (F10) ... (F11) ... (F12) ... (F13) ... (F14) ... (F15) ... (F16) ... (F17) ... (F18) ... (F19) ... (F20) ... (F21) ... (F22) ... (F23) ... (F24) ... (F25) ... (F26) ... (F27) ... (F28) ... (F29) ... (F30) ... (F31) ... (F32) ... (F33) ... (F34) ... (F35) ... (F36) ... (F37) ... (F38) ... (F39) ... (F40) ... (F41) ... (F42) ... (F43) ... (F44) ... (F45) ... (F46) ... (F47) ... (F48) ... (F49) ... (F50) ... (F51) ... (F52) ... (F53) ... (F54) ... (F55) ... (F56) ... (F57) ... (F58) ... (F59) ... (F60) ... (F61) ... (F62) ... (F63) ... (F64) ... (F65) ... (F66) ... (F67) ... (F68) ... (F69) ... (F70) ... (F71) ... (F72) ... (F73) ... (F74) ... (F75) ... (F76) ... (F77) ... (F78) ... (F79) ... (F80) ... (F81) ... (F82) ... (F83) ... (F84) ... (F85) ... (F86) ... (F87) ... (F88) ... (F89) ... (F90) ... (F91) ... (F92) ... (F93) ... (F94) ... (F95) ... (F96) ... (F97) ... (F98) ... (F99) ... (F100)

第四百三條 外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ履行地ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得
第四百四條 利息ヲ生スヘキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其利率ハ年五分トス
第四百五條 債權ノ利息ハ一年分以上延滞シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ加入ルルコトヲ得
第四百六條 債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依リ決定マルヘキトキハ其選擇權ハ債務者ニ屬ス
第四百七條 債權者ニ屬スル選擇權ハ四一〇ニ給付ノ四一〇九ニ選擇權ニ屬スル選擇權ニ依リ示シ依リテ之ヲ行フ
前項ノ意思表示ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

四〇三 甲國、乙國ニ於テ乙國ノ通貨ヲ以テ公債ヲ起セリ、其ノ後乙國ハ貨幣制度ヲ變更シ著シク貨幣ノ單位ヲ縮小セルタメ乙國ノ貨幣ノ爲替相場ハ約十分ノ一二下落セリ、此ノ場合ニ於テ甲國ハ新舊何レノ貨幣ヲ以テ辨濟スルヲ相當トスルヤ、日本民法ニヨリテ解答スヘシ(昭六・京・中島)
四〇五 利息債權債務(大一一・明・岩本、昭二・明・大谷、昭二・京・中島)
重利契約(昭二・京・中島)
選擇債務(大九・中、大二・日、大四・日、大四・東、仁井田)
選擇債務ト任意債務(大元・京・石坂、大元・大三、大四・大五・司、大三・四、行口、大四・東、土方、大四・關、岡村、大一・四、司、昭三・京・中島)
選擇債務ト種類債務(昭四・中、岡村)(共四〇一)
選擇債務ノ確定(大一一・早・横田、大一三・中、稻本、昭二、昭四、明・岩本)(共四〇七、四〇九)
既中ノ一額ノ給付ハ制限給付ナリヤ、選擇給付ナリヤ(昭三・早・嘉山)(共四〇〇)
請求權ノ競合トハ何ソヤ特ニ選擇債務ト比較シテノ異同(大一五・京・中島)

412 請求シ得ヘキ代金額ヲ超エ請求シタルトキト雖モ其代金額ニ關スル催告ハ有效ナリ(昭二・大審「大判六卷一三七頁」)一期限ハ債權ノ要素ニ非サル故債權ノ同一性ヲ害セスシテ辨濟期ヲ延長スルヲ得「大一〇・法決「法曹三六卷一二號」
413 債權者ノ遲滞ハ其債權ノ利息發生ヲ停止シ債務者ハ其支拂義務ヲ免カル(大一二・法決「法曹一卷一號一九九頁」)

第四百八條 債權カ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スモ選擇權ヲ有スル當事者カ其期間内ニ選擇ヲ爲ササルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス
四〇六 債權ノ效力
一 二 債權ノ效力
第四百九條 第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス
第三者カ選擇ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ欲セサルトキハ選擇權ハ債務者ニ屬ス
四〇七 意思表示ノ效力ト相手方・四〇六・四〇八 選擇權・四一四 項
第四百十條 債權ノ目的タルヘキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リタルモノアルトキハ債權ハ其殘存スルモノニ付キ存在ス
選擇權ヲ有セサル當事者ノ過失ニ因リテ給付カ不能ト爲リタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス
四〇三 契約ノ解除・四一八 損害賠償ノ責任及ヒ其金額
第四百十一條 選擇ハ債權發生ノ時ニ起リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス
第二節 債權ノ效力
第四百十二條 債務ノ履行ニ付キ定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ

任ス
債務ノ履行ニ付キ不確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタルコトヲ知りタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス
債務ノ履行ニ付キ定期限ヲ定メサリシトキハ債務者ハ履行ノ請求ヲ受ケタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス
一三五 期限附法律行為ノ效力・一三六 期限ノ利益ノ拋棄・一三七 期限ノ利益ノ主張・四九二 四九三 辨濟ノ提供、商二七九
四一〇 給付ノ一部不能ノ效果(昭三・東・三浦)
給付不能ノ選擇債務ニ及ス影響(昭三・明・大谷)
選擇債務ト請求權トノ競合(大一五・京・中島)
不能給付(大二・京・中島)
不可抗力ニ因ル履行不能(大二・外)
他人ニ金ヲ貸サントスル者カ返金ノ履行ヲ確實ニ迅速ニスルタメ利用シ得ヘキ法律的手段ヲ列舉シ且ツソノ理由ヲ簡單ニ説明セヨ(昭六・東・末弘)
第二節 債權ノ效力
四一二 債務者ノ履行遲滞(大八・行口、昭四・司口)
履行遲滞ノ效力(大四・東、仁井田、大一五・日、大九、昭二、關、昭四、辯、昭四、關、菅原、昭五、明、大谷)

民法 債權 總則 債權ノ效力
第四十三條 債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ
拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサルトキハ其債權者
ハ履行ノ提供アリタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス
○四七四 履行ノ提供アリタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス
○四七四 履行ノ提供アリタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス
○四七四 履行ノ提供アリタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第四十四條 債權者カ任意ニ債務ノ履行ヲ爲サザ
ルトキハ債權者ハ其強制履行ヲ裁判所ニ請求スル
コトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限
ニ在ラス
債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササル場合ニ於テ其債
務カ作爲目的トスルトキハ債權者ハ債務者ノ費
用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ
請求スルコトヲ得但法律行爲目的トスル債務ニ
付テハ裁判所ヲ以テ債務者ノ意思表示ニ代フルコト
ヲ得
不作爲目的トスル債務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ
以テ其爲シタルモノヲ除却シ且將來ノ爲メ適當ノ
處分ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得
前三項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
○四一六 損害賠償ノ請求。四一七 四二一 損害
賠償。民新五六四以下。五九四以下。六四〇以
下。六二五。七二七。七三四。七三三。七三六。

四一三 債權者ノ遲滞ト債務者ノ遲滞トノ差(大五・
東・鳩山。大五・司口。昭四・中・磯谷) (共四) 四二二
債權者ノ遲滞(大四・中・須賀。大一一・關・清瀬。
大一一・東・末弘。大一一・司。大一一・中・稻本。
昭二・明・大谷。昭三・中・村上。昭四・京・中島。昭
四・中・岡村。昭五・早・嘉山。昭五・日・山下)
○言語上ノ提供ニ依リテ債權者遲滞ニ陥ルヘキ場合
如何(大三・法)
▽ 履主カ労働者ノ勞務提供ヲ退ケタリ賠償ノ要求ヲ
ナスコトヲ得ルヤ(昭五・日・杉之原)
四一四 借家人カ期限ニ至ルモ借家ヲ明渡ササル時
ノ法律關係(大一一・東・藤積)
▽ 第四一四條ノ性質內容(昭五・外。昭六・中・磯谷)
▽ 間接(心理)的強制ヲ論ス(昭三・東・末弘) (共四) 民
訴七三四
▽ 債務不履行ノ場合債權者ノ満足ヲ得ヘキ方法(大
一三・中・吉田) (共四) 四一五

415 債務ノ履行遲延ニ因ル損害賠償請求ニハ契約解除ヲ爲スヲ
要セス (昭二・大審「大判六卷二一四頁」)
(昭二・大審「大判六卷二一四頁」)
(昭二・大審「大判六卷二一四頁」)

第四十五條 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履
行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求
スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ
履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ
○四一二 債權ノ效力。四一六 損害賠償ノ請求。
四一七 四二一 損害賠償。五三四 一五三六。五
四三。五六三 一五七一。四七四以下。
問題
四一五 債務ノ不履行ニヨル損害賠償(大四・大
四・司口。大五・外)
▽ 損害賠償ト違約金トノ差別(大一一・司口。大四・行。
口) (共四) 四二〇
▽ 不完全給付ノ意義及效力(大三・京・石坂。大八・
行。昭三・明・大谷)
▽ 注文品カ未タ賣主ノ手ニアル間ニ窃マレタル場合
賣主ハ代金請求ヲナシ能フカ(大一一・東・三淵)
▽ 丹波丸ニテ運輸スヘキ契約ヲ爲セルニ丹後丸ニテ
運送セリ。途中暴風ノタメ沈没シ。丹波丸モ同時ニ
沈没セリ。運送者ノ責任如何(大元・京・石坂)
▽ 債務不履行ノ效果(大一一・東・仁井田)
▽ 過失ノ種類(昭二・東・三淵。大一一・京・中島。大
一三・中・末弘) (共四) 七〇九

過失、責任、結果(昭四・明・森山)
履行ノ提供ノ方法(大八・京・菅原)
○ 期日前ニ起リタル同盟罷工ニヨリ期日迄完成スル
コトヲ得サリシ場合請負人ハ賠償ノ責任アリヤ
(大一一・京・中島)
▽ 催促ニ來タル債權者ニ對シテ金ヲ投ケ付ケテナシ
タル債權者ノ受取ラズシテ歸リタル場合ハ債務不履
行ナリヤ。債權者ノ遲滞ナリヤ(大一一・東・藤積)
▽ 損害賠償債權ノ要件(大一一・立・石坂)
▽ 不完全履行ト不法行為ヨリ生スル賠償請求權トノ
競合(昭四・中・磯谷)
▽ 債務不履行ニ因ル損害賠償ト不法行為ニ因ル損害
賠償トノ比較(大三・判檢) (共四) 七〇九
▽ 甲ハ禮服ノ調製ヲ乙ニ請負ハシメタルニ病氣ノタ
メ期日ニ至ルモ出來セス。甲ハ之ヲ他ヨリ買入レ
テ間ニ合セタルニ價格ハ乙ノ契約ヨリ高カリキ。
甲ハ差額ヲ乙ニ請求シ得ルヤ(大元・京・石坂)
▽ 悪傳染病患者ノ住セシモコレヲ否認シテ賣リタル
家ニ患者生シタリ。買手ハ賠償ヲ要求シ得ルヤ(大
五・中・末弘)
▽ 契約不履行ニヨル損害賠償請求權ト不法行為ニヨ
ルソレトノ區別(昭三・外)
▽ 甲カ乙ニ對シテ負擔スル特定物引渡ノ債務ヲ履行

416 債務ノ不履行ニ基キ債務者カ特別ノ事情ニ因ル損害ヲ賠償スヘキ場合ニ於テハ其賠償ノ範圍ハ原則トシテ右ノ事情ヨリ事物自然ノ性質ニ從ヒ生スヘキ損害ニ限ルモノトス(昭四・大審「大判八卷三七三頁」)

第四百十六條 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ爲シシムルヲ以テ其目的トス
特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得
第七〇九 不法行為ト損害賠償ノ四一七―四二二
損害賠償 民法五六・南一七・利息制限法
第四百十七條 損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金錢ヲ以テ其額ヲ定ム
四二六 損害賠償ノ請求 七二二 項 不法行為ニ依ル損害賠償ノ四一八―四二二
第四百十八條 債務ノ不履行ニ關シ債權者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及ヒ其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス
七二二 項 損害賠償

問題

セラルヲ以テ、乙ハ甲ニ履行ニ代ヘテ損害賠償ノ請求ヲ爲シタルニ、甲ハ契約ノ解除ヲ爲スニ非ザレハ全部賠償ノ請求ニ應スル義務ナキ旨ヲ主張シ乙ノ請求ヲ拒絶シタリ、當否如何(大九・辯)
契約不履行主義ニ對シテ賠償ト解除ト同時ニ認ムル我カ民法トソノ一ツヲ選ハシムル辦法トノ優

劣(昭二・東北・勝本) 五四一
主人名儀ノ預金帳ト印ト盗シテ引出テ要求セシ小僧ニ支拂タル銀行ハ更ニ主人ニ向クテ二度拂スル義務アリヤ(大二三・東・末弘。大三四・東・鳩山)
四一六 債務不履行後、損害賠償迄ニ債務ノ目的物ノ價格ニ變動アリタル場合、債權者ハ常ニ中間最高價格ヲ標準トシテ損害ノ賠償ヲ請求シ得ルヤ(昭六・日・杉原)
債務不履行ノ損害賠償ノ範圍(大二三・昭四・明・大谷。昭六・行) 四一九・四二〇
四一八 第四一八條ノ論評(大二三・東・土方)
過失相殺(大八・中・須賀。大九・京・菅原。昭三・昭四・東・三淵。昭二・司。昭五・明・森山)
債務者ノ遲滞ト債權者ノ過失(昭二・早・嘉山)
我民法ニ於ケル過失相殺ニ關スル規定ノ適用(昭六・東北・勝本) 七二二
金錢債權ニ於ケル損害賠償(大一四・中・村上)
金錢債務不履行ニ關スル特別事項(大二三・東・富井。大二五・專・村上)

債權者ハ其賠償ノ範圍ハ原則トシテ右ノ事情ヨリ事物自然ノ性質ニ從ヒ生スヘキ損害ニ限ルモノトス(昭四・大審「大判八卷三七三頁」)

第四百十九條 金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ越エルトキハ約定利率ニ依ル
前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ス
四〇四 利息ヲ生スヘキ債權 四二〇―四二二
損害賠償額 四一五―四一八。民法五六。
第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付キ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコトヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得ス
賠償額ノ豫定ハ履行又ハ解除ノ請求ヲ妨グス
違約金ハ之ヲ賠償額ノ豫定ト推定ス
四一六 損害賠償ノ請求 四一七―四一九 損害賠償 四二二 損害賠償額 五四〇 以下。商法
一七 利息制限法五。
第四百二十一條 前條ノ規定ハ當事者カ金錢ニ非ザルモノヲ以テ損害ノ賠償ニ充ツヘキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス
第四百二十二條 債權者カ損害賠償トシテ其債權ノ目的タル物又ハ權利ノ債權ノ全部ヲ受ケタルトキハ債務者ハ其物又ハ權利ニ付キ當然債權者ニ代位ス
一七七 不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更。一七八 動産ニ關スル物權ノ得喪。四六七―四

七三。南四一五―四一六。
四一九 金錢債權ノ損害賠償(大一四・中・村上。大一一・專・村上)
遲延利息(大一一・昭三・京・中島)
金錢債務不履行ノ特殊性(大二三・東・富井)
四二〇 違約金(大二三・東・三淵。大五・東・鳩山。大一一・辯。昭三・明・三淵。昭五・京・中島)
損害賠償ト違約金トノ差別(大二・司口。大四・行口) 四一五
違約金ト損害賠償ノ豫定(大五・昭三・行口)
損害賠償金ノ豫定契約ノ效力如何、他ノ立法例ト比較シテ吾民法ノ規定ヲ論評セヨ(大五・東・土方)
違約金一日五十圓ノ約束ニテ賣店建築ヲ請負ヒタル所。大工ノ懈怠ノタメ廿日間遅レ、得ヘカリシ利益五百圓ヲ損セリ、賣店主ハ如何程ノ賠償ヲ要求シ得ルヤ(大一一・京・末弘)
損害賠償額豫定ノ效力(大一〇・京・菅原)
第四二〇條第二項ノ說明(大四・中・須賀)
第四二二條第三項ノ說明(大二三・東・末弘)
賠償ノ豫定アル場合、損害ナクトモ又ハ債權者ニ過失アル場合ニテモ效力アリヤ(大一一・東・鳩山)
四二二 第四二二條ノ說明(昭六・東北・勝本)

423 本條ハ債務者ノ無資力タルヲ必要トセス (昭四・大審「評論一九卷一號四一頁」) 一第三者カ賃借地ヲ不法占據シ賃借權ヲ妨クルトキハ賃借人ハ右權利保全ノ爲賃貸人ノ有スル妨害排除ノ請求權ヲ行使シ得 (昭四・大審「評論一九卷一號四一頁」)

424 轉得者ノ取得原因ハ法律行爲ニ基クト轉付命令ニ基クトハ之ヲ問ハス (昭五・大審「評論二〇卷五號八八頁」) 一債務者ノ行爲カ債權者ヲ害スルトキハ其行爲ニ因ル受益者ハ一應受益ノ當時

第四百二十三條 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限ニ在ラス
債權者ハ其債權ノ期限カ到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ルニ非サレハ前項ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但保存行爲ハ此限ニ在ラス
○非訟七二一七九
第四百二十四條 債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其行爲ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行爲又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ハ財產權ヲ目的トセサル法律行爲ニハ之ヲ適用セス
○四二五〇取消ノ效力。一〇二一〇取消シ得ヘキ行爲ノ取消ノ效果。四二六〇消滅時效。
第四百二十五條 前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ總債權者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生ス
○一〇二一〇取消シ得ヘキ行爲ノ取消ノ效果。
第四百二十六條 第四百二十四條ノ取消權ハ債權者カ取消ノ原因ヲ覺知シタル時ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

四二三 債權者代位(大二三・中・豐水)
債權者代位ト廢罷訴訟トノ異同(大五・日・鳩山)
〔共通〕四二四
四二四 債權者取消權ヲ論ス(大二三・外。明・大谷・昭二・京・中島。昭二・明・岩本。昭三・外。昭四・明・大谷。昭四・京・中島)
廢罷訴訟ノ性質、條件、效力(大二・行。大二・東・仁井田。大五・東・石坂。大七・明・鳩山)
特定物給付ヲ客體トスル債權ニモ第四二四條ノ適用アリヤ(大三・東・乾)
如何ナル債權者ハ詐害行爲ノ取消權ヲ有スルヤ(大二・日・鈴木)
左ノ場合債權者取消權アリヤ(イ)惡意ニテナシタル他ノ債權者ヘノ辨濟(ロ)債權發生以前ニナシタル行爲(ハ)給付スヘキ物體ヲ他ニ讓渡シタル行爲(大七・明・鳩山)
次ノ場合債權者取消權アリヤ(イ)債務者カ唯一ノ不動産ヲ相當ノ額ニテ賣リシ行爲(ロ)數人ノ債權者ノ内唯タ一人ニ支拂ヒシ辨濟(昭五・明・森山)

詐害事實ヲ知リタルモノト推定スヘシ (昭五・大審「評論一九卷七號一四五頁」)

第三節 多數當事者ノ債權
第一款 總則
第四百二十七條 數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義務ヲ負フ
○四五六〇共同保證ト保證人。五四四〇解除權不可分ノ原則。民訴五九・四八。
第二款 不可分債務
第四百二十八條 債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債權者ノ爲メニ履行ヲ請求シ又債務者ハ總債權者ノ爲メ各債權者ニ對シテ履行ヲ爲スコトヲ得
○四三二〇連帶債務ノ意義。
第四百二十九條 不可分債權者ノ一人ト其債務者トノ間ニ更改又ハ免除アリタル場合ニ於テモ他ノ債權者ハ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得但其他ノ債權者カ其權利ヲ失ハサレハ之ニ分與スヘキ利益ヲ債權者ニ償還スルコトヲ要ス
此他不可分債權者ノ一人ノ行爲又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債權者ニ對シテ其效力ヲ生セス
○七〇三〇不當利得ノ一般成立要件。四三〇〇不可分債務ト履行。五二二一・五一九。

第四百三十條 數人カ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及ヒ連帶債務ニ關スル規定ヲ準用ス但第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ハ此限ニ在ラス
○四二九〇不可分債權ト更改又ハ免除。四三二〇連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求。四三三〇連帶債務ノ效力。四四一・四四五。
第三款 多數當事者ノ債權
四二七 多數當事者ノ債務ノ特別(昭四・明・松岡)
不動産ヲ賣リテ共同債權者ノ一人ニ對シテナセル辨濟ノタメ他ノ債權者ニ對スル辨濟不能トナリタル場合該賣買ハ詐害行爲タリ得ルヤ(大一・四・東・鳩山)〔共通〕四二四
四二八 不可分債權ニ關スル我カ民法ト各國立法トヲ比較セヨ(大二・京・石坂)
連帶債務、不可分債務、保證債務ノ區別(大二・司口。大一・三・明・大谷。大一・五・中・村上。昭三・明・岩本)〔共通〕四三三・四四六

434 連帶債務者ノ一人カ請求ニ應シ爲セル行爲ハ本條之ヲ規定セサルヲ以テ一人ノ爲シタル債務ノ承認ハ他ノ債務者ニ影響ヲ及ボサス (昭五・大審「評論一九卷六號五五頁」)

第四百三十一條 不可分債務カ可分債務ニ變シタルトキハ各債權者ハ自己ノ部分ニ付テノミ履行ヲ請求スルコトヲ得又各債權者ハ其負擔部分ニ付テノ履行ノ責ニ任ス
○四二七ノ平等ノ權利義務・四二八ノ不可分債務ト履行。

第四百三十二條 數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得
第四百三十三條 連帶債務者ノ一人ニ付キ法律行爲ノ無効又ハ取消ノ原因ノ存スル爲メ他ノ債務者ノ債務ノ效力ヲ妨クルコトナシ
○九〇ノ無効ノ法律行爲・九三但書ノ意思表示ノ無効・九四一項ノ虛偽ノ意思表示・九五ノ錯誤ニ依ル意思表示・九六一項・九二項・四二項・六二項・九・二一三項・一四二項・一九。

第四百三十四條 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ生ス
○一四七ノ一時効中斷ノ原因タル請求・一四八ノ一時効中斷ノ效力・四二二項ノ債務者ノ連帶・四四〇・四五八。

第四百三十五條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス
第四百三十六條 連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ其債務者カ相殺ヲ援用シタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス
右ノ債權ヲ有スル債務者カ相殺ヲ援用セサル間ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ニ於テ相殺ヲ援用スルコトヲ得
○五〇五ノ相殺ノ意義・五〇六ノ相殺ノ意思表示・五〇七ノ相殺ト履行地・五〇八ノ相殺ノ要件・五〇九・五一・四四〇・四五八。

第四百三十七條 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ノ利益ノ爲メニモ其效力ヲ生ス
○五一九ノ債務ノ免除・四四〇ノ特定物ノ引渡・四五八ノ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔セル保證人。

第四百三十八條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ混同アリタルトキハ其債務者ハ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス
○五二〇ノ混同・四四〇ノ特定物ノ引渡・四五八。

第四百三十九條 連帶債務者ノ一人ノ爲キ一時効カ完成シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者モ亦其義務ヲ免ル
○一四四ノ一時効ノ效力・一四五ノ一時効ノ援用・一四六ノ一時効ノ拋棄・一四七ノ一時効ノ中斷ノ原因・一四八・一七四・四四〇・四五八。

第四百四十條 前六條ニ掲ケタル事項ヲ除ク外連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生セス
第四百四十一條 連帶債務者ノ全員又ハ其中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得
四四〇 連帶債務者ノ一人ニツキ連帶ノ免除、一時効中斷ハ他ノ連帶債務者ニ對シテ如何ナル效力アリヤ(大四・京・石坂) (共四) 四三三・四三九

四三二 連帶債務ノ意義、性質(大二・東・土方。大二・京・石坂。大六・行。大九・中・仁井田。大一一・關・清瀨。昭五・京・中島。昭六・九・三瀧)
連帶債務ノ效用(昭五・東・瀧)
連帶債務ト保證債務トノ差異(大二・大四・大一一・京・石坂) (共四) 四四六
主タル債務者及保證人間ノ連帶ハ債務者及ヒ保證人ノ債務ニ如何ナル影響ヲ及ボスカ(大二・中・横田) (共四) 四五八
數人ノ連帶債務者相互ノ關係ト數人ノ保證人相互ノ關係トノ差異(昭六・外) (共四) 四四六
連帶債務ノ一人ニ付キ生シタル事項ト他ノ債務者トノ關係(大二・中・三宅)
連帶債務ト保證人間ノ連帶トノ差異(昭五・京・中島) (共四) 四五八
連帶債務、不可分債務、保證債務ノ區別(大一一・司口) (共四) 四二八・四四六

437 債權者カ連帶債務者ノ一人ト爲シタル裁判上ノ和解ト雖其內容ニシテ債務ノ免除ニ相當スル部分アルトキハ其部分ハ債務ノ免除トシテ當該債務者ノ負擔部分ヲ限度トシ他ノ債務者ニ及ブモノトス (昭二・大審「大判六卷七二三頁」)

439 連帶債務者ノ一人カ債務ノ承認ヲ爲シタルトキモ他ノ債務者ニ對シ一時効中斷セス (昭二・大審「評論一六卷民七一六頁」)

第四百三十六條 連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ其債務者カ相殺ヲ援用シタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス
右ノ債權ヲ有スル債務者カ相殺ヲ援用セサル間ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ニ於テ相殺ヲ援用スルコトヲ得
○五〇五ノ相殺ノ意義・五〇六ノ相殺ノ意思表示・五〇七ノ相殺ト履行地・五〇八ノ相殺ノ要件・五〇九・五一・四四〇・四五八。

第四百四十條 前六條ニ掲ケタル事項ヲ除ク外連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生セス
第四百四十一條 連帶債務者ノ全員又ハ其中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得
四四〇 連帶債務者ノ一人ニツキ連帶ノ免除、一時効中斷ハ他ノ連帶債務者ニ對シテ如何ナル效力アリヤ(大四・京・石坂) (共四) 四三三・四三九

民法

債權

總則

多數當事者ノ債權 連帶債權

九二

民法 債權 總則 多數當事者ノ債權 連帶債權

第四百四十二條 連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨済シ
其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルトキハ
他ノ債務者ニ對シ其各自ノ負擔部分ニ付キ求償權
ヲ有ス
前項ノ求償ハ辨済其他免責アリタル日以後ノ法定
利息及ヒ遅延ナルコトヲ得サリシ費用其他ノ損害ノ
賠償ヲ包含ス
○四二七ノ平等ノ權利義務・四七四ノ債務ノ辨済・
四〇四ノ利息ヲ生スヘキ債權・四三五ノ連帶債
務者ノ一人ト債權者間ノ更改・四三六ノ項ノ連
帶債務者ノ一人ノ債權者ニ對スル相殺ノ採用・
四三八ノ連帶債務者ノ一人ト債權者間ノ混同・
四八二・四四四・四六〇・四九二・四九四・六五
〇・七〇二ノ項・四五九ノ項・五〇〇以下。
第四百四十三條 連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ請
求ヲ受ケタルコトヲ他ノ債務者ニ通知セスシテ辨
済ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タ
ル場合ニ於テ他ノ債務者カ債權者ニ對テ抗スルコト
ヲ得ヘキ事由ヲ有セシトキハ其負擔部分ニ付キ之
ヲ以テ其債務者ニ對テ抗スルコトヲ得但相殺ヲ以テ
之ニ對テ抗シタルトキハ過失アル債權者ハ債權者ニ
對シ相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請
求スルコトヲ得
連帶債務者ノ一人カ辨済其他自己ノ出捐ヲ以テ共
同ノ免責ヲ得タルコトヲ他ノ債務者ニ通知スルコ
トヲ受ケタルニ因リ他ノ債務者カ善意ニテ債權者

ニ辨済ヲ爲シ其他有償ニ免責ヲ得タルトキハ其債
務者ハ自己ノ辨済其他免責ノ行為ヲ有效ナリシモ
ノト看做スコトヲ得
○四六三ノ保證人ニ準用・四四二ノ連帶債務者ノ
求償權・七〇五ノ給附シタルモノノ返還・七〇三
ノ不當利得者ノ利得返還義務・四七四以下・五〇
五・五一・五〇〇以下。
第四百四十四條 連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス責力ナ
キ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求
償者及ヒ他ノ責力アル者ノ間ニ其各自ノ負擔部分
ニ應シテ之ヲ分割ス但求償者ニ過失アルトキハ他
ノ債務者ニ對シテ分割ヲ請求スルコトヲ得ス
○四四二ノ連帶債務者ノ求償權・四二七ノ多數當
事者ノ債權。
四四二 甲乙丙三人ニテ丁ヨリ金八千圓ヲ借入レ、
甲一人ニテ之ヲ使用シタリ、其ノ後丁ノ請求ニ應
ジテ乙ハ辨済シタリ、此ノ場合ニ乙ハ甲丙ニ對シ
テ求償權ヲ有スルヤ、又甲カ無責力トナリタル時
ハ乙ハ丙ニ對シテ求償權ヲ有スルヤ、有ストセハ
其ノ割合如何(昭六・明・森山) (圖例) 四四四

446 身元保證ノ義務ハ特別ノ事由ナキ限身元保證人ノ死亡ニ因
リ消滅ス(昭二・大審「大判四三六頁」)一保證債務ニ付主タル債
務者ノ爲ス保證ハ例外ノ場合ヲ除キ法律ノ認メサル所ニシテ無効
ナリ(昭三・大審「法新二九二三號一三頁」)

447 主タル債務者カ期限ニ履行セサル以上保證人ハ直ニ履行ノ
責ニ任スヘク破産手續ノ終了スルト否トハ保證責任ノ發生ニ何等
關係セス(昭三・大審「彙報三九卷民七七頁」)

第四百四十五條 連帶債務者ノ一人カ連帶ノ免除ヲ
得タル場合ニ於テ他ノ債務者中ニ辨済ノ責力ナキ
者アルトキハ債權者ハ其無責力者カ辨済スルコト
能ハサル部分ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者カ負擔
スヘキ部分ヲ負擔ス
○五一九ノ債務ノ免除・四四二・四二七。
第四百四十六條 保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ
履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ任ス
○四五二・四九三ノ保證債務ト履行ノ請求・四五
七・四五九・四六三ノ項・一三七・二・四六〇
2。
第四百四十七條 保證債務ハ主タル債務ニ關スル利
息・違約金・損害賠償其他總テ其債務ニ從タルモ
ノヲ包含ス
保證人ハ其保證債務ニ付テノ違約金又ハ損害賠
償ノ額ヲ約定スルコトヲ得
○四二〇ノ項ノ違約金・四四八ノ保證人ノ負擔。
第四百四十八條 保證人ノ負擔カ債務ノ目的又ハ體
様ニ付キ主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タル債
務ノ限度ニ減縮ス
○四四七ノ保證債務ノ内容。
第四百四十九條 無能力ニ因リテ取消スコトヲ得ヘ
キ債務ヲ保證シタル者カ保證契約ノ當時其取消ノ
原因ヲ知リタルトキハ主タル債務者ノ不履行又ハ
其債務ノ取消ノ場合ニ付キ同一ノ目的ヲ有スル獨

立ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス
○四二未成年者ノ法律行為・一二一ノ項2ノ準禁治
產者ト保證・一二三ノ項1ノ保佐人ノ同意・一四一ノ項
1・一四二ノ項。
四四五 連帶ノ免除(大一一・中・實藤。昭六・司)
保證債務ノ性質(大二・日。大二・中・西川。大一一・
明・森山。大一一・日。大九)
保證債務ノ性質及效力(大二・關・吾孫子。大五・中・
石坂。昭四・外)
四四六 身元保證(昭五・行)
保證契約ハ何人ト何人トノ契約カ、主ナル債務ノ
發生時期ト保證債務ノ發生時期(昭六・日・中島)
保證契約(大三・法)
連帶保證ト通常ノ保證トノ差異(昭四・中・實藤)
(共) 四四四・四五八
連帶債務ト保證債務トノ差異(共) 四三二
連帶債務ノ不可分債務、保證債務ノ區別(大一一・司
口)(共) 四二八・四三三
數人ノ連帶債務者相互ノ關係ト數人ノ保證人相互
ノ關係トノ差異(昭六・外)(共) 四三二
債權讓渡カ保證債務ニ及ボス影響(昭四・司)(圖例)
四六六

民法

債權

總則

多數當事者ノ債權 連帶債權 保證債務

九三

459 保證人ハ保證債務ノ期限前將來取得スルコトアルヘキ求債權ニ因リ債務者ノ財産ニ對シ假差押ヲ爲スコトヲ得 (大一四・法決「法曹三卷一〇號一一四頁」)

第四百五十九條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ過失ナクシテ債權者ニ辨濟スヘキ裁判官或ハ受ケ又ハ主タル債務者ニ代ハリテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對シテ求債權ヲ有ス

第四百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

○六五〇一項ニ受任者ノ利息ノ償還請求權・六五〇八項ニ受任者ノ賠償請求權・四六三二項ニ求債權・六四三二項ニ受任者ト善良ナル管理者ノ注意・四五〇〇・四六〇一四六二

第四百六十條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ左ノ場合ニ於テ主タル債務者ニ對シテ豫メ求債權ヲ行フコトヲ得

一 主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ且債權者カ其財團ノ配當ニ加入セザルトキ

二 債務カ辨濟期ニ在ルトキ但保證契約ノ後債權者カ主タル債務者ニ許與シタル期限ハ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ス

三 債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ且其最長期ヲモ確定スルコト能ハサル場合ニ於テ保證契約ノ後十年ヲ經過シタルトキ

○四五九一項ニ保證人ト主タル債務者間ノ關係・六四三三項ニ受任者ト善良ナル管理者ノ注意・六

四九二 獨立ノ債務ノ負擔・四六一。破一二六以下。

第四百六十一條 前二條ノ規定ニ依リ主タル債務者カ保證人ニ對シテ賠償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ主タル債務者ハ保證人ヲシテ擔保ヲ供セシム又ハ之ニ對シテ自己ニ免責ヲ得セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ主タル債務者ハ供託ヲ爲シ、擔保ヲ供シ又ハ保證人ニ免責ヲ得セシメテ其賠償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

連帶債務制度ノ實用(大一四・東・穂積)

主タル債務者ト保證人トノ連帶ハ主タル債務者及保證人ノ債權ニ如何ナル效力ヲ及スヤ (共通) 四三二・四五四

共同保證(大一四・中・寶鏡)

共同保證人ノ連帶責任(大一四・中・寶鏡)

共同保證人ノ連帶責任(大一四・中・寶鏡)

共同保證人ノ連帶責任(大一四・中・寶鏡)

共同保證人ノ連帶責任(大一四・中・寶鏡)

第四百六十二條 主タル債務者ノ委託ヲ受ケシテ保證ヲ爲シタル者カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ得

主タル債務者ノ意思ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者カ現ニ利益ヲ受ケタル限度ニ於テ之ノミ求債權ヲ有ス但主タル債務者カ求債ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有セシコトヲ主張スルトキハ保證人ハ債權者ニ對シ其相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

○四五九二項ニ保證人ノ求債權・五〇〇二項ニ代位辨濟・七〇二二項ニ相當ノ擔保提供・七〇二二項ニ償還ノ請求・七〇二三項ニ管理者ノ管理・七〇三・五〇四五

第四百六十三條 第四百四十三條ノ規定ハ保證人ニ之ヲ準用ス

保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨濟其他免責ノ爲メニスル出捐ヲ爲シタルトキハ第四百四十三條ノ規定ハ主タル債務者ニモ亦之ヲ準用ス

○四五九二項ニ保證人ノ求債權・四六〇二項ニ主タル債務者ニ對スル求債權・四六三二項ニ保證人ノ

第四百六十四條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其負擔部分ノミニ付キ求債權ヲ有ス

第四百六十二條 主タル債務者ノ委託ヲ受ケシテ保證ヲ爲シタル者カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ得

主タル債務者ノ意思ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者カ現ニ利益ヲ受ケタル限度ニ於テ之ノミ求債權ヲ有ス但主タル債務者カ求債ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有セシコトヲ主張スルトキハ保證人ハ債權者ニ對シ其相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

○四五九二項ニ保證人ノ求債權・五〇〇二項ニ代位辨濟・七〇二二項ニ相當ノ擔保提供・七〇二二項ニ償還ノ請求・七〇二三項ニ管理者ノ管理・七〇三・五〇四五

第四百六十三條 第四百四十三條ノ規定ハ保證人ニ之ヲ準用ス

保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨濟其他免責ノ爲メニスル出捐ヲ爲シタルトキハ第四百四十三條ノ規定ハ主タル債務者ニモ亦之ヲ準用ス

○四五九二項ニ保證人ノ求債權・四六〇二項ニ主タル債務者ニ對スル求債權・四六三二項ニ保證人ノ

第四百六十四條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其負擔部分ノミニ付キ求債權ヲ有ス

○四二八 各債權者ニ對スル履行・四三二 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求・四四二 連帶債務者ノ求債權・四五九・四六三・五〇〇

第四百六十五條 數人ノ保證人アル場合ニ於テ主タル債務者カ不可分ナル爲メ又ハ各保證人カ全額ヲ辨濟スヘキ特約アル爲メ一人ノ保證人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ非スシテ互ニ連帶セサル保證人ノ一人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百六十二條ノ規定ヲ準用ス

四六二 保證人ノ求債權(昭五・司口)

四六二 保證人ノ求債權(昭五・司口)

四六二 保證人ノ求債權(昭五・司口)

四六二 保證人ノ求債權(昭五・司口)

四六二 保證人ノ求債權(昭五・司口)

報一二九號二六頁) 一債權讓渡ノ通知ハ觀念表示ニシテ狹義ノ意思表示ニ非サルモ之ニ準シテ其效力ヲ判斷スルヲ相當トス (昭二・東地「評論一六卷民六二三頁) 一債權讓渡ノ通知アリシコト爭ナキ場合ニハ反證ナキ限り其讓渡事實ヲ推認スヘキモノトス (昭二・大審「大判一一四頁)

民法

債權

總則

債權ノ讓渡

第四百六十八條 債權者カ其讓渡ヲ留メスシテ前條ノ承讓ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對シテ抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對シテ抗スルコトヲ得ス但債務者カ其債務ヲ消滅セシムル爲メ讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ取返シ又讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止マルトキハ債權者ハ其通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對シテ抗スルコトヲ得

第四百六十九條 指圖債權ノ讓渡ハ其證書ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對シテ抗スルコトヲ得ス

九九

466 債權讓渡人ハ特約アル外讓受人ニ對シ債務者ノ資力擔保ノ義務ナシ(昭五・長控「評論一九卷六號一〇八頁) 一取立ヲ目的トスル債權讓渡カ讓受人ニ其名ヲ以テ債權ヲ行使スル權能ヲ授與シタルモノナル場合ニハ讓受人ハ讓渡人ノ許諾ナキ限り更ニ取立ノ目的ヲ以テ其債權ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (昭二・大審「大判一九四頁)

467 本規定ハ取引安全ヲ保護スル強行規定ナリ (昭二・東區「新

民法

債權

總則

債權ノ讓渡

第四節 債權ノ讓渡

第四百六十六條 債權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス 前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對シテ抗スルコトヲ得ス

七〇九 無記名債權ノ讓渡(大五・辯) 物權ノ讓渡ト債權ノ讓渡トノ異同(大三・辯) (共)一七六・一七七・一七八

九八

債權ノ消滅ノ要件ニハ債權ノ存在ニシテ消滅ノ原因生ズルコトヲ要ス...

第一節 債權ノ消滅

第四百七十四條 債權ノ消滅ハ債權ノ第三者ニシテ消滅ノ原因生ズルコトヲ要ス...

第五節 債權ノ消滅

債權消滅原因(大一一・日・沼) [共國] 第二款以下 債權ノ消滅原因...

478 債權ノ準占有者ナリト爲スニハ一般取引ノ觀念上自己カ債權者ナルコトヲ信セシムルニ足ル事由ニ基キ債權者タル行爲ヲ爲セルコトヲ要ス...

第四百七十八條 債權ノ準占有者ニシテ消滅ノ原因生ズルコトヲ要ス...

第四七九條 債權ノ準占有者ニシテ消滅ノ原因生ズルコトヲ要ス...

500 物上保証人ハ辨濟ナキ限リ擔保權ノ實行ニ因リ當該財産ヲ失フ地位ニ在ルモノニシテ其辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スルモノナリ (昭四・大審「評論一八卷三號一一頁」)

501 代位權者カ債務者ニ對スル求償權ハ代位辨濟ニ因リ當然收得スルモノナルカ故ニ收得セザリシトノ主張ハ債權者ヨリ爲スヘク辨濟者主張ノ要ナシ (昭二・大審「彙報三八卷民六一八頁」)

民法
債權
總則
債權ノ消滅
辨濟

第五百條 辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位ス

第四百九十九條 代位辨濟ノ效果・四七四以下。

第五百一條 前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍内ニ於テ債權ノ效力及ビ擔保トシテ其債權者カ有セシ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但左ノ規定ニ從フコトヲ要ス

一 保証人ハ豫メ先取特權、不動産質權又ハ抵押權ノ登記ニ其代位ヲ附記シタルニ非サレハ其先取特權、不動産質權又ハ抵押權ノ目的タル不動産ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セズ

二 第三取得者ハ保証人ニ對シテ債權者ニ代位セズ

三 第三取得者ノ一人ハ各不動産ノ價格ニ應スルニ非サレハ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セズ

四 前號ノ規定ハ自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ間ニ之ヲ準用ス

五 保証人ト自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間ニ於テハ其頭數ニ應スルニ非サレハ債權者ニ代位セズ但自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者數人アルトキハ保証人ノ負擔部分ヲ除キ其

第五百二條 債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其辨濟シタル債權ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除ハ債權者ノミ之ヲ請求スルコトヲ得但代位者ニ其辨濟シタル債權及ビ其利息ヲ償還スルコトヲ要ス

第四百九十九條 代位辨濟ノ效果・四七四以下。

第四百九十九條 代位辨濟ノ效果・四七四以下。

第五百三條 代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟 受ケタル債權者ハ債權ニ關スル證書及ビ其占有ニ在ル擔保物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタル場合ニ於テハ債權者ハ債權證書ニ其代位ヲ記入シ且代位者ヲシテ其占有ニ在ル擔保物ノ保存ヲ監督セシムルコトヲ要ス

第四百七十七條 證書ノ返還ノ請求・二九五他人ノ物ノ留置・四九九代位辨濟・五〇〇代位辨濟ニ因ル代位・三四一。

第五百四條 第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位者ヲ爲スヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受クルコト

495 債務者カ供託受領證書ヲ債權者ニ交付スルハ供託ノ有效條件ニ非ス (昭四・大審「評論一九卷二號四三頁」)

496 質權又ハ抵押權ノ存スル場合ニハ辨濟供託ノ取消ハ絕對ニ之ヲ許サス (昭三・法決「法曹七卷二號七四頁」) 一供託者ハ利息ヲ一部拋棄シ得 (昭二・法決「法曹五卷五號一四一頁」)

民法
債權
總則
債權ノ消滅
辨濟

第四百九十五條 供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

供託所ニ付キ法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス

供託者ハ遲滞ナク債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十四條 辨濟ノ受領ノ拒絕・四九七裁判所ノ許可ニ依ル競賣・六五七―六六六。供託法一。

非訟八一。

第四百九十六條 債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決力確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニ於テハ供託ヲ爲サザリシモノト看做ス

前項ノ規定ハ供託ニ因リテ質權又ハ抵押權カ消滅シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第四百九十四條 辨濟ノ受領ノ拒絕・五三七給付ノ請求・六五七―六六六。供託法五以下。民三四二・三四五・三六九。

第四百九十七條 辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第四百九十四條 辨濟ノ受領ノ拒絕。商二八六商人間ノ賣買。非訟八三。競賣法。

第四百九十八條 債務者カ債權者ノ給付ニ對シテ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其給付ヲ爲スニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

五三三 契約ノ效力・五七四實買ノ目的物ノ引渡。供託法一〇。

第四百九十九條 債權者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタル者ハ其辨濟ト同時ニ債權者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スルコトヲ得

第四百六十七條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

五〇〇 辨濟ニ因ル代位・五〇一―五〇四代位辨濟ノ效果・四七四以下

▽債務者カ債務ノ目的物ヲ供託シタル後不慮ノ天災ニヨリテ該供託物滅失セリ其損失ハ何人ニ歸スルヤ、但シ供託物ノ滅失原因ハ債權者カ供託受諾ノ意思表示ヲナス前ニ生シタルモノト假定ス (昭六・京・中島) (關例) 四九二・四九五

▽債權者又ハ其ノ代理人ニ非サル者ニ爲シタル辨濟ノ有效ナル場合 (大二三・外)

四九九 代位辨濟 (大二三・外)

〔共通〕 四七四・五〇〇・五〇一

▽債權讓渡ト代位辨濟ノ差異 (大二三・東・土方) 〔共通〕 四六六

505 相殺カ當事者間ニ於テ有效ニ爲サレシ以上之ニ因ル債權消滅ノ效果ハ絕對的ナルヲ原則トシ別段ノ規定アル場合ノ外ハ第三者ニ對シ之ヲ主張シ得（昭四・大審「法新二九七四卷一〇頁」）

509 不法行爲ニ因リ生セシ債權ヲ負擔スル者ハ相手方タル債權者ニ對シ不法行爲ニ因リテ生セシ反對債權ヲ有スル場合モ相殺ヲ以テ對抗シ得ス（昭三・大審「大判七八〇頁」）

能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其實ヲ免ル

◇四五五 保證人ノ責任。

第二款 相殺

第五百五條 二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債權ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方ノ債權カ辨濟期ニ在ルトキハ各債權者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其債權ヲ免ルルコトヲ得但債權ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

◇四三六 二項 質權。四四三 一項 債權ノ履行請求。四五七 二項 主タル債權者ノ債權ニ依ル相殺ト保證人ニ對スル效力。四六二 保證人。四六八・五〇九 一五二・六六七。

第五百六條 相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス但其意思表示ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ス

前項ノ意思表示ハ雙方ノ債權カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ題リテ其效力ヲ生ス

◇一二七 停止條件 附法律行爲。二三五 期限 附法律行爲ノ效力。

第五百七條 相殺ハ雙方ノ債權ノ履行地カ異ナルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得但相殺ヲ爲ス當事者ハ其相手方ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

◇五〇五 相殺。四八四 辨濟ノ場所。四八五 辨濟ノ請求。

第五百八條 時効ニ因リテ消滅シタル債權カ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得

◇一四五 時効ノ援用。一六六 以下。

第五百九條 債權カ不法行爲ニ因リテ生シタルトキハ其債權者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

◇七〇九 不法行爲ト損害賠償。

第五百十條 債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債權者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

◇民訴六一八 差押フルコトヲ得サル債權。

第二款 相殺

五〇五 相殺（大二・大五・大一四・司口）

▽損得相殺ノ意義（昭五・明・森山）

▽相殺ノ要件（大一二・京・菅原）

▽相殺制度ノ效用（大一二・東・末弘）

▽相殺ノ經濟的效用（大一四・昭六・東・末弘）

▽間接給付ト代物辨濟（昭二・明・森山）（共四）四八二

▽金錢給付ト馬ノ給付ト相殺スル契約ノ性質（大四・東・富井）

五〇九 第五〇九條ノ立法理由（昭五・東・藤原）

514 所謂併存的若ハ重疊的債務引受トハ第三者カ債務關係ニ加入シテ更ニ債務者トナリ原債務者ト相並ヒテ其債務ヲ負擔スル行爲ヲ稱ス（大一五・大審「大判二一九頁」）一債務引受ハ當事者間特ニ舊債務者ヲシテ債務ヲ免レシムル意思アリト認メ得ヘキ場合ニ非サル限り重疊的ニ債務ノ引受アリタルモノト解スヘシ（大一五・東地「法新二六四三號一四頁」）

第五百十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ其後ニ取得シタル債權ニ依リ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

◇民訴五九八 金錢ノ債權ノ差押。民四八一 差押債權者。

第五百十二條 第四百八十八條乃至第四百九十一條ノ規定ハ相殺ニ之ヲ準用ス

第三款 更改

第五百十三條 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅ス

條件附債務ヲ無條件債務トシ、無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更スルハ債務ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スル亦同シ

◇四二九 不可分債權者ノ一人ト其債權者間ノ債權ノ免除。四三五 連帶債務者ノ一人ト債權者間ノ更改。二二七 以下。商四四五 以下。

第五百十四條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但舊債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百十五條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

◇四六六 債權ノ讓渡。四六七 指名債權ノ讓渡。五一六 債權者ノ交替ニ因ル更改。民施四・五。

第五百十六條 第四百六十八條第一項ノ規定ハ債權

者ノ交替ニ因ル更改ニ之ヲ準用ス

第五百十七條 更改ニ因リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス

第三款 更改

五一三 更改及免除（大三・司口）（共四）五一九

▼更改、代物辨濟、債權讓渡ノ異同（大五・司口）四六六・四八一

五一四 我國法上債務ノ引受ヲ認ムルコトヲ得ルヤ得ルトセハ如何ナル方法ニヨルヘキヤ、保證人アリトスレハ如何（大五・行）

▽債務引受ト更改ノ異同（大四・判檢。大九・東・鳩山）

▽債務引受ノ性質、要件、效力（大一三・行。昭四・中。磯谷。昭三・司。昭四・東・我妻。昭五・明・霜山。昭六・九・三淵）

▽債務引受ト履行ノ引受トノ區別（大八・東・菅原）

▽重疊的債務引受（昭五・明・森山）

▽債務引受ノ經濟的効果（昭六・東・末弘）

五一五 債權讓渡ト債權者交替ニヨル更改トノ區別（大四・大五・東・土方）（共四）四六六

第五百十八條 更改ノ當事者ハ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其債務ノ擔保ニ供シタル質權又ハ抵當權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但第三者カ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第四款 免除

第五百十九條 債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ消滅ス
 ◇四二九 不可分債權者ノ一人ト其債務者間ノ債權ノ免除・四三七 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債權ノ免除

第五款 混同

第五百二十條 債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス但其債權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス
 ◇一七九 物權ノ混同ト占有權・四三八 連帶債務者ノ一人ト債權者間ノ混同

第二章 契約

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

問題

第五百二十一條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス
 申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ
 ◇五三〇 廣告ノ取消・五二四 契約ノ申込ノ取消・五二七 契約ノ申込ノ取消ノ通知・五二三 內諾ノ通知・商二六九・二七〇 競賣法二二三
 第五百二十二條 承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ申込者ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス
 第五百二十三條 遲延シタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ得
 ◇五二一 契約ノ申込ノ取消

第五百十九條 債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ消滅ス
 ◇四二九 不可分債權者ノ一人ト其債務者間ノ債權ノ免除・四三七 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債權ノ免除

第五百二十條 債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス但其債權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス
 ◇一七九 物權ノ混同ト占有權・四三八 連帶債務者ノ一人ト債權者間ノ混同

更改及免除(大三・司口) [共通] 五一三
 第二章 契約
 本章ノ規定ニシテ契約自由ノ原則ヲ制限スルモノアリヤ(大三四・行)
 第一節 總則
 第一款 契約ノ成立
 契約成立ノ一般要件(大三・外口・大一五・專・村上) [關係] 五二一—五三二
 契約成立ニ於ケル意思ノ自由殊ニ附加契約強制契約ニ留意(昭六・東北・藤本)
 契約ノ二大要素(大一四・明・松本) [共通] 五二二
 有債契約ト債務契約トノ異同(大一五・中・村上)
 有債、無債契約ノ異同、片務契約ノ異同、且消費貸借、使用貸借貸借ニ付述ヘヨ(大五・日・三宅) [共通] 五八七・五九三・六〇一
 雙務契約トハ何ツヤ(大八・日・池田)
 所謂物權契約說ノ當否(大三・中・村上)
 會社ノ總會決議ハ契約ニ非ルカ(大三・法) [共通] 五二一
 射伴契約ト條件附契約トノ差異(大三・法)
 繼續的債權契約ノ例ヲ舉クソノ特色ヲ指摘セヨ(昭五・早・中村) [共通] 六〇一・六二三・六三二
 要物契約、物權契約、雙務契約、有債契約ノ意義(昭

521 契約ノ内容カ公序良俗ニ反セサル限リハ契約當事者ノ欲セントスル效果ノ發生ヲ認ムルヲ以テ契約解釋ノ通則トス (昭三・東控「新報一四八號一八頁」)

第五百二十一條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス
 申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ
 ◇五三〇 廣告ノ取消・五二四 契約ノ申込ノ取消・五二七 契約ノ申込ノ取消ノ通知・五二三 內諾ノ通知・商二六九・二七〇 競賣法二二三
 第五百二十二條 承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ申込者ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス
 第五百二十三條 遲延シタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ得
 ◇五二一 契約ノ申込ノ取消

問題

三・中・村上) [共通] 五八七・一七六・六〇一・五五五
 ◇混合契約(昭三・中・中村・昭四・關・齋藤)
 ◇承諾ノ效力發生時期ニ關スル學說ノ論評(昭六・明・霜山)

第五百二十一條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス
 申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ
 ◇五三〇 廣告ノ取消・五二四 契約ノ申込ノ取消・五二七 契約ノ申込ノ取消ノ通知・五二三 內諾ノ通知・商二六九・二七〇 競賣法二二三
 第五百二十二條 承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ申込者ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス
 第五百二十三條 遲延シタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ得
 ◇五二一 契約ノ申込ノ取消

問題

三・中・村上) [共通] 五八七・一七六・六〇一・五五五
 ◇混合契約(昭三・中・中村・昭四・關・齋藤)
 ◇承諾ノ效力發生時期ニ關スル學說ノ論評(昭六・明・霜山)

第五百二十四條 承諾ノ期間ヲ定メシテ隔地者ニ爲シタル申込ハ申込者カ承諾ノ通知ヲ受クルニ相當ナル期間之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百二十五條 第九十七條第二項ノ規定ハ申込者カ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其相手方カ死亡若クハ能力喪失ノ事實ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百二十六條 隔地者間ノ契約ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス

第五百二十七條 承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立ス

問題

五二四 申込ノ承諾期間ノ民法上ノ意味(昭五・京・末川) (共) 五二二・五二七

五二五 申込ノ形式的效力(大一二・京・菅原) (共) 五二一・五二七

五二六 消費貸借契約(物ノ現實授受ヲ必要トスルヤ) (大二・明) (共) 五八七・五二二 (同) 五二二・五二二・三・五二六

五二五 申込ノ效力(大二・關・吾孫子) (共) 五二二・五二二

五二六 承諾ノ效力發生時期(昭四・明・霜山) (同) 九七・商二七

五二七 甲ハ購買ヲ求メ乙ハ贈與アリタルモノトシテ丙ニ贈與シタリ甲ハ如何ナル法律の救済ヲ求メ得ルカ(昭二・東・末弘) (共) 七〇三・七〇九・一九二

五二八 申込ノ交叉ト契約ノ成立(大一一・專・村上。昭五・明・磯谷) (共) 五二二

五二九 承諾ノ效力發生時期ニ關スル學說(昭六・明・霜山) (同) 承諾期間三月五日迄ノ家屋賣買ノ申込ニ對シ(イ)三月三日承諾通知ヲ出シ翌日到達ノトキ(ロ)同通知カ途中紛失セルトキ(ハ)同通知カ配達ノ誤ニテ三月七日到達ノトキ(ニ)三月五日承諾ノ通知カ翌日到達ノトキ(ホ)三月三日乙カ八千圓ナラハ買フトノ通知ヲセルトキ(ヘ)甲ノ申込ト無關係ニ三月一日乙カ一萬圓ニテ買ヒ度キ旨ノ通知ヲセル時ノ契約ノ成否(昭四・京・末川) (同) 五二二・五二二

五三〇 隔地者ニ對スル意思表示ノ效力發生時期及ヒ隔地者間ニ於ケル契約成立期ニ關スル立法ノ主義、又我民法ハ孰レノ主義ヲ採レルヤ(大四・行)

528 賣買契約中一部ニ付テハ引渡場所ヲ變更シテ其履行ヲ承諾シタリトスルモ斯ノ如キ意思表示ハ新ナル契約申込ト稱スルヲ相當トス (昭二・東控「新報」一八號一八頁)

第五百二十七條 申込ノ取消ノ通知カ承諾ノ通知ヲ發シタル後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其前ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知リ得ヘキトキハ承諾者ハ遲滞ナク申込者ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百二十八條 承諾者カ申込ニ條件ヲ附シ其他變更ヲ加ヘテ之ヲ承諾シタルトキハ其申込ノ拒絕ト共ニ新ナル申込ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十九條 或行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フヘキ旨ヲ廣告シタル者ハ其行爲ヲ爲シタル者ニ對シテ其報酬ヲ與フル義務ヲ負フ

第五百三十條 前條ノ場合ニ於テ廣告者ハ其指定ノ方法ニ依リテ其廣告ヲ取消スコトヲ得但し其廣告中ニ取消ヲ爲ササル旨ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十一條 前項ニ定メタル方法ニ依リテ取消ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但し其取消ハ之ヲ知リタル者ニ對シテノミ其效力ヲ有ス

五二七 當事者ノ意思ヲ以テ申込ノ拘束力ヲ除外シ得ルカ(大一一・京・官本) (共) 五二八

五二八 申込ノ承諾期間ノ民法上ノ意味(昭五・京・末川) (共) 五二二・五二四

五二九 申込ノ形式的效力(大一二・京・菅原) (共) 五二一・五二四

五三〇 契約ノ申込ノ撤回(昭六・中・大森) (同) 五二二・五二四・五二二

五三一 變更承諾ノ意義及ヒ效果(大一一・專・村上) (同) 五二二・五二七

五三二 懸賞廣告ノ意義、性質及ヒ效力(大一一・明・大谷。昭五・日・中尾) (共) 五三〇 (同) 六三二・五二四・五二二

五三三 懸賞廣告ニ依リ成立スル契約ト請負契約トノ異同(大四・法) (共) 六三二・五三〇・五三一・五三二

五三四 契約ノ競争締結(大一一・京・菅原) (同) 五三〇・五三一・五三二

五三五 競賣廣告ノ法律上ノ性質(昭二・京・官本) (共) 競賣法一・民訴六六五

五三六 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方ノ債務ノ履行ノ受領ニ付キ遲滞ノ責ニ任スヘキトキト雖モ同時履行ノ抗辯ヲナスヲ得ルヤ(大一一・判檢)

533 契約當事者雙方カ或債務ヲ負擔セル場合ニ於テモ必スシモ 雙務契約タラス其負擔債務カ互ニ對價ノ關係ヲ成セル場合始テ然 リトス (昭四・大審「評論一八卷一一號九六頁」)

廣告者カ其指定シタル行為ヲ爲スヘキ期間ヲ定メ
タルトキハ其取消權ヲ拋棄シタルモノト推定ス
◇五二四||承諾 通知・五二一||契約ノ申込。
第五百三十一條 廣告ニ定メタル行為ヲ爲シタル者
數人アルトキハ最初ニ其行為ヲ爲シタル者ノミ報
酬ヲ受クル權利ヲ有ス
數人カ同時ニ右ノ行為ヲ爲シタル場合ニ於テハ各
平等ノ割合ヲ以テ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス但報酬
カ其性質上分割ニ不便ナルトキ又ハ廣告ニ於テ一
人ノミ之ヲ受クヘキモノトシタルトキハ抽籤ヲ以
テ之ヲ受クヘキ者ヲ定ム
前二項ノ規定ハ廣告中ニ之ニ異ナリタル意思ヲ表
示シタルトキハ之ヲ適用セス
◇五二九||報酬ヲ與フル義務・五三二||契約ノ效
力。

第五百三十二條 廣告ニ定メタル行為ヲ爲シタル者
數人アル場合ニ於テ其優等者ノミニ報酬ヲ與フヘ
キトキハ其廣告ハ應募ノ期間ヲ定メタルトキニ限
リ其效力ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ應募者中何人ノ行為カ優等ナル
カハ廣告中ニ定メタル者之ヲ判定ス若シ廣告中ニ
判定者ヲ定メザリシトキハ廣告者之ヲ判定ス
應募者ハ前項ノ判定ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ
得ス
數人ノ行為カ同等ト判定セラレタルトキハ前條第
二項ノ規定ヲ準用ス

◇五三〇||項||取消權ノ拋棄。
第五百三十三條 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ
其債務ノ履行ヲ提供スルマテハ自己ノ債務ノ履行
ヲ拒ムコトヲ得但相手方ノ債務カ辨濟期ニ在ラサ
ルトキハ此限ニ在ラス
◇四一五||損害賠償ノ請求・四九三||供託。

第二款 契約ノ效力

五三三 雙務契約ノ性質及效力(大・一五・專・村上)
〔共同〕五三四―五三九〔關係〕四一五・四九三
同時履行ノ抗辯(大七・行。大・一五・專・村上。昭二・
京・官本。昭三・辯。昭五・中・大森。昭五・明・磯谷。
昭六・東北・勝本)
甲購買ヲ求ムル爲メ送本シ乙之ヲ拒絶シタリ、甲
返送ヲ求メ乙送料ノ送金ヲ請求セリ、甲之ニ應ス
ル義務アリヤ(大・一三・東・末弘)〔關係〕七〇二
雙務契約ニヨリテ發生シタル各債權行使上ノ關係
(大・一五・京・官本)〔關係〕四一五・四九三
甲賣掛代金支拂ヲ請求セシモ目的物引渡債務不履
行ヲ理由トシテ爲シタル乙ノ拒絶ハ正當力(大・四・
中・末弘)〔關係〕四一五・四九二
雙務契約履行ノ原則ト一方ノ不履行ニヨル契約ノ
解除トノ關係(大五・東・土方)〔共同〕五四一〔關係〕

534 本條以下危險負擔ニ關スル規定ハ非強行規定ナリ (昭二・
東地「新報一三六號二〇頁」) 一所謂滅失ニハ權利ノ消滅ヲモ包
含ス (昭二・大審「大判二三七頁」)

第五百三十四條 特定物ニ關スル物權ノ設定又ハ移
轉ヲ以テ雙務契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其
物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅
失又ハ毀損シタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ債權者
ノ負擔ニ歸ス
不特定物ニ關スル契約ニ付テハ第四百一條第二項
ノ規定ニ依リテ其物カ確定シタル時ヨリ前項ノ規
定ヲ適用ス
◇五三五||停止條件附雙務契約・五三六||項||反
對給付ヲ受クル權利・五三六||項||但書・四一〇・
四一一。

問題

四九三・四一一
▽雙務契約ノ當事者甲相手方乙ニ對シ債務履行ヲ請
求ス乙ハ同時履行ノ抗辯提出シ裁判所之ヲ認メシ
トキノ判決(大五・法・末弘)〔關係〕四一五・四九三
▽雙務契約ノ當事者ノ一方ハ如何ナル場合ニ於テ履
行遲滞ノ責ニ任スヘキヤ(大五・判檢)
五三四 不特定物ノ賣買ト賣主ノ瑕疵擔保ノ責任
(昭三・明・霜山)〔關係〕五三五・五三六・四一〇・四
一一・五七〇・五六六・五七一・五七二・商二八八
▽落丁アル六法全書ノ給付ヲ受ケタル債權者甲カ債

務者乙ニ對シテ有スル請求如何(昭六・日・杉ノ原)
〔共同〕五三五・五三六・五七〇・五六六
債務者カ債務ノ目的物特定物ヲ供託シタル後不慮
ノ天災ニヨリテ該供託物滅失セリソノ危險負擔如
何但供託物ノ滅失原因ハ債權者カ供託受諾ノ意思
表示前ト假定ス(昭六・京・中島)〔關係〕五三六・四
九四・四九六
危險負擔(大五・大六・大七・司口。大七・辯。大八・
昭五・行口。大・一四・中・村上。昭二・京・中島)
危險負擔ニ關スル主義(大・四・東・富井)
危險負擔ニ關スル債權者主義ト債務者主義(昭
六・中・三彌)
雙務契約ニ於ケル危險負擔(大元・三・行。大三・日)
特定物ニ關スル危險負擔ノ原則(大・一五・明・大谷。
昭二・日・大丸)
甲ハ馬ヲ千圓ニテ乙ニ賣却セル翌日丙ハ千五百圓
ニテ買受ケテ申込ム、甲引渡ナキヲ奇貨トシ之ヲ
承諾セシカ、丙ニ對スル履行前落雷ニテ馬死セリ、
依テ甲ハ第五三四條ニ基キ乙、丙ニ代金ヲ請求セ
リ、正當ナリヤ(大五・中・末弘)〔關係〕五三五・五
三六・一七六・一七八
自ら選ヒ來リシ書籍ニ落丁アリシ場合ノ法律關係
(大・一三・東・穗積)〔共同〕五七〇―五七二

第五百三十五條 前條ノ規定ハ停止條件附債務契約ノ目的物カ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ滅失シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百三十六條 前二條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外當事者雙方ノ實ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ債務履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ有セス

五三六 甲、乙ヨリ注文ヲ受ケ米俵ヲ運送ニ附シタルモ積込船沈没ス甲ハ乙ニ代金支拂ヲ請求シウルヤ(大元・東・富井) 五三四・五三五

540 訴狀ノ送達ニ因ル契約解除ノ意思表示ハ其取下ニ因リ失効セス(昭四・大審「評論一九卷三號一〇五頁」)

第五百三十七條 契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其第三者ハ債務者ニ對シテ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有ス

第五百三十八條 前條ノ規定ニ依リテ第三者ノ權利カ發生シタル後ハ當事者ハ之ヲ變更シ又ハ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

京・菅原(共) 五三八・五三九(獨) 商四〇二・四二八ノ二

問題

五三七 第三者ノ爲メニスル契約ニ於ケル受益者タル第三者ノ權利ト受納者ノ權利トノ關係(大一一・

五三六 甲、乙ヨリ注文ヲ受ケ米俵ヲ運送ニ附シタルモ積込船沈没ス甲ハ乙ニ代金支拂ヲ請求シウルヤ(大元・東・富井) 五三四・五三五

541 催告ニ一定期間ヲ明示セスト雖モ催告後相當期間ヲ過ルモ履行ナキトキハ契約ヲ解除シ得(昭六・大審「評論二〇卷四號七五頁」) 一催告ハ債務者カ履行意思ナキコト明カナル場合ト雖モ之ヲ必要トス(昭三・大審「評論一八卷四號二九頁」)

543 本條ハ解除權行使ハ既存損害求償權ノ行使ヲ妨ケサル趣旨ナリ(昭六・大審「評論二〇卷七號三三頁」)

第五百四十一條 當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
△四九三 〓 辨濟ノ提供・四二二 〓 遅延ノ責任。
第五百四十二條 契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サスシテ直チニ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
△四九三 〓 辨濟ノ提供・五四一 〓 契約ノ解除。
第五百四十三條 履行ノ全部又ハ一部カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ不能ト爲リタルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
△四九三 〓 辨濟ノ提供・四一五 〓 損害賠償ノ請求。

問題

ニ生シタル物權ノ移轉ニ及ホス效果(大一〇・行)
(例) 一七七・一七八
△甲・乙店ニ獨逸内會社製ノ機械ヲ注文セルニ品切レノタメ乙店ハ後日甲者ニ供給スルコトヲ約セリ丙會社ハ乙店ノ注文ニヨリ日本ニ機械ヲ運送中戰亂起リ其機械ヲ積込メル船ハ敵艦ニ拿捕セラ

レタリ、甲ハ期限ニ至ルモ乙店カ履行ヲ爲ササルヲ以テ乙店ニ對シ損害賠償ヲ請求セリ、然ルニ乙店ハ自ラ機械ヲ供給スヘキ債務ヲ免レ甲カ代金ヲ支拂フヘキヲ主張セリ、何レカ正當カ(大三・行)
五四一 雙務契約解除ノ法定要件(大一〇・判檢)
(例) 五四二・五四三・五四四
△雙務契約履行ノ原則ト一方ノ不履行ニヨル契約ノ解除トノ關係(大五・東・土方)(共) 五三三(例) 四一五・四九三・四二二
△契約解除ノ發生原因(大一四・明・大谷)(共) 五四〇・五四一・五四三
△甲ハ乙ニ紙價ヲ賣リ乙ノ數同ノ督促ニモ引渡サスソノ後價格暴落ニ及ヒテ履行ノ提供ヲ爲シ乙カ代金支拂ハサルニ依リ相當ノ期間ヲ定メテ催告後契約ヲ解除シ損害賠償ヲ請求ス、正當ナリヤ(大一四・東・鳩山)(例) 五五五・四一五・四九三・五三三・五四五・五四六
△七月三日甲乙契約シ代金三百六十圓中百二十圓ヲ内金トシテ乙ハ受取ル、乙期限ニ至ルモ不履行、甲ハ八月二十日十月二日ノ兩回至急履行セヨト催告シ十一月トナル、甲ハ如何ナル手段ヲトリ得ルカ(昭四・東・穂積)(例) 五四五・五五七
五四三 甲ハ家屋ヲ一萬圓ニテ乙ニ賣ル契約ヲナシ

545 解除權ハ債權契約ヲシテ初メヨリ存在セサリシト同一效果ヲ生セシムルヲ目的トスル權利ニシテ債權契約當事者又ハ全法律關係ニ付其地位ヲ承繼セル者ニ於テノミ之ヲ有シ得ヘシ(昭三・大審「評論一七卷民四〇三頁」)

第五百四十四條 當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テハ契約ノ解除ハ其全員ヨリ又ハ其全員ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ解除權カ當事者中ノ一人ニ付キ消滅シタルトキハ他ノ者ニ付テモ亦消滅ス
△五四〇 〓 相手方ニ對スル意思表示ニ因ル解除・五〇二 〓 代位者ト債務者間ニ於ケル代位ノ效果。
第五百四十五條 當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金銭ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス
解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
△五四六 〓 債務ノ履行ノ拒絶・七〇三 〓 返還ノ義務・六二〇 〓 貸借ノ解除・六三〇 〓 雇傭・六五二 〓 委任・六八四 〓 組合契約・四〇四 〓 利息ヲ生スヘキ債權・四一五 〓 四二一・五五七 〓 項・六二一・六三二・六四二 〓 項・六二八・五六二 〓 項・六一・五六一・五六三 〓 項・五六五・五六七 〓 項。

問題

手附トシテ一千圓ヲ受取リ九千圓ハ之ヲ丙ニ與フルコトトセルモ甲カソノ一部ヲ毀損シタルトキノ法律關係(昭五・京・末川)(例) 五五七・五四九・五

五〇・四九三・四一五
△履行不能ノ契約ニ及ホス效果(大九・行)(共) 五三六
五四四 契約ノ一部解除(大一一・辯)(例) 五六三
五四五 契約解除ノ效果(八七・判) 大九・中・横田。
大一〇・京・菅原。大一一・專・村上。昭五・明・栗山)(例) 五四六・五三三・七〇三・六二〇・六三〇・六五二・六八四・四〇四・四一五・四二一・五五七・六二一・六三一・六四二・六二八・五六二・六四一・四六一・五六三・五六五・五六七
△契約解除ノ效果ト買戻效果(昭四・明・霜山)(共) 五七九(例) 五四六・五三三・五八〇 〓 五八五
△甲乙間ニ買賣契約成立、甲ハ代金債權ヲ丙ニ讓渡シ乙ニ之ヲ通知セシカ甲カ債務不履行ノ故ヲ以テ乙ハ該契約ヲ解除シタリ、丙ノ代金債權ノ影響如何(昭二・東・末弘)(例) 五五五・五四一・五四五
△解除權ノ效果(大五・法・末弘。昭四・中・佐々木)(例) 五三三・五七九
△契約解除ニ因ル原狀回復ノ性質(大一〇・辯)

第五百四十六條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百四十七條 解除權ノ行使ニ付キ期間ノ定ナキトキハ相手方ハ解除權ヲ有スル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ解除ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ其期間内ニ解除ノ通知ヲ受ケサルトキハ解除權ハ消滅ス

第五百四十八條 解除權ハ消滅スル意思表示ニ因ル解除。五四八ノ解除權ノ消滅。五四四ニ項ニ解除權行使ノ方法。二六七ニ項。

第五百四十九條 贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ行爲又ハ過失ニ因リテ著シク契約ノ目的物ヲ毀損シ若クハ之ヲ返還スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ加工若クハ改造ニ因リテ之ヲ他ノ種類ノ物ニ變シタルトキハ解除權ハ消滅ス

第二節 贈與

第五百四十九條 贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フル意思ヲ表示シ相手方カ受諾ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十條 書面ニ依ラサル贈與ハ各當事者之ヲ取消スコトヲ得但履行ノ終ハリタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

◇一二〇・一二三ニ取消シ得ヘキ行爲取消方法。民
一一三四。破七二五。
第五百五十一條 贈與者ハ贈與ノ目的タル物又ハ權利ノ瑕疵又ハ欠缺ニ付キ其實ニ任セス但贈與者カ其瑕疵又ハ欠缺ヲ知リテ之ヲ受贈者ニ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

第二節 贈與

第五百五十二條 定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ
◇三一〇失贈ノ宣告。一〇八七以下。
第五百五十三條 負擔附贈與ニ付テハ本節ノ規定ノ外義務契約ニ關スル規定ヲ適用ス
◇五三三ニ雙務契約當事者。五三四ニ特定物ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉ヲ以テ雙務契約ノ目的ト爲シタル場合。五三三・五三四。
第五百五十四條 贈與者ノ死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ贈與ハ遺贈ニ關スル規定ニ從フ
◇三一〇失贈ノ宣告。一〇八七以下。

555 特定不動産ニ付賣買契約成立シタレハトテ常ニ必ス之ト同時ニ其所有權ノ移轉ヲ生スルモノト謂フヲ得ス (昭三・大審「評論一八卷三號九五頁) 一或金錢債務ノ負擔者カ其所有物ヲ債權者ニ賣渡シ其代金ト右債務トノ相當額ニ於テ決済スルト共ニ或期間ニ右相當金額ヲ債務者ヨリ債權者ニ支拂フトキ當該所有權ヲ回復スルヲ得ト定ムルトキ此取引ヲ賣渡擔保ト云フ (昭六・大審「評論二〇卷六號六三頁」)

第五百五十二條 定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ
◇三一〇失贈ノ宣告。一〇八七以下。
第五百五十三條 負擔附贈與ニ付テハ本節ノ規定ノ外義務契約ニ關スル規定ヲ適用ス
◇五三三ニ雙務契約當事者。五三四ニ特定物ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉ヲ以テ雙務契約ノ目的ト爲シタル場合。五三三・五三四。
第五百五十四條 贈與者ノ死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ贈與ハ遺贈ニ關スル規定ニ從フ
◇三一〇失贈ノ宣告。一〇八七以下。

第三節 賣買

第一款 總則

第五百五十五條 賣買ハ當事者ノ一方カ或財產權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス
◇商二八六ニ商人間ノ賣買。二八七以下。
第五百五十六條 賣買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示シタル時ヨリ賣買ノ效力ヲ生ス
前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ賣買ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其效力ヲ失フ

五五五 有債契約ト雙務契約トノ異同(大一五・中・村山)
▽賣買ノ法律上性質(大一四・明・大谷。昭五・日・沼)
▽賣買ハ債權契約ナリヤ物權契約ナリヤ(大一五・專・村上) (關例) 商二八六以下
▽賣買契約ニ關スル費用ノ負擔者如何(昭五・日・沼) (共) 五五八・四八五・四八四
▽賣買ト交換及請負トノ差異(昭三・中・村上) (共) 五八六・六三二
五五六 賣買豫約(昭二・外。昭五・中・大森。昭六・京・末川)
▽賣買豫約ノ性質(昭五・明・霜山)
▽賣買豫約ノ效力(昭二・外)
▽自備機ニヨル賣買(大一四・關・島賀陽)
▽甲ノ所有セル特定物ニ就キ乙ト賣買豫約ヲ爲シ乙カ賣買完結ノ意思表示前ニ其物カ滅失毀損セル時ハ、其危險ハ何人ノ負擔トナルカ(昭五・明・栗山)
▽賣買豫約ト買戻特約トノ差異(大一・中・横田) (共) 五七九・五八三
▽豫約トハ何ソヤ(昭六・京・末川) (關例) 五八九

560 他人ノ物モ賣買ノ目的物アリ得ルヲ以テ目的物ノ歸屬如何ハ賣買契約ノ要素トラス (昭三・朝高「朝司協七卷八號四五頁」)

○四五〇 保證人タルノ要件・九二 償習。
○四五五 賣買契約ニ關スル費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス。
○五五九 本節ノ規定ハ賣買以外ノ有價契約ニ之ヲ準用ス但其契約ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第五百五十七條 買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スルマテハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第五百四十五條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス
○四五〇 保證人タルノ要件・九二 償習。
○四五五 賣買契約ニ關スル費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス。
○五五九 本節ノ規定ハ賣買以外ノ有價契約ニ之ヲ準用ス但其契約ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

問題

第五百六十條 他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタルトキハ賣主ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負フ
○五六一 契約ノ解除。
第五百七 手附(大一四・京・官本。昭五・日・中尾。昭五・日・明・霜山)
▽手附ノ性質及效力(昭三・明・霜山)
▽手附ノ效力(昭三・日・矢口)
▽手附ニ付テノ民法ノ推測規定(昭二・日・大・大丸)

▽手附授受ノ效力(大一・京・菅原)
▽外國人ニ土地ヲ賣ル契約ヲ爲シ金千圓ノ手附ヲ受取レリ、當該外國人ハ土地ノ所有ヲ禁セラレ居タリ、右手附ハ返還スヘキカ(昭三・東・穂積) (國例) 九五・九二・九〇・七〇八
第三節 賣買
第一款 總則
五五八 賣買契約ニ關スル費用ノ負擔者如何(昭五・日・沼) (國例) 四八五・四八四
五六〇 民法ニ於ケル賣買保護制度(昭二・東・穂積。昭三・行) (國例) 一七六・五七五・一七七・四六七・五六一・五六四・五七一・五六六・五六七・五六五・五七〇・五六九
▽甲著名畫家乙ニ報酬ヲ支拂フコトヲ約シテ揮毫ヲ依頼セリ然ルニ甲、乙ナリト信セシモノハ無名ノ丙ナリキ、甲ノ爲セシ契約ノ效力如何(大一四・京・菅原) (國例) 五六一・五六二 (國例) 五四〇
▽賣主ノ義務(大一五・外)

561 本條ノ解約ハ第五四三條ノ解除ニ非サル故ニ履行不能カ債務者即賣主ニ歸スヘキ事由ニ因リタルコトヲ必要トセス (昭四・官控「評論一八卷六號八〇頁」)

第五百六十一條 前條ノ場合ニ於テ賣主カ其賣却シタル權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但契約ノ當時其權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
○五四〇 相手方ニ對スル意思表示ニ因ル解除。
四一五 一四一八 損害賠償。五六二 一五六五。
第五百六十二條 賣主カ契約ノ當時其賣却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ知ラザリシ場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ賣主ハ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ賣主ハ買主ニ對シ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉スルコトヲ能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
○五四〇 契約ノ解除・五六一 損害賠償ノ請求。
五七二・四一五 一四一八・五六一 但書。
第五百六十三條 賣買ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ賣主カ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミナレハ買主カ之ヲ買受ケサルヘカリシトキハ善意ノ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ノ買主カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
○五六四 惡意ノ買主ト代金減額請求權・五七一 一五七二 指圖債權ノ證書・五四〇 契約ノ解除・五六五・四一五 一四一八
第五百六十四條 前條ニ定メタル權利ハ買主カ善意ナリシトキハ事實ヲ知リタル時ヨリ惡意ナリシトキハ契約ノ時ヨリ一年內ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス
○五七一 一五七二 指圖債權ノ證書。
五六一 民法ニ於ケル買主保護ノ制度(昭二・行) (國例) 五六〇・五六二 一五六七・五七〇 (國例) 一七六・五七五・一七七・四六七・五六九
五六三 他人ノ物ノ賣約(大一三・日・菅原) (國例) 五六四 (國例) 五六五・五七一・五七二・五四〇・四一五 四六一 一四一八
▽他ノ土地ナルヲ知ラスシテ賣渡シタルトキノ賣主買主ノ權利義務(大一五・專・村上) (國例) 五六四

第五百六十五條 數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ一部カ契約ノ當時既ニ滅失シタル場合ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラザリシトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

○五七一—五七二

第五百六十六條 賣買ノ目的物カ地上權、永小作權、地役權、留置權又ハ質權ノ目的タル場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラザリシトキハ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ限り買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動産ノ爲メニ存セリト稱セシ地役權カ存セザリシトキ及ヒ其不動産ニ付キ登記シタル質貸借アリタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

○五七一—五七二 指圖債權ノ證書・二六五 地上權者・二七〇—永小作人・二八〇 地役權者・二九五 留置權ノ意義・三四二、五六三、二項、八項、四一五—四一七、借家法一、二項、民二八〇、六〇五。

第五百六十七條 賣買ノ目的タル不動産ノ上ニ存シタル先取特權又ハ抵當權ノ行使ニ因リ買主カ其所存ノ權ヲ失ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

コトヲ得

買主カ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ買主ニ對シテ其出捐ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

右執レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

○五六六 損害賠償ノ請求・五七二 擔保責任ニ關スル特約ノ制限・三二五 不動産ノ先取特權・三六九 一般ノ先取特權・三六一 不動産質・三七七 抵當不動産・三四一 先取特權ノ效力・五八〇 擔保ニ因ル代位・四一七 保證債務・三七八以下。

五六五 賣買契約ノ目的物カ數量ニ於テ不足シタルトキノ買主ノ權利(大ニ明) (共) 五六三、五六四、五七〇、五六六、五七一、五七二、四一五、四九三

五七〇 賣買ノ目的物ノ數量ノ不足ヨリ生スル賣主ノ擔保義務(大九、明、横田) (共) 五六六、五七一、五七二、商二八八

瑕疵擔保責任(大三、法。大一〇、中、村上。大一三、中、村上。大一五、中、村上。昭四、司口) (共) 五六六、五七一、五七二、商二八八

自ら運ヒ來リシ書籍ニ落丁アリタル場合ノ法律關係(昭三、東、藤積。昭六、日、杉ノ原) (共) 五七一、五七二、五三四

新刊書ヲ買ツテ三日使用後落丁ヲ發見シタ、買主ニハ如何ナル法律の救済アリヤ(昭六、東、末弘)

新刊書ニ落丁アリタル場合ノ法律關係、古本ノ場合ノ法律關係(昭五、東、藤積)

目的物ノ瑕疵ニヨル擔保責任ニ關スル第五百七十條ハ不特定物ノ賣買ニモ適用アリヤ(大八、東、鳩山) (共) 四一五、四九三、五四一、五四五

本條ハ不特定物ニモ適用アリヤ又民法九五條トノ關係如何(昭六、九、川尾)

甲乙間ニ賣買契約成立シ買主甲ハ米百俵ヲ受取リタル所全部蟲喰ナルニヨリ五七〇條ニ基キ右契約ヲ解除シ損害賠償ヲ請求セントス有效ナリヤ(大一一、關、入江) (共) 五七一、五七二、商二八八、民四一五、四九三、五四〇、五四一、五四五、五三三

568 本條第二項ノ強制執賣ニハ抵當權實行ノ爲メノ賣買ヲモ包含ス(大一四、東、控「法新二四六七號五九九三頁」)

570 瑕疵其モノカ個々ノ物體ノ外部ニ露出シ何等ノ機轉ヲ藉ラス容易ニ認識シ得ヘキ場合モ多數物件ニ付一々點檢シテ始メテ之ヲ發見スルコトヲ得ル場合ニハ所謂隠レタル瑕疵ニ外ナラス(昭三、大審「評論一八卷四號一〇八頁」)

第五百六十八條 強制執賣ノ場合ニ於テハ執賣人ハ前七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對シテ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債務者カ無資力ナルトキハ執賣人ハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ債務者カ物又ハ權利ノ欠缺ヲ知リテ之ヲ申出デス又ハ債權者カ之ヲ知リテ賣買ヲ請求シタルトキハ執賣人ハ其過失者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

○五七二 擔保責任ニ關スル特約ノ制限・五四六 契約ノ效力・四一七 損害賠償。民訴六四〇、六四二以下。執賣法二二以下。

第五百六十九條 債權ノ賣主カ債務者ノ資力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

辨濟期ニ至ラサル債權ノ賣主カ債務者ノ將來ノ資力ヲ擔保シタルトキハ辨濟ノ期日ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

○五七一 履行ノ拒絶。

第五百七十條 賣買ノ目的物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ第五百六十六條ノ規定ヲ準用ス但強制執賣ノ場合ハ此限ニ在ラス

○五七一 履行ノ拒絶。五七二 擔保ニ關スル特約ノ制限。商二八八。

574 本條ノ規定ハ既ニ賣買ノ目的物ノ引渡ヲ了シタル後ニ於テハ其適用ナシ(昭二・大審「大判七四三頁」)

575 競落人ハ競落代金全額ノ支拂前ニ在リテハ競落不動産ヨリ生スル果實其他ノ金錢上ノ利益ヲ享有スルコトヲ得ス(大一四・東區「法新二五六七號一五頁」)

第五百七十一條 第五百三十三條ノ規定ハ第五百六十三條乃至第五百六十六條及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十二條 擔保ニ關スル特約ノ制限。

第五百七十三條 賣買ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定ス

第五百七十四條 賣買ノ目的物ノ引渡。一三五〇期限附ノ法律行為ノ效力。二三六〇期限ノ利益ノ推定。一三七〇期限ノ利益ノ喪失。

第五百七十五條 賣買ノ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ拂フヘキトキハ其引渡ノ場所ニ於テ之ヲ拂フコトヲ要ス

第五百七十六條 履行ノ拒絶。五七三〇賣買ノ代金支拂時期。四八四〇擔保ヲ爲スヘキ場所。

第五百七十七條 未タ引渡ササル賣買ノ目的物カ果實ヲ生シタルトキハ其果實ハ賣主ニ屬ス

第五百七十八條 買主ハ引渡ノ日ヨリ代金ノ利息ヲ拂フ義務ヲ負フ但代金ノ支拂ニ付キ期限アルトキハ其期限ノ到來スルマテハ利息ヲ拂フコトヲ要セス

第五百七十九條 賣買ノ目的物ノ引渡。八八一八九〇天

然果實。四〇四〇利息ヲ生スヘキ債權。五七三〇履行ノ拒絶。

第五百七十六條 賣買ノ目的ニ付キ權利ヲ主張スル者アリテ買主カ其買受ケタル權利ノ全部又ハ一部ヲ失フ虞アルトキハ買主ハ其危險ノ限度ニ應ジテ金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但買主カ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十八條 未タ引渡ササル賣買ノ目的物ニ生シタル果實。五六三〇賣買ノ效力。

五七一 買主カ代金支拂ヲ拒ミ得ル一切ノ場合(大ニ法) 五七六・五七七 五三三・五七三・五七四・五七八

五七四 買主ノ義務(大一四・明・大谷) 五七五

五七八 買主ノ義務(五七三・五三三・四八四・四〇四・四九三・四九四・四九八)

買主ニ引取義務アリヤ(大四・關・鳥賀) 五七三・五三三・四八四・一七六一・一七八・四六六・五七一・五四五・商二八六・二八九・六九〇・五五五

五七六 買主ノ代金拒絶抗辯及之ニ對スル賣主ノ抗辯(昭四・中・佐々木) 五七七・五七八

五六三・一七七・三七八・三八六・三四一・三六一

買主カ代金支拂ヲ拒ミウル一切ノ場合(大二・法) 五七一・五七七 五三三・五七三・五七四・五七八

580 當事者カ契約ヲ以テ始期ヲ附シタル買戻期間ヲ定メタル場合ニアリテモ其始期ヨリ進行スル期間カ買戻契約成立ノ日ヨリ十年内タルヲ要ス(昭三・大審「法新二九五二號一七頁」)

第五百七十七條 買受ケタル不動産ニ付キ先取特權。買主ハ抵當權ノ登記アルトキハ買主ハ擔除ノ手續ヲ終ハルマテ其代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但買主ハ買主ニ對シテ遲滯ナク擔除ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

一七七〇 不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更。三四一〇 先取特權ノ效力。三六一〇 不動産質。三七八〇 三七八〇 五七八〇

第五百七十八條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ買主ニ對シテ代金ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

四九二〇 擔保提供。四九四〇 四九六〇 四九八〇 供託ノ效果。四九五〇 供託ノ手續。四九七〇 代價ノ供託。

第三款 買戻

第五百七十九條 不動産ノ賣主ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ依リ買主カ拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還シテ其賣買ノ解除ヲ爲スコトヲ得但當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ不動産ノ果實ト代金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス

五五五〇 賣買ノ目的。五八〇〇 買戻ノ期間。五四〇〇 五四五〇 契約ノ解除權。五八一〇 一項ノ買戻ノ特約ノ登記。五八三〇 買戻ト費用償還義務。五三三〇 三八八〇 四〇四〇

第五百八十條 買戻ノ期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ十年ニ短縮ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

民法三一但書ノ殘期。三二一・三四。

五七九 契約解除ノ效果ト買戻ノ效果(昭四・明・霜山) 共 五四五 五四六・五三三・五八〇 五八五

買戻ノ性質(昭五・明・磯谷) 五五五・五八〇・五四〇・五四五・五八一・五八三・五三三・八八・四〇四

不動産登記法第三八條ノ買戻ノ要件(昭二・日・大丸) 共 五八〇 一五八三

賣買豫約ト買戻特約トノ差異(大一・中・横田) 五五六・五八〇 一五八三

買戻權行使ノ效果(大四・中・末弘)

甲、乙ニ不動産ヲ賣渡スニ當リ他日之ヲ取戻サンカタメニハ如何ナル方法アリヤ(大元・辯)

583 不動産買戻ノ意思表示ニ付テハ其不動産ニ關スル修繕費ノ如キハ之カ提供ヲ要ス(昭二・東控「評論一六卷民一〇一六頁」)

第五百八十一條 買賣契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻ハ第三者ニ對シテモ其効力ヲ生ス

登記ヲ爲シタル貸借人ノ權利ハ其殘期一年間ニ限リ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得但賣主ヲ害スル目的ヲ以テ貸借ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラズ

○五四五項但書第三者ノ權利・六〇五項不動產ノ貸借

第五百八十二條 賣主ノ債權者カ第四百二十三條ノ規定ニ依リ賣主ニ代ハリテ買戻ヲ爲サント欲スルトキハ買主ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ不動產ノ現時ノ價額ヨリ賣主カ返還スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ違スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ向ホ餘利アルトキハ之ヲ賣主ニ返還シテ買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得

○非訟八四・二九

第五百八十三條 賣主ハ期間内ニ代金及ヒ契約ノ費用ヲ提供スルニ非サレハ買戻ヲ爲スコトヲ得ス買主又ハ轉得者カ不動產ニ付キ費用ヲ出クシタルトキハ賣主ハ第九十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ償還スルコトヲ要ス但有益費ニ付テハ裁判所ハ賣主ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許スルコトヲ得

○五四六項履行ノ拒絕・五八〇項買戻ノ期間・二九五項留置權ノ意義・一三五―一三七

第五百八十四條 不動産ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特

約ヲ以テ其持分ヲ賣却シタル後其不動産ノ分割又ハ競賣アリタルトキハ賣主ハ買主カ受ケタル若クハ受クヘキ部分又ハ代金ニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得但賣主ニ通知セシメテ爲シタル分割及ヒ競賣ハ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得ス

○二五八項分割・五八五項不動産ノ所有權ノ取得・競賣法二二以下

第五百八十五條 前條ノ場合ニ於テ買主カ不動産ノ競賣人ト爲リタルトキハ賣主ハ競賣ノ代金及ヒ第五百八十三條ニ掲ケタル費用ヲ拂ヒテ買戻ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賣主ハ其不動産ノ全部ノ所有權ヲ取得ス

他ノ共有者ヨリ分割ヲ請求シタルニ因リ買主カ競賣人ト爲リタルトキハ賣主ハ其持分ノミニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

○五八〇項買戻ノ期間・競賣法二二以下

五八一 買戻ノ特約ノ第三者ニ對スル効力(大・三・日・實錄)(關例)五四五・一・六〇五

587 金錢ノ消費貸借カ成立スル爲ニハ現實ニ金錢ノ授受アルカ若クハ借主ヲシテ之ト同一ノ經濟上ノ利益ヲ得シムル場合ナルヲ要ス(昭四・大審「評論一九卷二號四〇頁」)一金錢貸借ニ當リ包括的ニ金何圓トシ内一部ヲ授受シ殘部ハ用途ヲ定メテ貸與者ニ預ケ置クカ如キ場合ニ於テハ全部ノ金員ニ付消費貸借成立ス(昭四・大控「評論一八卷一二號八頁」)

588 既存ノ金銀其他代替物ノ給付ヲ目的トスル債務カ消費貸借

第四百節 交換

第五百八十六條 交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非サル財產權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其金錢ニ付テハ賣買ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス

○五五九項賣買以外ノ有價契約

第五節 消費貸借

第五百八十七條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及ヒ數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ因リテ其効力ヲ生ス

○一八二項占有的讓渡・一八三・一八四項占有權ノ取得・五八八項消費貸借ノ成立ノ推定・六六六項消費貸借ニ關スル規定ノ準用

第五百八十八條 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス

○五八七項消費貸借ノ成立ノ推定

第五百八十九條 消費貸借ノ豫約ハ兩後當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其効力ヲ失フ

○破一二六一―一二九

第四百節 交換

五八六 買戻ト交換トノ差異(昭三・中・村上)(共)五五五

第五節 消費貸借

五八七 消費貸借ハ如何ナル種類ノ契約カ(大五・日三宅・昭三・行口)

消費貸借ノ成立要件ト使用貸借ノ成立要件トノ比較(大・一五・明・大谷)(共)五九三(關例)一八二・一八三・一八四・五八八・六六六・四〇〇

消費貸借ノ使用貸借ノ異同(昭四・京・末川・昭四・關・實錄)(共)五九三・六〇一

消費貸借契約ハ現實ニ物ノ授受アルニ非サレハ成立セサルヤ(大・二・明)(共)五二二・五二四(關例)五二二・五二三・五二六

定期預金ノ法律上ノ性質(大・二・東・穂積)(共)六六六(關例)五八七・五九〇・五九二

五八九 準消費貸借(昭三・司口・昭五・司口)(關例)五八七

＝基ク場合ト雖當事者ガ其物ヲ以テ新ナル消費貸借ノ目的トスヘキコトヲ約スルトキハ之ニ因リ新消費貸借所謂準消費貸借成立ス(昭三・大審「法新二八九一號九頁」) 一準消費貸借ノ契約ヲ現實ノ消費貸借ノ形ニ於テ締結スル公正證書ハ有效ナリ(昭二・東控「法新二七三五號一三頁」)

第五百九十九條 利息附ノ消費貸借ニ於テ物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ貸主ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス但シ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

無利息ノ消費貸借ニ於テハ借主ハ瑕疵アル物ノ價額ヲ返還スルコトヲ得但借主カ其瑕疵ヲ知リテ之ヲ借主ニ告ケサリシトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

◇五五九ノ賣買以外ノ有價契約・五七二ノ擔保責任ニ關スル特約ノ制限・五六一ノ損害賠償ノ請求・五六二ノ損害賠償ト契約ノ解除・五六三―五六七

第五百九十一條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ得

借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

◇四八四ノ辨濟ヲ爲スヘキ場所

第五百九十二條 借主カ第五百八十七條ノ規定ニ依リテ返還ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ其時ニ於ケル物ノ價額ヲ償還スルコトヲ要ス但第四百二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

◇四一五ノ損害賠償

第六節 使用貸借

第五百九十三條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使用及ヒ收益ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生

◇一八二二項ノ占有權ノ讓渡・一八三・一八四ノ占有權ノ取得・四〇〇ノ債務者ト善良ナル管理者ノ注意

第五百九十四條 借主ハ契約又ハ其目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ要ス

借主ハ貸主ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得ス

借主カ前二項ノ規定ニ反スル使用又ハ收益ヲ爲シタルトキハ貸主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

◇六〇〇ノ損害賠償ト費用ノ償還・六二〇ノ貸貸借ノ解除・五四〇―五四八

五九〇 消費貸借ニ於ケル目的物引渡(大七・日・三宅) [國例] 五八七・五五九・五六一―五六七・五七二

五九三 使用貸借ハ如何ナル種類ノ契約ナルカ(大五・日・三宅)

第六節 使用貸借

貸貸借ト使用貸借トノ異同(大二・東・仁井田。大五・法・立石、昭六・日・沼) [共通] 六〇一

601 貸貸人ハ目的物ヲ貸借人ニ引渡シタル後モ貸借人ヲシテ之カ使用收益ヲ爲サシムルコトニ協力スヘキ積極的義務ヲ負擔ス(昭五・大審「評論二〇卷二號三〇頁」)

第五百九十五條 借主ハ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔ス

此他ノ費用ニ付テハ第五百八十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

◇六〇〇ノ損害賠償ト費用ノ償還・二九五ノ留置權ノ意義

第五百九十六條 第五百五十一條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス

第五百九十七條 借主ハ契約ニ定メタル時期ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲スコトヲ要ス

當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ借主ハ契約ニ定メタル目的ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ終ヘリタル時ニ於テ返還ヲ爲スコトヲ要ス但其以前ト雖モ使用及ヒ收益ヲ爲スニ足ルヘキ期間ヲ經過シタルトキハ貸主ハ直チニ返還ヲ請求スルコトヲ得

當事者カ返還ノ時期又ハ使用及ヒ收益ノ目的ヲ定メサリシトキハ貸主ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

◇一三六ノ期限ノ利益ノ推定・四一二ノ債務者ノ遲滞・五九八ノ原狀回復・四八四ノ辨濟ヲ爲スヘキ場所

第五百九十八條 借主ハ借用物ヲ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得

◇二四二ノ不動産ノ從トシテ附合シタル物ノ所有權・四八四ノ辨濟ヲ爲スヘキ場所

第五百九十九條 使用貸借ハ借主ノ死亡ニ因リテ其

效力ヲ失フ

第六百條 契約ノ本旨ニ反スル使用又ハ收益ニ因リテ生シタル損害ノ賠償及ヒ借主カ出タシタル費用ノ償還ハ貸主カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年內ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

◇四一五―四一八ノ損害賠償

第七節 貸貸借

第一款 總則

第六百一條 貸貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其賃金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

◇五五九ノ賣買以外ノ有價契約・六一六ノ貸貸借ニ準用・三二二―三二六

第一款 總則

六〇一 貸貸借ハ如何ナル種類ノ契約カ(昭三・中村上。大五・日・三宅)

貸貸借ノ性質(大一一・行口。昭五・日・沼) [共通] 六〇二―六〇四

繼續的債權契約トソノ特色(昭五・早・中村) [共通] 六二三・六三二

消費貸借、使用貸借、貸貸借ノ異同(昭四・京・末川)

605 不動産ノ貸借ハ之ヲ登記スヘキ特約アルニ非サレハ貸借人ハ登記ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (大一四・朝高朝司 第五卷二號六〇頁)

第六百二條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其貸借ハ左ノ期間ヲ超スルコトヲ得ス

- 一 樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ貸借ハ十年
- 二 其他ノ土地ノ貸借ハ五年
- 三 建物ノ貸借ハ三年
- 四 動産ノ貸借ハ六ヶ月

第六百三條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間満了前土地ニ付テハ一年內建物ニ付テハ三ヶ月內動産ニ付テハ一ヶ月內ニ其更新ヲ爲スコトヲ要ス

第六百四條 貸借ノ存続期間ハ二十年ヲ超スルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ二十年ニ短縮ス 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但更新ノ時ヨリ二十年ヲ超スルコトヲ得ス

第六百五條 借地法及借家法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件。借地借家調停法。借地借家調停ノ手数料ニ關スル件。民六〇二。

第六百五條 第二款 貸借ノ效力 不動産ノ貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ其效力ヲ生ス

昭四・關・實應(共)五八七・五九三 貸借ト使用貸借トノ異同(大二・東・仁井田。昭五法・立石。昭六・日・沼) (法)五九三

六〇五 登記シタル貸借ノ效力(大三・法) (關) 三九五・不登法一・一二七・登稅二六・借家法一・一・南五五六・建物保護法

甲カ乙ニ敷金ヲ交付シテ其ノ所有家屋ヲ賃借セリ乙ハソノ家屋ヲ丙ニ讓渡セリ賃借終了ノ際甲ハ誰ニ對シテソノ敷金返還請求ヲナシ得ルカ、丙カ請求ヲ受ケルモノトセハ丙ハ乙ニ對シテ如何ナル權利ヲ有スルカ(昭六・東・藤) (關)四九九・五〇〇・借家法一・建物保護法 賃借物件ノ所有權ノ讓渡ハ賃借關係ニ如何ナル影響ヲ及ボスカ(昭六・明・霜山) (關)一七八・一七七・二七八・一八一以下・六〇一 或人ノ賃借地上ニ第三者カ不法ニ家ヲ建テツツア

第六百六條 賃借人ハ賃借物ノ使用及ビ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ 賃借人カ賃借物ノ保存ニ必要ナル行為ヲ爲サント欲スルトキハ賃借人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六百七條 賃借人カ賃借人ノ意思ニ反シテ保存行為ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ之カ爲メ賃借人カ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百八條 賃借人カ賃借物ニ付キ賃借人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出シタルトキハ賃借人ニ對シテ直チニ其償還ヲ請求スルコトヲ得

第六百九條 收益ヲ目的トスル土地ノ賃借人カ不可抗力ニ因リ借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其收

益ノ額ニ至ルマテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但宅地ノ賃借ニ付テハ此限ニ在ラス

六〇八 借家主甲家賃不拂ニヨリ家主乙借家契約ヲ解除シテ家屋ノ明渡ヲ請求シタリ甲ハ解除ニ先チ自ラ家屋ニ必要ナル修繕ヲ加ヘシ故乙カソノ費用ヲ償還スル迄請求ニ應セストノ主張ハ正當ナリヤ(昭四・東・末弘) (關)六二二・三二二・三二六

同上ノ場合修繕カ契約解除後ニ爲サレタルトキハ如何(昭四・東・末弘) (關)六〇〇・四一五・四一八・六九七・六九九・七〇二・七〇三

民法 債權 契約 貸借 貸借ノ效力 貸借ノ終了

617 家屋ノ貸借ハ其定メアリシコトノ證據ナキ限リ期間ノ定メナキモノト認ムルヲ相當トス (昭二・東地「評論一六卷民六四三頁」) 一第二項ノ規定ハ土地ノ利用ヲ完全ニ爲シ得サル處ヲ避ケン爲メノモノナレハ貸借人ノ解約申込カ收穫季節ニ爲サレタリトスルモ右ノ如キ處ナキ場合ハ其解約申込ヲ無効ト解スヘキニ非ス (昭二・大審「法新二七一九號九頁」)

第六百十五條 賃借物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ權利ヲ主張スル者アルトキハ賃借人ハ遲滞ナク之ヲ賃借人ニ通知スルコトヲ要ス但賃借人カ既に之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス
第六百十六條 賃借者ト善良ナル管理者ノ注意。六〇六二項ニ賃借人ノ義務。六〇六七ニ賃借人ノ契約ノ解除。
第六百十七條 當事者カ賃借ノ期間ヲ定メザリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申込ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃借ハ解約ノ申込ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス
一 土地ニ付テハ一年
二 建物ニ付テハ三月
三 貸借及ヒ動産ニ付テハ一日
收穫季節アル土地ノ賃借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ着手スル前ニ解約ノ申込ヲ爲スコトヲ要ス
第六百十八條 當事者カ賃借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留

第六百十九條 賃借ノ期間満了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃借人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前賃借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申込ヲ爲スコトヲ得
前賃借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ満了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス
第六〇四ニ賃借ノ存續期間。六二〇ニ賃借ノ解除ノ效果。三一六ニ敷金。借地法六一九。借家法二二六。
六一九 借家人甲家賃ヲ支拂ハサルニヨリ家主乙借家契約ヲ解除シテ明渡ヲ請求シタリ、甲ハ乙カ敷金ト滞納家賃トノ差額ヲ返還スル迄請求ニ應セストノ主張ハ正當カ (昭四・東・末弘) (共) 三一六。一二七

民法 債權 契約 貸借 貸借ノ效力

612 假令賃借人カ賃借物ノ一部ヲ轉貸シタル場合ト雖モ別段ノ意思表示ナキ限リハ賃借人ハ契約ノ全部ヲ解除シ得ヘシ (昭三・大審「評論一八卷一號八〇頁」) 一借地權カ建物ノ所有ヲ目的トスル場合ニ於テ其建物讓渡ノ届書ニ連署シタル土地所有者ハ特別ノ事情ナキ限リ借地權ノ讓渡ヲ承諾シタルモノト認ムヘシ (昭四・大審「評論一九卷二號四五頁」)

第六百十條 前條ノ場合ニ於テ賃借人カ不可抗力ニ因リ引續キ二年以上借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第六〇二〇ニ賃借ノ解除。二七五ニ永小作權ノ拋棄。五四〇一五四八。
第六百十一條 賃借物ノ一部カ賃借人ノ過失ニ因ラシテ滅失シタルトキハ賃借人ハ其滅失シタル部分ノ割合ニ應シテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第六〇六一項ニ賃借人ノ義務。六二〇ニ賃借ノ解除。五四〇一五四八。
第六百十二條 賃借人ハ賃借人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得
賃借人カ前項ノ規定ニ反シ三者ヲシテ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第六一三ニ讓渡ノ轉貸。六二〇ニ賃借ノ解除。六二二ニ讓渡。六四〇一五四八。借地法一〇。一一。
第六百十三條 賃借人カ適法ニ賃借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ賃借人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ賃借人ニ對抗スルコトヲ得
前項ノ規定ハ賃借人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行

使スルコトヲ妨ケス
六一二ニ賃借權ノ讓渡又ハ賃借物ノ轉貸。三一〇ニ不動産賃借ノ先取特權。三一三ニ土地ノ賃借人ノ先取特權。借地法一三一。一四。
第六百十四條 借賃ハ動産、建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季節後還滞ナク之ヲ拂フコトヲ要ス
六一二 賃借ノ讓渡 (大四・法) (關) 六一三。借地法一〇。一一。民五四〇一五四八。六二〇。六二二。六〇〇。
六一三 賃借人カ賃借物ヲ他人ニ轉貸シタルトキノ效果 (大ニ・關・吾孫子) (關) 三一一。三二四。六一二。借地法一三。一四。
六一四 賃借人カ賃借物ヲ轉貸シタル場合ニ於ケル轉借人ニ對スル賃借人、賃借人ノ法律關係 (大一一・早・中村) (關) 三一九。
六一四 賃借ニ於ケル借賃支拂ノ時期 (昭五・日・沼) (關) 二七三

623 甲カ乙ノ依頼ニ應ジ乙ノ家屋建設ニ際シ乙ノ指揮監督ノ下ニ勞務ニ服スハ常態ナル一種ノ雇傭契約ニシテ請負契約ニ非ス (大一五・東地「法新二六二二號一頁」)

第六百二十條 質貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
第六百二十一條 質借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ質貸借ニ期間ノ定アルトキト雖モ質貸人又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
第六百二十二條 第六百條ノ規定ハ質貸借ニ之ヲ準用ス

第八節 雇傭

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス
第六百二十四條 雇傭以外ノ有價契約ニ工場法二一〇・一七・附則。工場法施行令二一・二七・三三・三七以下。
第六百二十五條 借家人甲家賃ヲ支拂ハサルニヨリ家主乙ハ再三催告シテ遂ニ契約ヲ解除シ家屋ノ明渡ヲ請求ス

問題

六二〇 借家人甲家賃ヲ支拂ハサルニヨリ家主乙ハ再三催告シテ遂ニ契約ヲ解除シ家屋ノ明渡ヲ請求ス

セリ、然ルニ甲ソノ請求ニ應セス乙ハ之ヲ強制スル目的ヲ以テ兩戸及疊ヲ取外シテ持去レリ此乙ノ行爲ハ正當ナリヤ(大ニ法) (判例)六一七一六六九・六二一・四一四・民訴五六四以下・五九四以下六四〇以下・六二五・七一七・七三四・七三三・七三四・七三六・民四一六一四二一
質借人甲借賃ヲ支拂ハサルニヨリ質貸人乙ハ契約ヲ解除シテ質貸物ノ明渡ヲ請求ス、然ルニ甲ハ契約前ヨリ乙ニ對シ延滞賃借料ニ相當スル貸金債權ヲ有シタルニヨリ之ヲ以テ相殺ノ意思表示ヲナシテ曰ク「相殺ノ趣及效力ヲ有スル爲メ借賃債權ハ初メヨリ消滅ス從テ履行遲滞ナカリシコトナリ」乙ノ解除ハ無効ナリトコノ主張ハ正當ナリヤ(昭五・東・末弘) (判例) 五〇五・五〇六
第六二三 繼續的債權契約トソノ特色(昭五・早・中村) (判例) 六〇一・六三二等
雇傭契約ノ性質(大八・辯)

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得
第六百二十五條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得ス
勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス
勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第六百二十六條 雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方クハ第三三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス
前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月前ニ其意旨ヲ爲スコトヲ要ス
第六百二十七條 雇傭ノ解除ニ因ル損害賠償ノ效果

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス
期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但其中入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
六ヶ月上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三ヶ月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第六百二十八條 雇傭ノ解除ノ效果(六二九) 雇傭契約ノ推定。工場法一七。工場法施行令二七ノ二。
六二四 東京在住ノ甲山口縣在住ノ乙下女トシテ雇傭ノ度々電報ヲ往復シタル上約定マリ乙ハ上京セリ然ルニ乙カ東京縣ニ着ク頃偶々隣家ヨリノ出火ニテ甲ノ家宅焼失シ乙ヲ雇ヒ置クコト能ハサルニ至レリ、乙ハ如何ナル請求ヲ爲シウルカ(大ニ判例) 六二二・六二七・六二八・六三〇・六三二・五四〇・工場法一七。工場法施行令二二・二四・二七ノ二・三八以下・一五。工場法施行細則一二・二〇四以下。附則。商五七七・民三〇六・三〇九・四一二・續業法八〇
六二五 雇傭ニヨル債權ノ第三者ニヨル侵害(大ニ五・行口)

628 已ムヲ得サル事由トハ當事者カ履修契約ヲ締結セル目的ヲ達スルニ付重大ナル支障ヲ惹起スル事項ノ義ナリ (大一一・大審「大判民二六六頁」)

632 請負人ノ債務ハ特別ノ事由ナキ限り不可分債務ト認ム (昭三・東控「評論一七卷民四三五頁」) 一公有水面埋立ノ工事ノ如キハ工事實施ノ結果ハ實施ト共ニ當然直ニ工事ノ主體ニ歸屬スルヲ通例トス (昭三・大審「法新二九〇二號九頁」)

第六百二十八條 當事者カ履修ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

△五四〇〓意思表示ニ因ル解除・六三〇〓解除ノ效果

第六百二十九條 履修ノ期間満了ノ後勞務者カ引續キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前履修ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ履修ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前履修ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ノ期間ノ満了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラス

△六三〇〓解除ノ效果・六一九〓貸借借ト解約申込

第六百三十條 第六百二十條ノ規定ハ履修ニ之ヲ準用ス

第六百三十一條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ履修ノ期間ノ定アルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シテ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節 請負

△破一二六以下・一五七以下

第六百三十二條 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

△五五九〓賣買以外ノ有價契約

第六百三十三條 報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡ト同時ニ之ヲ與フルコトヲ要ス但物ノ引渡ヲ要セサルトキハ第六百二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

△四一二〓債務者ノ遲滞・四九二一四九三〓辨濟ノ提供・二九五〓留置權ノ意義・五三三・六四二

第九節 請負

六三二 繼續的債權契約トソノ特色(昭五・早・中村)

〔共通〕六〇一・六二二等

△懸賞廣告ニヨリテ成立スル契約ト請負契約トノ差異(大四・法)〔共通〕五二九一五三二

△賣買ト請負トノ差異(昭三・中・村上)〔共通〕五五五

△請負契約ノ性質(大八・判檢)

633 請負金支拂額ノ多寡ハ必シモ工事進捗程度ヲトスル資料トナスニ足ラス (昭二・大審「評論一七卷民三四頁」)

637 請負人ノ爲シタル工事ノ瑕疵ヲ注文者自ラ修補シタレハトテ此ノ一事ヲ以テ其工事ヲ受領シタルモノト論スルヲ得ス (大五・大審「彙報三八卷民一四九頁」)

第六百三十四條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相當ノ期限ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナラサル場合ニ於テ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其修補ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第五百三十三條ノ規定ヲ準用ス

△四一四二項〓強制履行・六三五一六四一・四〇六以下

第六百三十五條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但建物其他土地ノ工作物ニ付テハ此限ニ在ラス

△六三六〓契約ノ效力・六三七〓瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除・六四〇・五四〇

第六百三十六條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ノ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適用セス但請負人カ其材料又ハ指圖ノ不當ナルコトヲ知リテ之ヲ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

△六三七〓瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除

第六百三十七條 前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ仕事ノ目的物ヲ引渡シタル時ヨリ一年內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要セサル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ仕事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

△六三九

第六百三十八條 土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後五年間其擔保ノ責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付テハ之ヲ十年トス

工作物カ前項ノ瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ注文者ハ其滅失又ハ毀損ノ時ヨリ一年內ニ第六百三十四條ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

△六三九・六三五但書

六三四 請負人ノ瑕疵擔保ノ責任(大一〇・中・横田)

〔共通〕六三五一六四一

△請負契約ト同時履行ノ抗辯權(昭四・司口)

六三六 甲ハ家屋ヲ建テ乙ハ之ニ對シテ報酬ヲ與フ可キコトヲ約シタルカ左ノ場合ニハ甲ハ報酬ヲ請求シ得ルカ、乙カ敷地ヲ整理シナカッタタメニ甲ハ工事ニ着手スルコトヲ得ナカッタ場合、建築中ノ建物カ落雷ニヨリ燒失セル時、建築後未タ引渡シノ済マヌ内ニ家屋カ落雷ニヨリテ燒失セル時(昭六・京・末川)〔關係〕五三四・五三六

641 本條ハ注文者ニ一般契約解除權以外ノ特種解除權ヲ與ヘタルニ過キスシテ之カ爲一般契約解除權ノ適用ヲ除外セシニ非ス (大一五・大審「法新二六三號八頁」)

646 乙カ甲ノ委任ニヨリ取立テタル金錢ハ委託者甲ノ所有ニ屬ス (昭三・大區「法新二八七四號一一頁」)

第六百三十九條 第六百三十七條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時効期間内ニ限リ契約ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六百四十條 請負人ハ第六百三十四條及ヒ第六百三十五條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケザリシ事實ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十一條 請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百四十二條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第六百四十三條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行爲ノ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十節 委任

第六百四十四條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行爲ノ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十四條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行爲ノ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十五條 委任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十六條 委任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

第六百四十七條 委任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

第六百四十八條 委任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

第六百四十九條 委任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

650 本條第二項ノ辨濟ヲ爲サシムル受任者ノ權利ハ自己ニ對シ一定ノ金額支拂ヲ請求スル權利ニ非サルヲ以テ委任者カ受任者ニ對シテ有スル一定ノ金錢債權ト相殺ヲ爲スニ適セサルモノトス (大一四・大審「新報五三號二一三頁」)

第六百四十七條 受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責任ニ任ス

第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十九條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルコトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百五十一條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百五十二條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百五十三條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百五十四條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百五十五條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百五十六條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百五十七條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百五十八條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百五十九條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百六十條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百六十一條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百六十二條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百六十三條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

第六百六十四條 委任事務ノ處理ニ要スル費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償

651 委任解除ヲ目的トスル訴ヲ提起シ其訴狀カ受任者ニ送達セラレタルトキハ之ニ依リ委任解除ノ意思ヲ表示シテ認メ得ヘシ(昭二・大審「彙報三八卷民五二七頁」)

658 他人ノ委託ニ因リ其所有物ヲ一時保管スル者ハ其物ニ對スル差押及假差押ヲ承諾スル權限モ義務モ有セス(大一五・法決「法曹四卷七號九九頁」)

第六百五十一條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得

當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但已ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラス

◇五四〇〓相手方ニ對スル意思表示ニ因ル解除

四一六〓損害賠償ノ請求・六五二〓解除ノ效果

第六百五十二條 第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 委任ハ受任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

◇七〓禁治産ノ宣告・六五四〓代理人ノ必要處分ノ義務。破一・二六以下

第六百五十四條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、其相續人又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

◇六五一〓六五三・七〇〇〓管理ノ繼續・七〇二〓償還ノ請求・六五一〓一六五三

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルト問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五十六條 本節ノ規定ハ法律行為ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十一節 寄託

第六百五十七條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ其効力ヲ生ス

◇一八二〓項〓占有權ノ讓渡・一八三〓占有權ノ取得・一八四〓第三者ノ占有權取得・商三五三以下

第六百五十八條 受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ス

受寄者カ第三者ヲシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第五百五條及ヒ第七百七條第二項ノ規定ヲ準用ス

六五一 委任者カ委任契約ヲ解除シタル場合(大八・明・横田)(國例)六五四・六五二・六二〇・五四〇・六一六

667 組合員ノ利益分配請求又ハ組合員ノ不法行為ニ對スル損害賠償請求ハ組合員ヨリ組合ニ對シ又ハ組合ヨリ組合員ニ對シテ之ヲ爲スヘク組合員ヨリ直接ニ他ノ組合員ニ對シ爲スヘキモノニ非ス(大一〇・東地「新報四五號二五頁」)

一民法上ノ組合ニ於テ組合員カ他ノ組合員ニ對シ組合ノ存在又ハ不存在ノ確認訴訟ヲ提起スルニハ他ノ組合員全員ヲ相手方トシテ之ヲ爲スヲ要ス(昭三・大審「新報一六八號一二頁」)

◇六一二〓賃借人ノ權利讓渡又ハ賃借物ノ轉貸・六二五〓項〓勞務・六五九〓無報酬ノ寄託・一九七以下・非訟四九二項

第六百五十九條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

◇六四八〓受任者ノ報酬・四〇〇〓債務者ト善良ナル管理業者ノ注意・六六五・商三五三・非訟四九二項

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滞ナク其實質ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

◇民訴六四四・七〇六・七三〇・七三一・七三七以下・五六四以下・非訟四九二項但書・八二但書

第六百六十一條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラザリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

◇六五〇〓項〓委任者ノ賠償請求・非訟四九二項

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

◇六六三〓項〓期限前ノ返還・六六四〓寄託物ノ返還・六二〇

第六百六十三條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

◇六六四〓六六二〓返還ノ請求・一三五〓一三七・六二〇

第六百六十四條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

◇四八四〓辨濟ヲ爲スヘキ場所・非訟四九二項

第六百六十五條 第六百四十六條乃至第六百四十九條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

◇五八七〓消費貸借ノ意義・五八八〓消費貸借ノ成立・五八九〓消費貸借ノ豫約・五九〇〓消費貸借ノ目的物ノ瑕疵・五九二〓消費貸借ノ終了

六六六 定期預金ノ法律上ノ性質(大一二・東・穂積)

共通 五八七(國例)五八七・五九〇・五九二

第十二節 組合

670 組合契約ヲ以テ組合員ノ一人ニ業務執行ヲ委任シ其業務執行員ノ名ヲ以テ組合ニ屬スル權利義務ニ付裁判上裁判外ノ行爲ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ定メ得ヘシ(昭三・大審「法新二八七八號一二頁」)

674 組合員ノ一人カ出資義務ヲ履行セサル場合ト雖モ其者ノ爲メニ利益配當請求權ノ發生スルヲ妨ケス(大一五・朝高「朝司協五卷一一號四三頁」)

第六百六十七條 組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

出資ハ義務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第五九二條賣買以外ノ有價契約・四二八條各債權者ニ對シテ履行・四二九條他ノ債權者ニ對スル效力・六六九條南二九七以下

第六百六十八條 各組合員ノ出資其他ノ組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

第六百六十九條 利息ト損害賠償・六七六條債務ト組合員ニ對スル債權トノ相殺・四二九以下

第六百七十條 金銭ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百七十一條 返還ノ請求・四〇四條利息ヲ生スヘキ債權・四一五―四一六條損害賠償・四一九條損害賠償額

第六百七十二條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ業務執行者ノ專行スルコトヲ得但共結了前ハ各業務執行者ノ專行スルコトヲ得但共結了前

ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十一條 組合ノ業務執行スル組合員ニハ第六百四十四條乃至第六百五十五條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十二條 業務執行組合員ノ辭任及ヒ解任

第六百七十三條 組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得ス又解任セラルルコトナシ

正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ爲スニハ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要ス

第六百七十四條 各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサルトキト雖モ其業務及ヒ組合財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第六百七十五條 當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メザリシトキハ其割合ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ定ム

利益又ハ損失ニ付テノ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト推定ス

第六百七十六條 各共有者ノ持分ノ推定

第六百七十七條 組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時

680 組合員除名ノ決議ノ無効ニ付テハ組合存続中何時ニテモ確認ノ訴ヲ提起シ得ヘシ(大一五・法決「法曹四卷一二號八六頁」)一本條ハ強行規定ニ非サルヲ以テ組合ノ規定ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スヲ妨ケス(大一四・法決「法曹三卷五號一一八頁」)

組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラザリシトキハ各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十四條 損益分配ノ割合・四一七以下

第六百七十六條 組合員カ組合財産ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合員ト引算シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス

第六百七十八條 組合員ノ出資其他ノ組合財産ノ共有

第六百七十九條 損益分配ノ割合・六八八條項殘餘財産ノ分割・二五〇・二五六

第六百七十七條 組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス

第六百七十八條 組合契約ヲ以テ組合ノ存続期間ヲ定メザリシトキ又ハ或組合員ノ終身間組合ノ存続スヘキコトヲ定メタルトキハ各組合員ハ何時ニテモ退却ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

組合ノ存続期間ヲ定メタルトキト雖モ各組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ退却ヲ爲スコトヲ得

第六百七十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ退却ス

二 破産

三 禁治産

四 除名

第六百八十一條 失蹤宣告・七條禁治産ノ宣告・六八〇條組合員ノ除名・破一二六以下

第六百八十二條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ他ノ組合員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十三條 破産・六八一條退却シタル組合員ト他ノ組合員間ノ計算

第六百八十四條 退却シタル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ退却ノ當時ニ於ケル組合財産ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

退却シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハズ金銭ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得

退却ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十五條 組合員ノ退却ノ原因・六六七條項組合員ノ出資ノ目的タル業務

第六百八十六條 組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ解散ス

第六百八十七條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各組合員ハ組合ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十八條 解散ノ效力・五四〇以下

689 甲カ乙ニ對シ有價證券ヲ自己ノ在生間其利息並ニ配當金ヲ乙ニ於テ受取次第甲ニ交付スヘキ約旨ノ下ニ移轉シタル場合ニ於テハ該契約ハ負擔付贈與ニ非スシテ終身定期金契約ナリ(昭三・大審「評論一七卷民二五四頁」)

第六百八十四條 第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス
第六百八十五條 組合カ解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス
清算人ノ選任ハ總組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
第六百八十六條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第六百八十七條ノ規定ヲ準用ス
第六百八十七條 組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ第六百七十二條ノ規定ヲ準用ス
第六百八十八條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス
殘餘財産ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應ジテ之ヲ分制ス
第六百八十九條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己ノ相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期金銀其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ要ス

第十三節 終身定期金

第六百九十條 終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス
第六百九十一條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
第六百九十二條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六百九十三條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得
前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス
第六百九十四條 終身定期金契約・七〇九ニ不法行爲。

695 和解ノ效力ハ如何ナル場合ニ於テモ創設的ノモノナリト論スルヲ得ス(昭二・大審「新報二七七號一四頁」)

第六百九十條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セザリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス
第六百九十六條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セザリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス
第六百九十七條 義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス
管理カ本人ノ意思ヲ知リタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス
第七〇〇ノ管理カ本人ノ意思ヲ知リタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス

第三章 事務管理

第十四節 和解

第六百九十八條 管理カ本人ノ身體、名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス
第六百九十七條 甲購買ヲ求ムル爲メ送本シ乙之ヲ拒絕シタルトキハ返送ノ義務アリヤ(大一一・東・末弘) (關例) 六九九・七〇〇・七〇二
事務管理ノ成立要件(大一一・日・田中) (關例) 七〇〇・七〇三・四〇〇・四一五・四一七・七〇九・水難救護法五
委任ト事務管理トノ異同(大一一・中・村上) (關例) 六四三

703 本條ニ依リテ不當利得返還ノ義務ヲ生スルニハ他人ノ損失ト受益者ノ利得トカ直接ノ因果關係アルヲ必要トスルモ第三者ノ行為介在シタルノ一事ニ依リテ直ニ損失ト利得トノ間ニ直接ノ因果關係ナキニ至ルモノト謂フヘキニアラス (昭二・大審「業報三八卷民四七六頁」)

第六百九十九條 管理ノ者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遺留ナク本人ニ通知スルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス
○四一五―四一六 損害賠償。四一七 損害賠償額。

第七百條 管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ此限ニ在ラス
○六九七 項。

第七百一條 第六百四十五條乃至第六百四十七條ノ規定ハ事務管理ニ之ヲ準用ス
第七百二條 管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出シタルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得
管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス
管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノ前二項ノ規定ヲ適用ス
○商六五二ノ二 救助料ノ請求。

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ

第四章 不當利得

勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ボシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ
○七〇四 惡意ノ受益者。七〇五―七〇八 返還請求不能。四六二 項 履行ノ請求。四六八 項 債權者ノ對抗。四七八・五四五・一二二・二四八。
七〇二 委任ニ於ケル委任者ノ義務ト事務管理ニ於ケル本人ノ義務トノ比較(大三・中・村上) (共四) 六四八―六五〇 (商) 遺失物法四・水難救護法二四二・商六五二ノ二以下
事務管理者ノ權利(大九・中・村上)
事務管理者ノ本人ニ對シテ有スル費用償還ノ請求權(大一一・中・横田)
第七〇三 甲ハ購買ヲ求ムル爲送本シ乙ハ贈與アリタルモノヲシテ丙ニ贈與シタリ甲ハ如何ナル法律的救済ヲ求メウルカ(昭二・東・末弘) (共四) 五二六一
七〇九・七〇八・一九二
不當利得ノ意義(大九・外口。昭三・早・遊佐)
不當利得返還制度ノ實用(昭二・東・藤積)
不當利得ノ一般要件(大四・關・中尾)
AカBヨリ土地ヲ賃借シテ數年間地代ヲ支拂ヒ來

708 法律ノ禁制ニ違反セル行為ニ因リ爲セル給付モ其行為自體カ公序良俗ヲ害セサル場合ハ給付物ノ返還ヲ請求スルヲ妨ケス (昭四・大審「評論一九卷一號三六頁」)

第七百四條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス
○七〇三 返還義務。四〇四 利息ヲ生スヘキ債權。

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セザルコトヲ知リタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス
○七〇六 給付ノ返還ノ請求。四七四 買買ノ目的物ノ引渡。四八二 買戻權ノ消滅。

第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス
○七〇五 給付シタルモノノ返還ノ請求。

第七百七條 債權者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ債務ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時効ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス
○四七四 債務ノ辨濟。四八七 證書ノ返還ノ請求。二六七 項 債權ノ消滅時効。一六八 以下。

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ

其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス
○九〇 無效ノ法律行為。

レルニツノ土地カCノ所有ナルコト判斷セリ、B、A、Cノ法律關係如何(昭五・東・藤積) (共四) 七〇四・七〇五・七〇九 (商) 七〇四―七〇八・四六二・四六八・四四八・五四五・一二二・二四八・四七四・四八二
不法行為ト不當利得トノ異同及關係(大一一・東・末弘) (共四) 七〇九

七〇八 法定制限額(利息制限法第二條)ヲ超ユル利息ヲ支拂ヒタル債務者ハ不當利得ノ原則ニヨリテ超過分ノ返還ヲ請求スルヲ得ルカ(大四・法)

權利株買買ノ爲メ給付シタル代金ハ不當利得ヲ原因トシテ之カ返還ヲ求メ得ルヤ(大一一・立・楳木) (共四) 商一四九
不法ノ原因ノ爲メ給付シタル物ノ返還請求(大一一・判檢)

民法 債權 不法行為

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス

○四四〇 他人ニ加ヘタル損害賠償・七一〇―七二四

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責任ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

○七二二―七二四

第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財產權ヲ害セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

○七〇九 不法行為ト損害賠償・七二四 不法行為ニ因ル損害賠償請求權・七二二

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行為ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知識ヲ具ヘザリシトキハ其行為ニ付キ賠償ノ責任ニ任セズ

○三〇 成年・六〇 成年ト同一ノ能力・七二四

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責任ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

○七二 禁治產宣告・七二四 監督義務者ノ責任

第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニ在ラス

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦

前項ノ責ニ任ス

○七八八 婚姻ノ取消・九二二 未成年者ノ後見・九二二 禁治產者ノ後見人・感化法八、民七二二、七二四

ニ對シ民法上如何ナル權利ヲ有スルヤ(昭四・京・末川)(共四)七二二、四一六、七二〇

○國家ハ不法行為ニヨル損害賠償責任ナキヤ(昭六・東・藤積)

○民法ハ不法行為ニ對シ如何ナル法律效果ヲ付與セラルヤ(昭六・日・沼)

○債務不履行ニ因ル損害賠償ト不法行為ニ因ル損害賠償トノ比較(大三・判檢)(共四)四一五

七二一 市電ニヨリ轢殺セラレタル甲ノ父乙カ市長ニ對シテ損害賠償ノ訴ヲ爲スニハ如何ナル事實ヲ主張シ且立證スルコトヲ要スルカ(大五・中・末弘)

○七〇九・七二二・七二四

七二二 未成年者甲ハ乙ヨリ保管ヲ託セラレシ物ヲ自己ノ所有物ナリト稱シ丙ニ賣却セリ甲ノ法定代理人丁ハ甲丙間ノ賣買契約ヲ取消シテ時計ノ返還ヲ請求シ得ルカ(昭四・東・我妻)

709 甲カ抵當物タル本件山林立木ヲ伐採賣却セルハ競賣開始ニ因ル差押ノ效力發生後ノ事ニ係ルト雖而モ當時之ニ對スル競落許可決定前ナル以上乙ノ所有權ヲ侵略シタリト言フヲ得ス(昭三・大審「評論一八卷一―號六一頁」)

第五章 不法行為

問題

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス

○四四〇 他人ニ加ヘタル損害賠償・七一〇―七二四

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責任ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

○七二二―七二四

第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財產權ヲ害セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

○七〇九 不法行為ト損害賠償・七二四 不法行為ニ因ル損害賠償請求權・七二二

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行為ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知識ヲ具ヘザリシトキハ其行為ニ付キ賠償ノ責任ニ任セズ

○三〇 成年・六〇 成年ト同一ノ能力・七二四

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責任ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

○七二 禁治產宣告・七二四 監督義務者ノ責任

第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニ在ラス

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦

(昭四・東・末弘) (國例) 七二二・七二三・七二四・失火ノ責任ニ關スル法律

○不法行為ニヨル損害賠償權カ他ノ一般債權ニ比シテ有スル特殊性(昭五・東・末弘)(共四)五〇九

○民法ハ不法行為ニ對シ如何ナル法律效果ヲ付與セラルヤ(昭六・日・沼) (國例) 七一〇―七二四・四四・郵便法三三―四〇・不登法一三・戶籍四・失火ノ責任ニ關スル法律

○不法行為ニ對スル我民法ノ態度トソノ文化的意義(昭三・中・中村) (國例) 七一〇―七二四

○不法行為ノ目的及不法行為ノ觀念(昭二・京・宮本)

○不法行為ト不當利得トノ異同及ソノ關係(大―三・東・末弘)

○不法行為又ハ債務不履行ニヨル法人ノ責任(大―三・中・村上) (共四) 七一五・七二四・四四・四一五

○不法行為債務不履行及ヒ不當利得トカ競合スル場合ヲ例示シ且是等ノ場合ニ請求權ノ強行ヲ認メル理由實益ヲ說明セヨ(大―四・東・末弘。大―四・東・鳩山) (共四) 七一〇以下・七〇三以下・四一五以下

○不法行為ト債務不履行トノ要件及效果ノ比較(昭五・東・我妻) (共四) 七〇九以下・四一五以下

○甲ハ乙所有ノ書物價十圓ヲ盜ミテ之ヲ五圓テ古本屋ニ賣レリ、現在テハソノ書物ノ所在不明、乙ハ甲

715 被用者カ其地位ヲ濫用シテ爲セル不法行為モ使用者ノ事業ノ執行ニ關シテ爲シタル行為ニ外ナラサレハ使用者ハ其損害ヲ賠償スル義務アリ (昭二・大審「新報一一九號一一頁」)

718 動物カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テハ其占有者カ保管ニ相當ノ注意ヲ爲シタリトノコトハ占有者自ラ立證ノ責ニ任ス (昭三・大審「彙報三九卷民三四二頁」)

第七百十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス

使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第四四〇條 法人ノ損害賠償責任・七二四〇條 不法行為ニ因ル損害賠償請求權・七二二〇條

第七百十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文者ハ損害ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六三二條 請負・七二四〇條 不法行為ニ因ル損害賠償請求權・七二二〇條

第七百十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合ニテモ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其實ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

一八〇〇條 占有權・一八一〇條 代理人ノ占有權ノ取消・四〇〇條 七二二〇條 七二四〇條

第七百十八條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

一八〇〇條 一八一〇條 七二二〇條 七二四〇條

七一五 無過失損害賠償責任(昭四・行口)

結果責任主義トハ何ソ(昭六・明・森山) (圖例 七一四・四四)

我民法ハ如何ナル範圍ニ於テ無過失損害賠償ヲ認メタリヤ(大一一・行)

使用者カ被用者ノ行為ニ由リテ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合(大一一〇・辯) (圖例 四四)

722 不法行為ニ原因スル債務ニ付テハ債務者ハ債務發生ト同時ニ履行ノ責アルモノニシテ債權者ノ請求ヲ俟タスシテ遲滞ノ責ニ任ス (昭二・大審「法新二七四二號一〇頁」) 一當事者カ其訴訟ヲ委任セル辯護士ニ支拂ヒタル手数料等ノ如キハ相手方ノ不法行為ニ基ク損害トシテ之カ賠償ヲ請求シ得サルモノトス (昭三・長控「法新二八三四號一一頁」)

第七百十九條 數人カ共同ノ不法行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同行為者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ

教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行為者ト看做ス

七二四〇條 不法行為ニ因ル損害賠償請求權・七二二〇條 三三二條以下 一六一・六一

第七百二十條 他人ノ不法行為ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ妨害スル爲メビムコトヲ得スシテ加害者ヨリ不法行為ヲ爲シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危險ヲ避タル爲メ其物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

七二二〇條 七二四〇條 三三六・三七

第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

一〇一〇條 私權ノ享有・九六八〇條 胎兒・九九三

第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行為ニ因ル損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス

被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

七二三〇條 適當ノ處分・四一六〇條 損害賠償・四一八〇條

第七百二十三條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ

又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

七一〇〇條 不法行為ト損害賠償・七二二〇條 七二四〇條

第七百二十四條 不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス不法行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

四三九〇條 連帶債務者ノ一人ノ爲メニ時効ノ完成・七〇九一七二〇・一四四一・一六一

民法第四編第五編

(明治三十一年六月二十一日)
法律第九號

改正、明治三十五法律三七、大正一四
法律四二

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ民法中修正ノ件ヲ裁可シ
之ヲ公布セシム
民法第四編第五編別冊ノ通之ヲ定ム
此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(三十一年
勅令第百二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行
ス)
明治二十三年法律第九十八號民法財産取得編人事編
ハ此法律發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第四編 親族

第一章 總則

第七百二十五條 左ニ掲ケタル者ハ之ヲ親族トス
一 六親等内ノ血族
二 配偶者

三 三親等内ノ姻族
○七七五ニ婚姻ノ效力ノ發生時期・七二六ニ親等
ノ計算法・七二七―七三一ニ親族關係ノ發生及
ヒ消滅。
第七百二十六條 親等ハ親族間ノ世數ヲ算シテ之ヲ
定ム
傍系親ノ親等ヲ定ムルニハ其一人又ハ其配偶者ヨ
リ同始祖ニ溯リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ
世數ニ依ル
○七二五ニ親族ノ範圍。

第四編 親族法

○我家族制度ノ利害得失(大一二、大二三、京・中島。
大―五・日・遠藤)

○我國家制度ノ法律的特色(昭六・東・我妻)

○家族制度カ我現行婚姻法ニ及ホセル影響(昭五・早
・外岡)

第一章 總則

七二五 親族ノ範圍(大二・關・板垣)
準血族(大一〇・京・菅原)
○姻族(昭三・中・豐水、昭五・明・島田)
○親族關係發生ノ原因(大一五・明・河邊) (關) 七二
七・七二八

728 繼父子ノ關係ヲ生シタルコトニヨリテハ繼父ノ血族若クハ
準血族ト繼子トノ間ニハ親族關係ヲ生セス(大一五・法決「法曹
五卷四號一四三頁」)

729 甲ニ實母乙繼父丙アリタル場合ニ於テ其後乙カ離婚ニヨリ
テ家ヲ去リ丙ニ後妻丁ヲ迎ヘタル場合ハ甲ト丙ト間ニハ繼親子關
係アリ(大一四・法決「法曹三卷一〇號一一頁」)

第七百二十七條 養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於
テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親
族關係ヲ生ス

○七二五ニ六親等内ノ血族・八六〇ニ養親ト養
子トノ親子關係・七七五ニ婚姻ノ效力ノ發生時
期・七三〇ニ養親子關係ノ消滅・七三一・八四
七。

第七百二十八條 繼父母ト繼子ト又嫡母ト庶子トノ
間ニ於テハ親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生
ス

○七二五ニ六親等内ノ血族・七二九ニ離婚ノ効
果・八二七ニ項ニ父カ認知シタル私生子・八七
八ニ繼父・繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合・八
七七ニ親權ニ服スル子。

第七百二十九條 姻族關係及ヒ前條ノ親族關係ハ離
婚ニ因リテ止ム

夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ
其家ヲ去リタルトキ亦同シ
○七二五ニ三親等内ノ姻族・八〇八―八一九ニ
協議上ノ離婚・七七〇ニ直系姻族間ニ於ケル婚
姻・七三七ニ婚姻ト親族會ノ同意・七三九ニ實
家復籍・七四〇ニ一家ノ創立・七九一―七八七。

第七百三十條 養子ト養親及ヒ其血族トノ親族關
係ハ離婚ニ因リテ止ム
養親カ養家ヲ去リタルトキハ其者及ヒ其實方ノ血

族ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム
養子ノ配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者カ養子ノ離
縁ニ因リテ之ト共ニ養家ヲ去リタルトキハ其者ト
養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

○七二七ニ親族關係ノ發生及ヒ消滅・七二五ニ親
族ノ範圍・七三一ニ本家相續、分家及ヒ廢絶家
再興ノ場合・八六二―八七六・八一三・八五二
―八五九・七七一・七三九・七四〇。

七二七 親族關係發生原因(大一五・明・河邊) (關) 七二
七・七二八

七二八 嫡母ノ意義(大一四・日・森田)
○嫡母庶子關係(昭四・京・中島) (關) 七二九・七三
一・八七八

○嫡母ノ入夫ト庶子トハ繼父子カ(昭四・早・外岡)

七二九 姻族關係ノ消滅(昭三・早・外岡)
○婚姻ニヨリ他家ニ入りタル者更ニ養子縁組ニヨリ
他家ヨリ他家ニ入りタル、婚家ニ於ケル姻族關係
ハ之ニヨリ消滅スルヤ(昭三・早・外岡)

七三〇 養子ト養家ヲ去リタル養親トノ關係ノ消滅
(大二・京・岡村)

733 母ノ私生子ハ母カ認知セラレ他家ニ入リシ場合モ其出生當時ノ母ノ家ニ入ル(昭六・法決「法曹九卷八號八七一頁」)一女戸主ノ法定推定家督相続人タル私生子ハ父ノ認知ニヨリ當然父ノ家ニ入ル(昭六・法決「評論二〇卷八號一〇九頁」)

第七百三十一條 第七百二十九條第二項及ヒ前條第二項ノ規定ハ本家相続、分家及ヒ廢絶家再興ノ場合ニハ之ヲ適用セス
○七四三ニ他家相続、分家、廢絶家再興ト戸主ノ同意。

第二章 戸主及ヒ家族

第一節 總則

第七百三十二條 戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族トス
戸主ノ變更アリタル場合ニ於テハ舊戸主及ヒ其家族ハ新戸主ノ家族トス
○七二五ニ親族ノ範圍。七三五ニ自己ノ入籍ト戸主ノ同意。七四三ニ他家相続、分家、廢絶家再興ト戸主ノ同意。七四五ニ夫ノ他家入籍又ハ一家創立ト妻ノ隨伴入籍。七八八ニ婚姻ト妻ノ入籍。七三三ニ七三五、七三九、八六一。民法六二。
第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル
父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ル
父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創立ス
○七三四ニ子ノ出生前ニ於ケル父ノ去家ト子ノ入籍。八二〇ニ婚姻中ニ懐胎シタル子。八二七ニ私生子ノ認知。八六〇ニ養子ト養親トノ親子關係。

八六一・七二八・七三五・戸七八・七九。
第七百三十四條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離婚ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懐胎ノ始ニ溯リテ之ヲ適用ス
前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
○七三九ニ實家復籍。八七五ニ離婚ト養子ノ實家ニ於ケル身分ノ回復。八七六ニ養子間ノ婚姻ト妻ノ離婚。

第二章 戸主及ヒ家族

第一節 總則

第七三二 親族タル者相互間ノ身分法的關係ハ彼等カ同一ノ家ニ屬スルヤ否ヤニヨリ如何ナル差異アリヤ(昭六・東・末弘) (附例) 七三三・七四五
七三三 家ノ設立(昭五・日・河邊) (附例) 七三五・七四〇・七四二

735 婚姻後二百日內ノ出生子ヲ家族タル父母ヨリ戸籍法第八三條後段ノ届出アリシ場合子ハ嫡出子トシテ入籍スルモノナレハ本條ノ適用ナシ(昭三・法決「法曹六卷九號一〇四頁」)

736 女戸主カ家族タル男子ト婚姻スル場合モ亦入夫婚姻ナリス(昭四・法決「法曹八卷二號一一六頁」)

第七百三十五條 家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戸主ノ同意アルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得ス
庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ家ニ入ル
私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ一家ヲ創立ス
○七三二ニ家ニ在ル戸主ノ親族及ヒ其配偶者ト家族ノ範圍。七三三ニ父ノ知レサル子、父母共ニ知レサル子。七四六ニ戸主及ヒ家族ノ權利義務。八二七・八三六。

第七百三十六條 女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家ノ戸主ト爲ル但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス
○七七五ニ在外日本人間ノ婚姻。九六四ニ女戸主ノ入夫婚姻又ハ入夫ノ離婚。七八八ニ死體ニテ生レタル胎兒。七九九ニ配偶者ノ財産ノ使用收益權。一〇二〇・九七一・七六一・九八八・九八九。明治三法律二一號外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ法律。戸一〇〇一項。一二五

第七百三十七條 戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者ハ戸主ノ同意ヲ得テ其家族ト爲ルコトヲ得但其者カ他家ノ家族タルトキハ其家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
前項ニ掲ケタル者カ未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

○七二五ニ親族ノ範圍。七三八ニ引取入籍ト配偶者ノ同意。七五三ニ家政ヲ執ルコト能ハサルニ因ル隱居。七五四ニ法定ノ隱居。七六二ニ廢家。七四五ニ夫ノ他家入籍又ハ一家創立ト妻ノ隨伴入籍。七八八ニ婚姻ト妻ノ入籍。七四四・八七七。七四九ニ項ニ戸主ノ離婚權。七五〇ニ項ニ戸主ノ離婚及ヒ復籍拒絕權。七五〇ニ項ニ養子ノ隨伴入籍。七四一ニ項ニ復籍拒絕。七三九ニ實家復籍。七三九・七八九・八五二・八五九・九七二・九〇〇以下。戸一三七・一四〇・一四二。

七三六 女戸主カ丁男ト私通シ、甲ナル男子ヲ擧ケタル後丙男ヲ入夫ニ迎ヘタリ、後日入夫丙男ハ他ノ女ト通シ乙ナル男子ヲ擧ケ之ヲ認知シ、女戸主ノ同意ヲ得テ自家ニ入籍セシメタリ、女戸主死亡セハ甲乙丙其ノ孰レカ相續權アリヤ(昭三・早・外岡) (附例) 八二七・九七〇

△入夫婚姻ト養子繼組トノ異同(大三・中・牧野)
七三七 甲家ノ戸主甲死亡シ其ノ長男乙相續シテ戸主トナリタル後乙ノ母丙ハ婚姻ニ因リ他家ニ入りタリ其後母丙ガ夫丁ト共ニ甲家ニ親族入籍シタルトキハ何人ニ於テ未成年戸主乙ニ代リテ戸主權ヲ行フヘキヤ(昭五・早・外岡)

738 本條ノ場合入籍者カ意思無能力者ナルトキハ格別意思能力者ナルトキハ其意ニ反シテ之ヲ引取ルコトヲ得サルモノトス(昭四・法決「法曹七卷四號一〇六頁」)

第七百三十八條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲サント欲スルトキハ前條ノ規定ニ依ル外其配偶者又ハ養親ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百三十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ實家ニ復籍ス

第七百四十條 前條ノ規定ニ依リテ實家ニ復籍スヘキ者カ實家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサルトキハ一家ヲ創立ス但實家ヲ再興スルコトヲ妨

第七百四十一條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百四十二條 離婚セラレタル家族ハ一家ヲ創立ス他家ニ入リタル後復籍ヲ拒マレタル者カ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百四十三條 家族ハ戸主ノ同意アルトキハ他家ヲ相續シ、分家ヲ爲シ又ハ廢絶シタル本家、分家、同家其他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百四十四條 法定ノ推定家督相続人ハ他家ニ入リ又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス但本家相續ノ必要アルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十五條 夫カ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第七百四十六條 戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

第七百四十七條 廢絶家再興ノ效力(大九・中・島田。昭四・明。島田)

第七百四十八條 分家ト廢絶家再興ノ效力ノ差異(大一四・中・島田)

第七百四十九條 他家相續ノ特質(大五・中・島田)

第七百五十條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十一條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十二條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十三條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

743 本條「他家ヲ相續云々」トアルハ相續承認ノ效果トシテ他家ノ戸主ナルカ故ニ其結果ヨリ立言セルニ過キス承認行爲ヲ別ニシテ他家相續行爲ナルモノヲ豫想シタルモノニ非サルナリ(昭二・大審「法新二七六九號九頁」)

744 戸主カ弟ヲ家督相續人ニ指定ノ場合弟ハ指定ノ取消ヲ俟タス他家ニ入り得(昭五・法決「法曹八卷五號一八八頁」)

第七百四十三條 家族ハ戸主ノ同意アルトキハ他家ヲ相續シ、分家ヲ爲シ又ハ廢絶シタル本家、分家、同家其他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百四十四條 法定ノ推定家督相続人ハ他家ニ入リ又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス但本家相續ノ必要アルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十五條 夫カ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第七百四十六條 戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

第七百四十七條 廢絶家再興ノ效力(大九・中・島田。昭四・明。島田)

第七百四十八條 分家ト廢絶家再興ノ效力ノ差異(大一四・中・島田)

第七百四十九條 他家相續ノ特質(大五・中・島田)

第七百五十條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十一條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十二條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十三條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十四條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十五條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十六條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十七條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十八條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百五十九條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百六十條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百六十一條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百六十二條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百六十三條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百六十四條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百六十五條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百六十六條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百六十七條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

第七百六十八條 隨件入籍ノ意義(昭六・日・森本)

745. 養子カ離縁復籍スル場合ニ於テハ妻ハ入家戸主ノ意ニ反スルトキモ養子ノ實家ニ入ル (大一五・法決「法曹四卷九號」)
 749 戸主ノ居所指定權行使ハ重大ナル結果ヲ招來スルモノナレハ右行使ハ戸主ノ専恣ニ委スヘキニアラスシテ一家ノ支持整理上必要ナル限度ニ於テ制限セラルルモノト解スヘシ (昭三・東控「法新二八六五號一〇頁」)

第七百四十七條 戸主ハ其家族ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負フ
 ◇七三二ノ家族ノ範圍・七四九ノ項ニ對シテ扶養ノ義務ヲ受クル權利ノ處分ノ禁止・七九〇ノ國籍喪失者ノ家督相続人・七四八ノ項。
 第七百四十八條 家族カ自己ノ名ニ於テ得タル財產ハ其特有財產トス
 戸主又ハ家族ノ執レニ屬スルカ分明ナラサル財產ハ戸主ノ財產ト推定ス
 ◇七三二ノ家族ノ範圍・七四七ノ家族ノ扶養ヲ受クル權利・八〇七ノ特有財產。
 第七百四十九條 家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス
 家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戸主ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ル
 前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族カ其催告ニ應ゼサルトキハ戸主ハ之ヲ離縁スルコトヲ得但シ其家族カ未成年者ナルトキハ此限ニ在ラス
 ◇七三二ノ家族ノ範圍・八八〇ノ居所・七八九ノ妻ノ同居義務・七四七ノ家族ニ對スル扶養義務・九五五ノ扶養義務者ノ順位・九五九ノ扶養ノ義務發生ノ要件・三〇三ノ成年・七四二・七四四・七四五。

第七百五十條 家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年內ニ離縁ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得
 家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ從ヒ離縁セラレタルトキハ其養子ハ養親ニ隨ヒテ其家ニ入ル
 ◇七三二ノ家族ノ範圍・七四一ノ項ニ轉婚又ハ轉縁組トシテ婚姻ノ同意・八四九ノ縁組ノ届出受理・七八八ノ婚姻ニ因ル入籍・七四四ノ項ニ違反シタル婚姻・七六五以下・七七六ノ婚姻ノ届出受理・七七二ノ子ノ婚姻ト父母ノ同意・八四四ノ八四五ノ縁組ト父母ノ同意・七四二ノ離縁セラレタル家族ト一家創立・八六一ノ養子ノ入籍・七三九ノ實家復籍・八五七ノ取消ノ請求・八三七以下。
 七四九 離縁ノ意義 (昭三・中・中水)
 七五〇 子ノ婚姻ニ關スル父母ノ同意權ト家族ノ婚姻ニ關スル戸主ノ同意權トノ比較 (昭四・早・外岡)
 (例) 七七二・七七三
 △隣件入籍ノ意義 (昭六・日・森本) (例) 七四五・七六三・七六四

752 懐胎中ノ女戸主カ指定相続人ノ單純承認ヲ得テ爲シタル隱居ハ後ニ胎兒出生ノトキハ當然無効トナル從テ右隱居ニヨリ家督相続開始サレス (大一五・法決「法曹四卷三號」)

753 裁判所ノ許可ヲ得テ隱居セル場合ニ於テハ隱居許可ノ取消アルモ右取消カ判決ニ因リテ確定セラレサル限り該隱居ハ依然有效ナリ (大一四・東控「評論一四卷民四三六頁」)

第七百五十一條 戸主カ其權利ヲ行フコト能ハサルトキハ親族會之ヲ行フ但シ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ其後見人アルトキハ此限ニ在ラス
 ◇四二ノ未成年者ノ法律行為・九二ノ禁治產者ノ行為ノ取消・八九五ノ六五四及ヒ六五五ノ規定準用・九三四ノ項ニ被後見人タル戸主・九四四以下。

第三節 戸主權ノ喪失

第七百五十二條 戸主ハ左ニ掲ケタル條件ノ具備スルニ非サレハ隱居ヲ爲スコトヲ得ス
 一 滿六十一年以上ナルコト
 二 完全ノ能力ヲ有スル家督相続人カ相続ノ單純承認ヲ爲スコト
 ◇七五八ノ隱居ノ取消・七六一ノ隱居又ハ入夫婦婚姻ノ喪失・九八八ノ隱居者及ヒ入夫婦婚姻ヲ爲ス女戸主・九八九ノ隱居又ハ入夫婦婚姻ニ因ル家督相続・一四三ノ期間ノ計算方法・七五五ノ項ニ對シテ隱居能力・一〇一七ノ項ニ對シテ隱居ノ單純承認若クハ限定ノ承認又ハ拋棄人ノ行為ト法定單純承認・九七〇以下。年齡計算ニ關スル法律。
 第七百五十三條 戸主カ疾病・本家ノ相續又ハ再興其他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ前條ノ規定ニ拘ハラス裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲スコトヲ得但

法定ノ推定家督相続人アラサルトキハ豫メ家督相続人タルヘキ者ヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス
 ◇七五八ノ隱居ノ取消・七五四ノ他家ニ入ルヘキ戸主ノ隱居・七六一ノ隱居又ハ入夫婦婚姻ニ因ル戸主權ノ喪失・九七九ノ被相続人ト家督相続人ノ指定・九八八ノ確定日附アル證書ニ因ル財產留保・九八九ノ前戸主ノ債權者・一〇一七ノ相續人ト相續ノ單純承認若クハ限定ノ承認又ハ拋棄・九七〇以下。非訟九〇。
 第七百五十四條 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ隱居ヲ爲スコトヲ得
 戸主カ隱居ヲ爲サシテ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ「戸籍吏」カ其届出ヲ受理シタルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居ヲ爲シタルモノト看做ス
 第三節 戸主權ノ喪失
 七五二 入夫ハ隱居セス直チニ離婚シ得ルカ (大四・中・大四・法・牧野) (共) 七三六

758 隠居無効ノ訴ヲ提起シ得ル者ハ家督相續人ニ限ラス從テ起訴者カ家督相續人タルヲ否定セラルルモ其訴カ却下セラルルモノニ非ス(昭二・大審「彙報三八卷民二九五頁」)一隠居者及家督相續人ニ非サル者カ提起スル隠居無効ノ訴ハ隠居者及家督相續人一方死亡ノ後ハ生存者、雙方死亡ノ後ハ檢事ヲ相手方トス(昭四・長控「法新二九五三號一四頁」)

第七百五十五條 女戸主ハ年齢ニ拘ハラズ隠居ヲ爲スコトヲ得

有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但夫ハ正當ノ理由アルニ非サレハ其同意ヲ拒ムコトヲ得ス

七三二項ニ父ノ知レサル子・七六二ニ廢家・七五五ニ婚姻ノ效力・七七六ニ婚姻ノ届出受理・七六一ニ隠居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主権ノ喪失・九八八ニ確定日附アル證書ニ因ル財産留保・九八九ニ前戸主ノ債權者

第七百五十六條 無能力者カ隠居ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

三ニ成年・四ニ未成年者ノ法律行為・八ニ禁治産者ト後見・九ニ禁治産者ノ行為能力・一二ニ保佐人ノ同意・八八四ニ親權者ノ管理權・九二三ニ後見人ノ被後見人ノ代表・二二八ニ私生子ノ認知・七七四ニ婚姻ニ付禁治産者ノ行為能力・一〇六

第七百五十七條 隠居ハ隠居者及ヒ其家督相續人ヨリ之ヲ「戸籍吏」ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス

七五二一七五五ニ隠居・七五六ニ無能力者ノ隠居・七五九ニ隠居ノ取消・七三二ニ父ノ知レサル子・九六四一ニ戸主ノ死亡・隠居又ハ兩籍喪失・九八六ニ家督相續ノ開始・九八八ニ財産ノ留保・七六一ニ隠居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主権ノ喪失・九六八以下・戸一一五・四三以下

第七百五十八條 隠居者ノ親族及ヒ檢事ハ隠居届出ノ日ヨリ三ヶ月内ニ第七百五十二條又ハ第七百五十三條ノ規定ニ違反シタル隠居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

女戸主カ第七百五十五條第二項ノ規定ニ違反シテ隠居ヲ爲シタルトキハ前項ノ期間内ニ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

七五五 女戸主カ婚姻ニ因リ、他家ニ入ル場合ノ手續(昭六・東・穂積)(圖例)七三六・七六一

三十歳ノ女戸主十歳ノ男子アル者單ニ届出ノ受理ニヨリ隠居シ得ルカ(大一一・京・岡村)

七五七 隠居ノ效力(昭三・中・豊水)(圖例)九六四・九八六・九八八・七六〇・七六一・民施四一八

第七百五十九條 隠居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隠居ノ届出ヲ爲シタルトキハ隠居者又ハ家督相續人ハ其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ隠居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

隠居者又ハ家督相續人カ詐欺ヲ發見セシ又ハ強迫ヲ免レタル間ハ其親族又ハ檢事ヨリ隠居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但其請求ノ後隠居者又ハ家督相續人カ追認ヲ爲シタルトキハ取消權ハ之ニ因リテ消滅ス

前二項ノ取消權ハ隠居届出ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

七五七ニ隠居ト效力發生時期・九六ニ詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ノ取消・一二三ニ取消シ得ヘキ行為ノ取消又ハ追認ノ方法・六四一項・人訴三五以下

第七百六十條 隠居ノ取消前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ハ其取消ニ因リテ戸主タル者ニ對シテ請求ヲ得コトヲ得但家督相續人ニ對シテ請求ヲ妨ケス

債權者カ債權取得ノ當時隠居取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタルトキハ家督相續人ニ對シテノミ辨濟ノ請求ヲ得スコトヲ得家督相續人カ家督相續前ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ專屬スル債務ニ付キ亦同シ

戸主ノ債權者。民施六四二項。

第七百六十一條 隠居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主権ノ喪失ハ前戸主又ハ家督相續人ヨリ前戸主ノ債權者及ヒ債務者ニ其通知ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ其債權者及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

七三六ニ入夫ト戸主・九六四一・三ニ家督相續開始ノ原因・九八九ニ前戸主ノ債權者・七五二以下・第七百六十二條 新家ヲ立テタル者ハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ得

家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得但本家ノ相續又ハ再興其他正當ノ事由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

七三三ニ父母共ニ知レサル子・七三五ニ私生子ノ入籍ト一家創立・七四〇ニ實家復籍・七四二ニ離婚セラレタル家族ト一家創立・七六四一ニ絶家家族ノ一家創立・七六三ニ廢家ト家族。戸一四三・一四六・非訟九一。

七六一 保證債務者ノ隠居ニ因ル相續開始ノ場合ニ債權者ノ請求權及ヒ相續人カ責ニ任スヘキ特約ノ效力(昭四・東・我妻)(圖例)九八九

七六二 未成年戸主ハ法定代理人ノ同意ナクシテ廢家シ得ルカ(大三・中・牧野)

765 男女カ誠心誠意ヲ以テ將來ニ夫婦タルヘキ豫期ノ下ニ此契約ヲ爲シ全然此契約ナキ自由ナル男女ト一種ノ身分上ノ差異ヲ生スルニ至リタルトキハ尙婚姻ノ豫約アリト爲スニ妨ケナシ(昭六・大審「評論二〇卷三號四九頁」) 一婚姻豫約ノ當事者ノ一方カ正當ノ理由ナクシテ其約ニ違反シ婚姻ヲ爲スコトヲ拒絕シタル場合ニハ其者ハ其相手方ニ對シ之カ爲メ蒙リシ有形無形ノ損害ヲ賠償スル責ニ任スルモノニシテ相手方カ賠償請求ヲ爲スニ付先ツ婚姻

第七百六十三條 戸主カ遺法ニ廢家シテ他家ニ入りタルトキハ其家族モ亦其家ニ入ル

第七百六十四條 戸主ヲ失ヒタル家ニ家督相續人ナキトキハ他家シタルモノトシ其家族ハ各一家ヲ創立ス但子ハ父ニ隨ヒ又父カ知レサルトキ、他家ニ在ルトキ若クハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其家ニ入ル

前項ノ規定ハ第七百四十五條ノ適用ヲ妨ケス

第七百六十五條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラザレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十六條 配偶者アル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十九條 直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但養子ト養方ノ間ニ於テハ此限ニ在ラス

第七百七十條 直系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七百二十九條ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタル後亦同シ

第七百七十一條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十二條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

第七百六十五條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラザレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十六條 配偶者アル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十九條 直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但養子ト養方ノ間ニ於テハ此限ニ在ラス

第七百七十條 直系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七百二十九條ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタル後亦同シ

第七百七十一條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十二條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百六十二條 隨伴人籍ノ意義(昭六・日・森本) (圖例) 七四七・七五〇・七六四

第七百六十四條 遺家(昭二・東・藤積。昭五・明・島田) (圖例) 一〇五九

家ノ設立(昭五・日・河邊) (圖例) 七三三・七四〇・七四二

戸主缺ケ家督相續人未定ノ間ニ親族會ハ其家ヲ廢シ得ルカ(大・一五・中・島田)

婚姻制度ノ批評(昭二・京・中島)

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

婚姻ハ契約カ(大・二・東)

七六五 婚姻ノ成立ノ要件(昭三・日・森本) (圖例) 七六八・七七〇・七七二・七七八

七六六 重婚(昭六・中・藤積) (圖例) 七八〇・八一三・刑一八三

六親等内ノ血族・七六九 血族間ノ婚姻ノ禁止・七八〇 婚姻ノ取消・七七六 婚姻ノ届出受理

七六七 第七六七條ノ說明(大・一五・明・島田)

女カ前夫ト再婚ノ場合ニモ第七六七條ノ適用アルカ(大・一・關・和田)

縁組又ハ婚姻ニヨリ他家ニ入りタル者更ニ婚姻ニヨリ他家ニ入ラントスル場合實家ノ父母ノ同意ヲ要スルヤ(大・一四・中・平野)

七六八 婚姻成立ノ要件(昭三・日・森本) (圖例) 七六五・七六九・七七〇・七七二・七七八

八四三・八一〇

豫約ノ解除ヲ爲ササル可カラサルコトナシ(昭二・大審「法新二六七〇號八頁」)

第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十九條 直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但養子ト養方ノ間ニ於テハ此限ニ在ラス

第七百七十條 直系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七百二十九條ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタル後亦同シ

第七百七十一條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十二條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百七十三條 三親等内ノ姻族・七八〇 婚姻ノ取消・七七六 婚姻ノ届出受理

第七百七十四條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十五條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百七十六條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百七十七條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百七十八條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百七十九條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十一條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十二條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十三條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十四條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十五條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十六條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十七條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十八條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

第七百八十九條 養親ト養子トノ親子關係・七二七條養子ト養親及ヒ其血族ニ於ケル關係・七二五條

772 男カ滿三十年女カ滿二十五年ニ達セサル場合ニハ婚姻ノ豫約ニ付キテモ本條明定ノ同意ヲ得ルヲ要ス (大九・東植新法一八二〇號九頁D)

第七百七十二條 子カ婚姻ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但男カ滿三十年女カ滿二十五年ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス

父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル

父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十三條 繼父母又ハ嫡母ノ不同意・三〇成年・九四七一項ニ親族會ノ決議ノ方法・七五〇ニ家族ノ婚姻又ハ養子縁組ト戸主ノ同意ヲ求ムルノ義務・七七六ニ婚姻ノ届出受理・七八三ニ婚姻ノ取消・七八四ニ婚姻ノ取消權ノ消滅スヘキ場合・八〇九ニ滿二十五年ニ達セサル者ノ協議上ノ離婚・一四三ニ期間ノ計算方法・八四六一項・八六三二項・八七七以下。年齡計算ニ關スル法律。

第七百七十三條 繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 婚姻ト父母ノ同意・七七六ニ婚姻ノ届出受理・八〇九ニ滿二十五年ニ達セサル者ノ協議上ノ離婚・九四四以下。九四一一項・八四六二項・八六三二項。

第七百七十四條 禁治產者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

九〇九ニ禁治產者ノ行爲ヲ取消・七五六ニ無能力者ノ隠居・九四一一項・七七二ニ婚姻ト父母ノ同意・七五〇ニ家族ノ婚姻又ハ養子縁組ト戸主ノ同意・八四七・八一〇・八六四・九〇二以下。一〇六二。

第七百七十五條 婚姻ハ之ヲ「戶籍吏」ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス

前項ノ届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七百七十六條 外國ニ在ル日本人間ノ婚姻・七七六ニ婚姻ノ届出受理・八五〇ニ外國ニ在ル日本人間ノ縁組・八六五ニ離婚ノ届出受理・七七九以下。八一〇・八四七・八六四。民施六八。戸一〇〇・一〇一・一〇三・五七・四三以下。

第七百七十七條 禁治產者ハ有效完全ニ婚姻ヲ爲シ得ルカ (大ニ・關・板垣)

第七百七十八條 婚姻ノ届出 (大ニ・日・森田)

第七百七十九條 婚姻ノ效力 (大ニ・中・島田。大ニ・中・豊水。大ニ・四・京・官本)

内縁ノ妻 (大ニ・四・京・中島)

妾ノ意義 (昭二・京・中島)

776 本條但書ノ規定ハ戶主カ事實上若ハ法律上戶主權ヲ行使シ得ス而モ其代行者アラサル場合ニ於テモ其適用アリ (大ニ・五・法決「法曹四卷一號一六頁」)

778 婚姻ハ當事者雙方ノ意思ニ基ク有效ノ届出アルニ依リ初テ成立スル故縱令本來無効ノ届出ニ基キ當事者ニ戶籍簿上婚姻關係ノ存在ヲ認メ得ヘク且届出後數月間同棲ノ事實アリトスルモ之ニ因リ婚姻ノ成立ヲ認ムルコトヲ得サルモノトス (昭二・大審「法新

第七百七十六條 「戶籍吏」ハ婚姻カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條第一項、第七百五十五條第一項、第七百五十四條第一項、第七百六十五條第一項、第七百七十三條及ヒ前條第二項ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス但婚姻カ第七百四十一條第一項又ハ第七百五十五條第一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ「戶籍吏」カ注意ヲ爲シタルニ拘ハララス當事者カ其届出ヲ爲サント欲スルトキハ此限ニ在ラス

第七百七十七條 婚姻ノ效力・八四九二項・七七九以下。外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ法律。戸一〇〇以下。

第七百七十七條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ婚姻ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第七百七十八條 婚姻ハ左ノ場合ニ限リ無効トス

一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ

二 當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲ササルトキ但其届出カ第七百七十五條第二項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ婚姻ハ之カ爲メニ其

效力ヲ妨ケララルコトナシ

第九五〇ニ意思表示ノ無効・一一九ニ追認ノ效力・七七五ニ婚姻ノ效力。民施六五。戸一六五一一六七。人訴一八一項。一一三三。

第七百七十九條 婚姻ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第七百七十九條 婚姻ノ效力。人訴一八一項。一一三三。戸一〇二。

婚姻豫約ノ相手方以外ノ者ト正式ニ婚姻シ、戶籍吏ニ届出タル場合ニ豫約ノ相手方ノ法律上ノ保護ノ要求 (昭二・關) (關) 七七八・七〇九以下

事實上ノ結婚ヲナシ其届出ヲ拒ム場合拒マルル者ノ法律上ノ救済 (大ニ・三・中・藤積)

第七百七十六條 共ニ戸主タル男女ノ婚姻届ノ受理ト其婚姻ノ效力 (大ニ・五・明・河邊) (共) 七七五・七五四

法定推定相續人カ婚姻ニヨリ他家ニ入ルヘク方式具備ノ届出ヲナシ戶籍吏之ヲ受理セルトキ其婚姻ハ有效カ (大ニ・京・岡村)

第七百七十九條 婚姻ノ取消ト婚姻ノ差異 (大ニ・中島田)

第二節 婚姻ノ效力

791 成年ノ夫ハ未成年ノ妻ニ對シテハ親權者アル場合ト雖モ後見人ノ職務ヲ行フ此場合ニ於テハ第九二九條ノ規定ヲ準用ス(昭二・法決「法曹五卷一號一〇七頁」)

792 夫婦カ其婚姻中ニ於テ爲シタル契約ハ其取消ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ成立ノ日ニ溯リテ無効ニ歸ス(昭三・大地「新報一八二號二八頁」)

第七百八十八條 妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入ル

入夫及ヒ婿妻ノ家ニ入ル

第七百八十九條 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ

夫ハ妻ヲシテ同居ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第七百九十條 夫婦ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

第七百九十一條 妻カ未成年者ナルトキハ成年ノ夫

ハ其後見人ノ職務ヲ行フ

第七百九十二條 夫婦間ニ於テ契約ヲ爲シタルトキ

ハ其契約ハ婚姻中何時ニテモ夫婦ノ一方ヨリ之ヲ

取消スコトヲ得但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得

第七百九十三條 夫婦カ婚姻ノ届出前ニ其財産ニ付

キ別段ノ契約ヲ爲サシトキハ其財産關係ハ次

款ニ定ムル所ニ依ル

第七百九十四條 夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契

約ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ届出マテニ其登記ヲ爲

スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ

對抗スルコトヲ得ス

第七百九十五條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第三節 夫婦財産制

第一款 總則

第七百九十六條 夫婦ノ財産關係ハ婚姻届出ノ後ハ

之ヲ變更スルコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財産ヲ管理スル場合ニ於

テ管理ノ失當ニ因リ其財産ヲ危クシタルトキハ他

ノ一方ハ自ラ其管理ヲ爲サンコトヲ裁判所ニ請求

スルコトヲ得

第七百九十七條 夫婦間ノ請求ト共ニ其分割ヲ請求

スルコトヲ得

第七百九十八條 夫婦ノ居所・七九七ニ夫婦財産管理

者ノ變更ハ〇一ニ夫ト妻ノ財産ノ管理・七七五ニ

婚姻ノ效力・七七六ニ婚姻ノ届出受理・七七七ニ

在外日本人間ノ婚姻・二五五以下。民訴二二三

二二四・二三九・三五三・三五五・三五六。非訟一二三

二項。

第七百九十九條 夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契

約ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ届出マテニ其登記ヲ爲

スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ

對抗スルコトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

取消スコトヲ得但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第三節 夫婦財産制

第一款 總則

第七百九十六條 夫婦ノ財産關係ハ婚姻届出ノ後ハ

之ヲ變更スルコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財産ヲ管理スル場合ニ於

テ管理ノ失當ニ因リ其財産ヲ危クシタルトキハ他

ノ一方ハ自ラ其管理ヲ爲サンコトヲ裁判所ニ請求

スルコトヲ得

第七百九十七條 夫婦間ノ請求ト共ニ其分割ヲ請求

スルコトヲ得

第七百九十八條 夫婦ノ居所・七九七ニ夫婦財産管理

者ノ變更ハ〇一ニ夫ト妻ノ財産ノ管理・七七五ニ

婚姻ノ效力・七七六ニ婚姻ノ届出受理・七七七ニ

在外日本人間ノ婚姻・二五五以下。民訴二二三

二二四・二三九・三五三・三五五・三五六。非訟一二三

二項。

第七百九十九條 夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契

約ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ届出マテニ其登記ヲ爲

スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ

對抗スルコトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

取消スコトヲ得但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第七百九十九條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ

異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日

本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ

ハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於

テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

799 本條第一項ノ收益權ハ夫又ハ女戸主ノ身分ニ伴フモノナルヲ以テ其債權者ハ之ヲ差押ヘ得サルモ該權利ニ基キ取得セル收益ハ差押ヘ得ルモノトス (大一五・法決「法曹四卷一號」)

第七百九十七條 前條ノ規定又ハ契約ノ結果ニ依リ管理若シ變更シ又ハ共有財産ノ分割ヲ爲シタルトキハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第七百九十八條 夫ハ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ負擔ス但妻カ戸主タルトキハ妻之ヲ負擔ス
前項ノ規定ハ第七百九十條及ヒ第八章ノ規定ノ適用ヲ妨ケス
第九十九項 代理人ノ本人ノ爲メニスル意思表示ハ〇七二項 夫又ハ女戸主ノ財産權ノ推定。

第二款 法定財産制

第七百九十九條 夫又ハ女戸主ハ用方ニ從ヒ其配偶者ノ財産ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ有ス
夫又ハ女戸主ハ其配偶者ノ財産ノ果實中ヨリ其債務ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス
第七九八項 婚姻ヨリ生スル一切ノ費用。八八〇一〇一 夫ト妻ノ財産ノ管理。一五〇妻ト營業。八〇〇。
第八百條 第五百九十五條及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス
第八百一條 夫ハ妻ノ財産ヲ管理ス

夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハサルトキハ妻自ラ之ヲ管理ス
第七九八項 配偶者ノ財産ノ使用收益權。七九六二項 夫婦財産管理若シ變更。七九七 夫婦財産管理若シ變更ノ登記。八〇二 妻ノ財産ノ管理ト擔保ノ提供。八〇三 權限ノ定メナキ代理人ノ代理權。八八五 未成年者ノ子ノ配偶者ノ財産管理。九二一 未成年者ノ後見人。二四一 一七。八〇六。
第八百二條 夫カ妻ノ爲メニ借財ヲ爲シ、妻ノ財産ヲ讓渡シ、之ヲ擔保ニ供シ又ハ第六百二條ノ期間ヲ超エテ其貸貸ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス但管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分スルハ此限ニ在ラス
八〇一 一 夫ト妻ノ財産ノ管理。一〇三 權限ノ定メナキ代理人ノ代理權。八〇六。

第二款 法定財産制

法定ノ夫婦財産制ノ大要(大二・明)
夫婦ノ執行ニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス
七七五 婚姻ノ效力。七九八 婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ノ負擔。七四八 家族ノ特有財産。

804 登記申請ハ日常ノ家事ニアラス (大一四・法決「法曹四卷二號」) 一金百圓又ハ金七百圓ト云フカ如キ消費貸借ハ日常ノ家事ニ非ス (昭三・大審「法新二九四八號」)

807 反證ナキ限甲女カ乙男ト婚姻豫約ヲ爲シ乙男方ニ持參セル物件ハ甲女ノ所有物ナリト認定スルヲ相當トス (大一〇・東控「評論一〇卷民二一頁」)

第八百三條

夫カ妻ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ妻ノ請求ニ因リ夫ヲシテ其財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

八〇一 一 夫ト妻ノ財産ノ管理。七九六二項 夫夫婦財産管理若シ變更。民訴二二三・二二四。二三九・三五三・三五四・三五六。

第八百四條 日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス
夫ハ前項ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ否認スルコトヲ得但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八百五條 夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

一〇三 權限ノ定メナキ代理人ノ代理權。一〇六 法定代理人ノ責任。八〇五 妻ノ財産ノ管理ト注意義務。八〇六。

第八百六條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

八〇一 一 夫ト妻ノ財産ノ管理。八〇二 夫ノ管理權ト妻ノ承諾。八〇四 妻ノ日常ノ家事代理權。

第八百七條 妻又ハ入夫カ婚姻前ヨリ有セル財産及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産

トス
夫婦ノ執行ニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス
七七五 婚姻ノ效力。七九八 婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ノ負擔。七四八 家族ノ特有財産。

八〇四 夫(戸主)ハ財産ヲ有セス妻之ヲ有スル家庭アリ、妻カ日常ノ家事ニ關シテ出入商人ヨリ日用品ヲ買入タル代金ニ對シテハ(イ)夫ニ支拂ノ責任アリヤ(ロ)妻ニ支拂ノ責任ナキカ、ナシトセハ出入商人ハ事實支拂ヲ受ケサルコトトナル、差支ナキカ(昭四・東・未弘) 八〇四・八〇一以下

夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハサルトキハ妻自ラ之ヲ管理ス
第七九八項 配偶者ノ財産ノ使用收益權。七九六二項 夫婦財産管理若シ變更。七九七 夫婦財産管理若シ變更ノ登記。八〇二 妻ノ財産ノ管理ト擔保ノ提供。八〇三 權限ノ定メナキ代理人ノ代理權。八八五 未成年者ノ子ノ配偶者ノ財産管理。九二一 未成年者ノ後見人。二四一 一七。八〇六。
第八百二條 夫カ妻ノ爲メニ借財ヲ爲シ、妻ノ財産ヲ讓渡シ、之ヲ擔保ニ供シ又ハ第六百二條ノ期間ヲ超エテ其貸貸ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス但管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分スルハ此限ニ在ラス
八〇一 一 夫ト妻ノ財産ノ管理。一〇三 權限ノ定メナキ代理人ノ代理權。八〇六。

808 協議上離婚ノ意思表示カ詐欺又ハ強迫ニ出ヅル場合ト雖モ之カ取消ヲ許ササルモノトス (大一〇・法決「法曹三」卷九號五一頁)

第四節 離婚

第一款 協議上ノ離婚

第八百八條 夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第八〇九條 保佐人ノ選任ト親族會。八一〇條 協議上ノ離婚

第八百九條 滿三十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ其婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八一〇條 協議上ノ離婚ノ計算方法。八一〇條 協議上ノ離婚。八一〇條 協議上ノ離婚ノ屆出。年齡計算ニ關スル法律。

第八百十條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離婚ニ之ヲ準用ス

第八〇八條 協議上ノ離婚。八一〇條 協議上ノ離婚。八一〇條 協議上ノ離婚ノ屆出。戶籍吏「戸籍吏」ハ離婚カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百九條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

第八一二條 協議上ノ離婚ヲ爲シタル者カ其協議ヲ以テ子ノ監護ヲ爲スヘキ者ヲ定メサリシトキハ其監護ハ父ニ屬ス

第四節 離婚

第一款 協議上ノ離婚

第八〇八 夫婦關係消滅ノ原因並ニ各原因カ他ノ原因ト根本的ニ異ナル點(昭六・日・森本) 八一三 (關係) 八一四 八一八 八一三 親子關係カ父母ノ離婚ニヨリ受ケル影響 (大一四・東・未弘) (關係) 八一三

第二款 裁判上ノ離婚

第八百十三條 夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

一 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ

二 妻カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ

三 夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ

四 配偶者カ偽造、賄賂、擄奪、竊盜、強盜、詐欺取財、受寄財物費消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第七十五條第二項第六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ「輕罪」以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ「重禁錮」三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

五 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

六 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ

七 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

八 配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十一 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十二 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十三 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十四 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十五 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十六 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十七 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十八 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十九 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

第二款 裁判上ノ離婚

八一三 夫婦關係消滅ノ原因並ニ各原因カ他ノ原因ト根本的ニ異ル點(昭六・日・森本) (關係) 八一三 親子關係カ父母ノ離婚ニヨリ受ケル影響 (大一四・東・未弘) (關係) 八一三

813 夫甲カ丙女ト私通シ内縁夫婦關係アル場合ハ妻乙ハ自己カ丁男ト姦通シ居ル場合ニ於テモ本條第五號ニ依リ離婚ノ請求ヲ爲シ得 (昭四・大審「法新二九七六號一四」)

民法 親族 親子 嫡出子

820 本條ノ規定ハ嫡出子ナリヤ否ヲ定ムルニ付法律上ノ推定ヲ爲シタル迄ニ過キスシテ嫡出子ニ必要ナル要件ヲ定メタルモノニ非ス(大九・法決「法曹三〇卷七號二一頁」)一婚姻後二百日以内ニ出生シタル子ヲ嫡出子トシテ出生届ヲ爲スニ際シ戸主カ同意ヲ爲ササルトキハ直ニ一家ヲ創立スヘキモノトス(大一三・民事局長回答)

第四章 親子

第一節 實子

第一款 嫡出子

第八百二十條 妻カ婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス
婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日以内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定ス
第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム
第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得
第八百二十三條 前條ノ否認權ハ子又ハ其法定代理人ニ對スル訴ニ依リテ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス
第八百二十四條 夫ノ嫡出子權ノ消滅・一〇八〇同ノ法律行爲ト雙方代理・八八四親權者ノ管

第四章 親子

第一節 實子

第一款 嫡出子

八二〇 懷胎期間(昭六・日・森本) (國傳七六七) 親子關係ノ法律事實ニ因ル發生ノ具體的説明(昭五・日・河邊) (國傳八二七・八六〇)
嫡出子タルコトノ承認(昭四・明・島田) (共傳八三六・八二七)
親子ノ種類(大二・法。大一・中・中島) (共傳八二七・八三七)
嫡出子(大一・四・東・仁井田)
甲乙婚姻中ニ懷胎シ、離婚ニ因リ實家ニ復籍シタル後生ミタル子ト甲及乙ノ間ニ生スル法律關係(昭二・東・藤積)
婚姻後九十日ニシテ夫死亡シ夫死亡後九十日ニシテ子出生セリ其子ハ(イ)嫡出子ナリヤ(ロ)嫡出ノ推定ヲ受クルヤ(昭五・日・森本)
婚姻前ニ懷胎シ婚姻後ニ生シタル子ハ嫡出子ナリヤ(大二・中・牧野、大二・立・岡村)

民法 親族 婚姻 離婚 裁判上ノ離婚

814 宥恕トハ相手方ノ非行ニ對スル惡感情ヲ拋棄スルコトヲ表示スル一方行爲ニシテ明示タルコトヲ要セス(昭二・大審「評論一七卷一號八九頁」)

第八百十四條 前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキ亦同シ
第八百十五條 第八百十三條第四號ニ掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其配偶者ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
第八百十六條 第八百十三條第一號乃至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ
第八百十七條 第八百十三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ配偶者ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
第八百十八條 第八百十三條第十號ノ場合ニ於テ離婚又ハ縁組取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第八百十九條 第八百十三條第十一號ノ場合ニ於テ離婚又ハ縁組取消ノ請求アリタルコトヲ知リタル後三ヶ月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
第八百二十條 以下ニ縁組ノ取消・八五二以下ニ縁組ノ取消・

七三九 離婚又ハ離婚後ト實家復籍・七四五 夫ノ他家入籍又ハ一家創立ト妻ノ隨伴入籍・八七六 法律上ノ離婚・民施七〇二項・人訴一一一八・戶一〇五
第八百十九條 第八百十二條ノ規定ハ裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ子ノ利益ヲ爲メ其監護ニ付キ之ニ異ナリタル處分ヲ命スルコトヲ得
人訴一六

八一九 夫婦ノ一方ノ死亡ト離婚トノ效果ノ差異 (大一五・中・島田) (國傳八一三)

八二〇 懷胎期間(昭六・日・森本) (國傳七六七) 親子關係ノ法律事實ニ因ル發生ノ具體的説明(昭五・日・河邊) (國傳八二七・八六〇) 嫡出子タルコトノ承認(昭四・明・島田) (共傳八三六・八二七) 親子ノ種類(大二・法。大一・中・中島) (共傳八二七・八三七) 嫡出子(大一・四・東・仁井田) 甲乙婚姻中ニ懷胎シ、離婚ニ因リ實家ニ復籍シタル後生ミタル子ト甲及乙ノ間ニ生スル法律關係(昭二・東・藤積) 婚姻後九十日ニシテ夫死亡シ夫死亡後九十日ニシテ子出生セリ其子ハ(イ)嫡出子ナリヤ(ロ)嫡出ノ推定ヲ受クルヤ(昭五・日・森本) 婚姻前ニ懷胎シ婚姻後ニ生シタル子ハ嫡出子ナリヤ(大二・中・牧野、大二・立・岡村)

827 私生子ノ母ハ分娩ニ因リ其私生子ト親子關係ヲ生ス故ニ私生子ハ母ノ認知前モ法律上ノ親子關係ヲ生シ其生母ノ遺産相続權アリ (昭三・法決「法曹六卷三號一〇頁」)

見入ノ財産ノ管理・九〇〇以下ニ後見ノ開始。民訴五六(四五)。人訴二七二九・三七七・三九一八。戸七三。

第八百二十四條 夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルトキハ其否認權ヲ失フ

第八百二十五條 否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第八百二十六條 夫カ未成年者ナルトキハ前條ノ期間ハ其成年ニ達シタル時ヨリ之ヲ起算ス但夫カ成年ニ達シタル後ニ子ノ出生ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

夫カ禁治産者ナルトキハ前條ノ期間ハ禁治産ノ取消アリタル後夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第三〇〇成年・四〇〇未成年者ノ行爲ト法定代理人ノ同意。七一〇〇禁治産者。

第二款 庶子及ヒ私生子

第八百二十七條 私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

第八百二十八條 以下ノ庶子及ヒ私生子ノ認知・九七〇〇被相続人ノ直系卑屬ト家督相続人。一〇〇〇四相

續分・八七七〇親權ニ服スル子。八七八〇繼父繼母又ハ嫡母ノ親權行使ノ制限。七三三〇七三五。人訴三七七・三九二・二七。

第二款 庶子及ヒ私生子

八二七 私生子、嫡出子ノ意義及ヒ其ノ身分取得ノ原因(昭六・日・森本) (關例) 八二〇・八三六

私生子ト其母トノ法律關係ノ發生(大・四・東・穂積。昭六・中・穂積)

私生子ノ事實上ノ父ニ非サル者カ其子ヲ認知セルトキノ認知ノ效力(大・一・五・中・島田)

私生子ト其父母トノ關係(大・二・日・島田。大・一・三・中・穂積)

私生子ノ民法上ノ地位(昭四・京・中島)

父ハ他家ニ入リテ戸主トナリタル後私生子ヲ認知スルヲ得ルヤ、認知シ得トセハ父ノ家ニ入ルヘキヤ(昭六・京・中島) (關例) 七六二・七三三

夫ハ妻ノ私生子ヲ養子トセル後之ヲ認知シ得ルカ(大・四・中・大・四・法・牧野) (關例) 八四三

妻ノ私生子ヲ養子トセル後之ヲ認知シ得ルカ(大・五・法・牧野) (關例) 八四三

831 死亡セル私生子認知ニ方リ其子ニ成年直系卑屬數人アリテ之カ承認者ト然ラサル者アルトキハ承認者ニ對シテノミ認知ノ效ヲ生ス (昭三・法決「法曹六卷一號九五頁」)

第八百二十九條 私生子ノ認知ハ「戶籍吏」ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲ス

第八百二十八條 私人ノ認知ヲ爲スニハ父又ハ母カ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第八百二十九條 私人ノ認知ヲ爲スニハ父又ハ母カ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十一條 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第八百三十二條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十三條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十四條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十五條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十六條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十七條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十八條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十九條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十一條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十二條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十三條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十四條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十五條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十六條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十七條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十八條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十九條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百五十條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百二十九條 私生子ノ認知ハ「戶籍吏」ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲ス

第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十一條 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第八百三十二條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十三條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十四條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十五條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十六條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十七條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十八條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十九條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十一條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十二條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十三條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十四條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十五條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十六條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十七條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十八條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百四十九條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百五十條 成年ノ私生子ハ其承認アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

834 利害關係人ニ於テ父ノ爲セル私生子認知ノ無効確認ヲ求ムルニハ父及私生子ヲ被告トセハ足り私生子ノ母ハ當事者トスル要ナシ(昭五・大審「評論一九卷九號二四頁」)

835 私生子カ其父母ニ對スル認知請求權ハ親族法上認メラレタル身分上ノ權利ニシテ之ヲ拋棄スルヲ得サルモノトス(昭六・東控「評論二〇卷六號四頁」)

第八百三十二條 認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ズ但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百三十三條 認知ヲ爲シタル父又ハ母ハ其認知ヲ取消スコトヲ得ス

第八百三十四條 子其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

第八百三十五條 子、其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得

第八百三十六條 子其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

第八百三十七條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十八條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十九條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

九二三||被後見人ノ財産ニ關スル法律行為・九〇〇以下||後見ノ開始。人訴二七・三七||三九・一八。戸八四。民訴七三六。

第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス

第八百三十七條 認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ズ但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百三十八條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十九條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百四十條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百四十一條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百四十二條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

第八百三十七條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十八條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十九條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百四十條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百四十一條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百四十二條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

問題

養子制度(大・四・關・官本。大・一五・東・鳩山)

第一款 縁組ノ要件

八三七 繼父ハ繼子ヲ養子トナシ得ルカ(大五・中・牧野)

八三八 自己ヨリ年少ノ叔父ヲ養子トナシ得ルカ(昭三・東・末弘)(關例七二六)

八三九 戸主ノ長男死亡シテ其ノ女子カ法定ノ推定家督相續人タル場合ハ男養子ヲ爲シ得ルカ若シ得ルトセハ其效果如何(昭六・東・穂積)(關例八六〇)

八四〇 實親子間ニ養子縁組ヲ爲シ得ルカ若シ家ヲ同クスル庶子又ハ私生子ヲ養子ト爲シ得ルモノトスレハ其子カ十五歳未滿ナルトキハ如何ナル手續ニ依ルヘキカ(昭四・東・穂積)

八四一 甲ノ庶子乙ハ甲ノ養子トナリ得ルカ若シ得ルトスレハコノ場合ニ乙ノ妻丙、並ニ子丁ト甲トノ間ニハ法律上身分關係アリヤ(昭六・九・舟橋)(關例七二五)

八四二 女戸主甲ハ私生男乙以外ニ家族ナシ甲ハ丙男ヲ養子トナシ得ルカ(昭六・九・舟橋)(關例八二七・九七〇)

839 法定推定家督相續人タル男子トハ相續順位ニ於テ優越地位ニ在リ養子ニ因リ直ニ相續權ヲ妨ケララルコトナキ者ヲ謂ヒ私生子ヲ含マス(昭三・大審「評論一八卷二號八五頁」)一戸主甲カ庶子女及其夫タル婿養子ヲ有スル場合ニ於テモ男子ヲ養子ト爲シ得(昭六・法決「評論二〇卷八號一〇八頁」)

843 私生子ノ養子縁組ハ同家ノ養母ノ承諾ヲ以テ足り實父ノ承諾ヲ要セス (昭六・大審「評論二〇卷八號三七頁」)

第八百四十一條 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務カ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニハ之ヲ適用ス

第九〇〇以下ニ後見ノ開始・九三七以下後見ノ終了・八四九ニ縁組ノ届出受理・八五五ニ縁組ノ取消

第八百四十一條 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第七七五ニ婚姻ノ效力發生時期・七八八ニ婚姻ノ效力・七八九ニ夫婦間ノ義務・八六一ニ養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル・八四九ニ縁組ノ届出受理・八五六ニ縁組ノ取消・八四二ニ

第八百四十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得

第八百四十三條 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

第八百四十四條 養親カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一四三ニ期間ノ計算法・八四四ニ縁組ト家ニ在

ル父母ノ同意・八四八ニ遺言ニ依リ養子ト爲ルヘキ者ト縁組ノ届出・八四九ニ縁組ノ届出受理・八六二ニ養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者・八六七ニ十五年未滿ノ養子・九四四以下ニ親族會・八四六ニ縁組ノ取消

第七七二ニ年齢計算ニ關スル法律・戸九〇

第八百四十四條 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三ニ成年・八三七ニ養子縁組・八四三ニ父母ノ縁組承諾權・七七三ニ婚姻ト親族會ノ同意・七五〇ニ縁組ト戸主ノ同意・八四九ニ縁組ノ届出受理・八五七ニ縁組ノ取消・七七四ニ婚姻ニ付テ禁治産者・八六三・八四七・八四六・七七二ニ

八四一 配偶者ノ共ニスル養子縁組(昭四・明・島田)

養子縁組ニ於ケル夫婦共同ノ原則(大・一四・京・宮本)

八四三 第八四三條ノ論評(昭三・早・外岡)

845 養親ハ他家ニ在ル自己ノ養子ヲ更ニ養子トシテ入籍セシムルコトヲ得 (昭元・民事局長回答)

846 養子縁組ノ代諾ヲ爲スヘキ父母カ二十五年未滿ナルトキハ其代諾ハ其法定代理人及親族會ニ於テ爲スヘキモノトス (昭四・法決「法曹七卷六號一一〇頁」)

第八百四十五條 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス

第七七五ニ婚姻ノ效力發生時期・八六一ニ養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル・七四五ニ夫ノ他家ニ入籍又ハ一家創立ト妻ノ隨伴入籍・八四一ニ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル・七三三ニ婚姻ト親族會ノ同意・七四一ニ家族ノ縁組能力・八四九ニ縁組ノ届出受理・八五七ニ詐欺又ハ強迫ニ因ル同意ト縁組ノ取消・八四六・八四七・七七二ニ

第八百四十六條 第七百七十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百七十三條ノ規定ハ前三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

八四九ニ縁組ノ届出受理・八五七ニ詐欺又ハ強迫ニ因ル同意ト縁組ノ取消・八四六・八四七・七七二ニ

第八百四十七條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス

八四九ニ縁組ノ届出受理・九二三ニ後見人ノ管理權・戸八八・九四

第八百四十八條 養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言執行者・養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ

成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

一〇六〇以下ニ遺言・一〇八七ニ遺言ノ效力・八六〇ニ縁組ニ因ル届出子タル身分ノ取得・八六一ニ養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル・八四九ニ縁組ノ届出ノ受理・八四〇ニ被後見人ト養子・八五〇ニ在外日本人間ノ縁組ノ届出・八五二ニ縁組ノ届出ノ欠缺・戸九一

第八百四十九條 「戸籍吏」ハ縁組カ第七百四十一條第一項・第七百四十四條第一項・第七百五十五條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

八五〇ニ在外日本人間ノ縁組ノ届出・八五二以下ニ縁組ノ取消・戸八八・九四・八八以下ニ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ法律

第八百五十條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ縁組ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第七百七十五條及ヒ前二條ノ規定ヲ準用ス

八四七・八四九ニ縁組ノ届出・戸六〇以下・八八以下

851 婚養子縁組無効確認ノ訴ニ付相手方ト爲ルヘキ者カ死亡シタルトキハ人事訴訟法第二六條第二條ヲ類推適用シ檢事ヲ以テ相手方トスルヲ相當トス從テ相手方ノ死亡ニ因リ該訴訟カ當然消滅スルモノト爲スヘキニ非サルヲ以テ檢事ニ於テ訴訟ヲ受繼ク迄該訴訟ハ中斷ス(昭三・東控「法新二八八三號一一頁」)

第八百五十一條 縁組ハ左ノ場合ニ限リ無効トス
一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲スルコトナシ
二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲ササルトキ但共届出カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百四十八條第一項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ縁組ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラ

第九五〇 意思表示ノ無効
一一九〇 無効ノ行爲ノ追認
七七五〇 婚姻ノ效力發生時期
八四七〇 民法
六五〇 戸一六五〇一六七
八二四〇一六六
第八百五十二條 縁組ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス
第八五三〇一八五九〇 縁組ノ取消
人訴二四一〇二六
二〇一八一〇 戸九三〇

第八百五十三條 第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
第八五二〇 縁組ノ取消
八八四〇 親權者ノ法定代理權
八七七〇 親權ニ服スル子
九二二〇 禁治產者ノ後見人
九〇〇〇 以下
一一二〇 以下
戸九三〇

第八百五十四條 第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者、其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
八五二〇 縁組ノ取消
七二五〇 親族ノ範圍
人訴二四一〇二六
戸九三〇

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消
八五一〇 Aハ戸主Bト其妻Dトノ間ノ私生子ナルカ他人タルDE間ニ届出子トシテ届出ラレ更ニDEトノ承諾ニ因リテB及ヒ其妻ノ養子トナレリAト他ノ各人トノ間ノ身分關係如何(昭三・東・穂積)

第九四〇 甲男ト乙女トカ内縁關係ニアル中丙男子カ出生シタ直チニ之ヲ友人丁夫妻ノ養子ニヤツタトコロ、丁夫妻ハ之ヲ届出子トシテ届出タ、其後甲男ト乙女トハ婚姻ヲ爲シタ後、丁夫妻ノ同意ヲ得テ丙ニ自分達ノ届出子タル身分ヲ與ヘタイト思フ、ドウスレハヨイカ(昭五・東・我妻)

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用スル意思表示ノ取消
九六〇 詐欺又ハ強迫ニ因リテハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス
前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス
八五二〇 縁組ノ取消
八六六〇 縁組ノ原因
七八六〇 縁組ノ無効ニ因ル婚姻ノ取消
人訴二四一〇二六
戸九三〇

第八百五十九條 第七百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六ヶ月トス
八五八〇 婚養子縁組ノ性質(大一二・京・中島)

858 妻子携帶分家ヲ爲シタル婚養子ハ之ヲ離縁スルヲ得蓋シ婚養子ハ養家ノ戸主トナリシモノニ非ス分家ノ戸主ト爲リシモノナルカ故ナリ而テ婚養子ハ戸主ト爲リタルモノナルヲ以テ實家ニ復籍セス(昭四・法決「法曹七卷六號一一二頁」)

第八百五十五條 第八百四十條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終ハリタル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス
追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ
養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復セサル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル場合ニ於テハ第一項但書ノ期間ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス
八五二〇 縁組ノ取消
一一二〇 取消シ得ヘキ行爲ノ追認ノ效果
一二三〇 以下
取消シ得ヘキ行爲ノ取消又ハ追認ノ方法
人訴二四一〇二六
戸九三〇

第八百五十六條 第八百四十一條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ササリシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但配偶者カ縁組アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス
八五二〇 縁組ノ取消
一一二〇 以下
取消シ得ヘキ行爲
人訴二四一〇二六
戸九三〇

第八百五十七條 第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意力詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用スル意思表示ノ取消
九六〇 詐欺又ハ強迫ニ因リテハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス
前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス
八五二〇 縁組ノ取消
八六六〇 縁組ノ原因
七八六〇 縁組ノ無効ニ因ル婚姻ノ取消
人訴二四一〇二六
戸九三〇

第八百五十九條 第七百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六ヶ月トス
八五八〇 婚養子縁組ノ性質(大一二・京・中島)

第九四〇 甲男ト乙女トカ内縁關係ニアル中丙男子カ出生シタ直チニ之ヲ友人丁夫妻ノ養子ニヤツタトコロ、丁夫妻ハ之ヲ届出子トシテ届出タ、其後甲男ト乙女トハ婚姻ヲ爲シタ後、丁夫妻ノ同意ヲ得テ丙ニ自分達ノ届出子タル身分ヲ與ヘタイト思フ、ドウスレハヨイカ(昭五・東・我妻)

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用スル意思表示ノ取消
九六〇 詐欺又ハ強迫ニ因リテハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス
前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス
八五二〇 縁組ノ取消
八六六〇 縁組ノ原因
七八六〇 縁組ノ無効ニ因ル婚姻ノ取消
人訴二四一〇二六
戸九三〇

860 長女ニ婿養子ヲ爲セル後戸内離婚ヲ爲シ戸主カ離縁ヲセサルトキハ家督相続權ハ養子ニアリ (昭四・法決「法曹七卷」)

第三款 縁組ノ效力
第八百六十條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス
第七五〇項ニ婚約ノ效力發生時期・七二九〇婚約ノ効果・九七〇二項ニ親等同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス(家督相続ノ順位)・九九四〇遺産相続人・八四七・八四八二項
第八百六十一條 養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル
第七七五〇婚約ノ效力發生時期・八六〇〇縁組ノ效力・七四六〇氏ヲ稱スル權利・八四七・七三三〇

第四款 離縁
第八百六十二條 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得
養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親ト養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス
養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得
八六三〇協議上ノ離縁能力・八六四〇離縁ノ届出・八六五〇離縁ノ届出ノ受理・八四三〇家ニ在ル父母ノ縁組代理權・八七四〇養子戸主ノ離縁ノ禁止・七三七〇自己入籍ト戸主ノ同意・戸九五〇九九
第八百六十三條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十四條ノ規定ニ依リ其

縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第七百七十二條第二項、第三項及ヒ第七百七十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
八六二〇協議上ノ離縁能力・八六五〇離縁ノ届出ノ受理・八〇九〇滿二十五年ニ滿タサル者ノ協議上ノ離婚
第八百六十四條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離縁ニ之ヲ準用ス
八六二〇協議上ノ離縁能力・戸九五〇九九九

第三款 縁組ノ效力
八六〇 二女アリ、長女ニ婿養子ヲ迎ヘ一女ヲ擧ケタリ後離婚ニ因リ婿養子去レリ其後次女ニ婿養子ヲ迎ヘテ一男ヲ擧ケタリ後亦離婚ニ因リ婿養子去レリ然ル後長女ノ前配偶者ハ再ヒ婿養子トシテ入レリ、此場合法定推定家督人ノ順位ハ何人ニアリヤ(昭六・京・中島) (國例) 九七〇・九七四・九七三

866 養子縁組ニ在リテハ婚姻ノ場合ト異リ縁組ノ當事者間ニ同居義務ヲ生セサル故本條ノ遺棄ハ第八一三條ノ惡意ノ遺棄ト異リ同居義務ノ違反ヲ指稱セス扶養義務ノ違反ヲ指稱ス (昭三・大地「評論一七卷民四六四頁」) 一所謂惡意トハ結果ヲ欲望スルコトヲ謂フモノニシテ單ニ結果ニ對スル認識アルノミヲ以テ足レリトセス(同上) 一裁判上養子離縁ノ原因存スル場合其養子カ十五歳未滿ノ幼者ナル時ハ其縁組ニ付承諾權ヲ有スル者ヨリ養子ニ代

第八百六十五條 「戸籍吏」ハ離縁カ第七百七十五條第二項、第八百六十二條及ヒ第八百六十三條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス
「戸籍吏」カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離縁ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケララルコトナシ
九六〇 詐欺又ハ強迫ニ因リ意思表示ノ取消。戸九五〇九九九
第八百六十六條 縁組ノ當事者ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
二 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
三 養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
四 他ノ一方カ「重禁錮」一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
五 養子ニ家名ヲ渡シ又ハ家産ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ
六 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ
七 養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ
八 他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
九 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ

又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ
八七四〇戸主ノ離縁ノ禁止・八六七〇八七〇・八七二〇八七三〇・八六九〇離縁ノ訴・九五四〇扶養義務者・七七二〇親族婚姻ノ禁止・八四九〇縁組ノ届出ノ受理・八八〇〇未成年ノ子ノ居所ノ指定・八五八〇第二種ノ法定推定家督相続人ノ職缺・八三九〇男子ノ養子・七四五〇夫ノ他家入籍又ハ一家創立ト妻ノ隨伴入籍・八〇九以下・七九以下・八六七以下・民法六七・七〇・八二四一・二六・戸九八・刑施二・二九・三〇・三五
第八百六十七條 養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
八四三〇十五年未滿ノ養子。人訴二四一・二六・戸九八
第八百六十八條 第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
第八百六十九條 第八百六十六條第四號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
第八百六十六條第四號ニ掲ケタル刑ニ處セラレタ

民法 親族 親權 總則 親權ノ效力

877 同一家籍内ニ養母及實父母アル場合養子ニ對シ親權ヲ行使スルヲ得ルハ養母ニシテ實父母ニ非ス(昭三・大審「大判八九頁」)
 一 獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ禁治產者又ハ準禁治產者タルヲ妨ケス(昭五・法決「法曹八卷九號一四六頁」)
 878 親權者ニ服スル者ト親權者タル未成年者ノ後見人ノ間ニハ後見人ト被後見人トノ間ニ關スル規定ヲ準用ス(大一四・大審「彙

第七四五ノ夫ノ他家入籍又ハ一家創立ト妻ノ隨伴入籍・七八九ノ夫婦ノ同居ノ義務・七九〇ノ夫婦ノ扶養ノ義務・八一三ノ離婚若クハ縁組ノ取消アリタルトキノ離婚ノ訴・八六六ノ離婚ノ原因ト離婚若クハ婚姻ノ取消
第五章 親權
第一節 總則
 第八百七十七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス
 父カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ
 ◇八二〇ノ嫡出子・八二七ノ庶子及ヒ私生兒・八六〇ノ縁組ニ因ル嫡出子・七二八ノ親族關係ノ發生・八七八ノ繼父繼母又ハ嫡母ノ親權行使ノ制限・八七九以下ノ親權ノ效力・八九六ノ八九九ノ親權ノ喪失・八九五ノ親權者ト戸主權及ヒ親權ノ代行・九三四ノ未成年者ノ後見人・九〇〇ノ禁治產者ノ後見人・九二一ノ未成年者ノ後見人・七三三ノ一ノ項ノ子ハ父ノ家ニ入ル・三ノ成年・七三三ノ二ノ項ノ父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ル・八二七ノ父カ知レサル私生子・七三五ノ庶子及ヒ私生兒ノ入籍ト戸主ノ同意・七八八ノ二ノ項

第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ
 ◇八七七ノ親權・八七八ノ繼父繼母又ハ嫡母ノ親權行使ノ制限・三ノ成年・八一三ノ協議上ノ離婚ト子ノ監護・八一九ノ裁判上ノ離婚ト子ノ監護・八九〇ノ未成年者ノ子ノ養育費及ヒ財產管理費ト財產收益トノ相殺・九二一ノ未成年者ニ對スル後見人ト親族會ノ同意・八九六ノ親權ノ濫用ト喪失・八八〇以下
第五章 親權
第二節 親權ノ效力
 第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ
 ◇八七七ノ親權・八七八ノ繼父繼母又ハ嫡母ノ親權行使ノ制限・三ノ成年・八一三ノ協議上ノ離婚ト子ノ監護・八一九ノ裁判上ノ離婚ト子ノ監護・八九〇ノ未成年者ノ子ノ養育費及ヒ財產管理費ト財產收益トノ相殺・九二一ノ未成年者ニ對スル後見人ト親族會ノ同意・八九六ノ親權ノ濫用ト喪失・八八〇以下
 八七九 幼兒ヲ略取シタル者ニ對シ幼兒ノ親權者又ハ戸主ハ其返還ヲ請求シ得ルカ(昭二・明・島田)

民法 親族 親子 離縁

親ニ對シ養子離縁請求ノ訴ヲ提起シ得ヘク其承諾權ヲ有スル者ハ養子ノ實家ノ父母ニシテ其訴ハ必要的共同訴訟ナリト解スルヲ相當トス(大一四・臺高「集報二輯民訴七六頁」)

ル者ハ他ノ一方ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
 第八百七十條 第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離縁ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ
 ◇民七〇二ノ項ニ但書ノ規定
 第八百七十一條 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ
 第八百七十二條 第八百六十六條第七號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 第八百七十三條 第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離縁ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第八百六十六條第九號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ離縁請求ノ權利ヲ放棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 ◇八〇八以下ノ協議上ノ離婚・七七九以下ノ婚姻ノ取消・七三九ノ離婚又ハ縁組ト實家復籍・七四五ノ夫ノ他家入籍又ハ一家創立ト妻ノ隨伴入籍

第八百七十六條 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス
 ◇八四一ノ縁組ト配偶者ノ同意・八〇八ノ離婚ノ協議・八一三ノ裁判上ノ離婚・八六二ノ協議上ノ離婚・八六六ノ離婚ノ原因・八七四ノ養子戸主ノ隱居ト離婚・七三九ノ離婚又ハ縁組ト實家復籍
 第八百七十四條 養子カ戸主ト爲リタル後ハ離縁ヲ爲スコトヲ得ス但隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス
 ◇八六二ノ協議上ノ離縁・八六六ノ離縁ノ原因・七三九ノ離婚又ハ縁組ト實家復籍・七五二以下ノ戸主權ノ喪失・九六四ノ家督相續開始ノ原因
 第八百七十五條 養子ハ離縁ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既ニ取消シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス
 ◇八六二ノ協議上ノ離縁・七三〇ノ養親了關係ノ消滅・七三九ノ離婚又ハ縁組ト實家復籍・九七〇ノ被相續人ノ家族ト家督相續人ノ順位・七四〇ノ實家再興・七四二ノ復籍ヲ拒マレタル者ノ離婚・七五〇ノ養親ノ離縁ト養子ノ隨伴入籍

886 登記申請ハ單純ナル事實行爲ナルヲ以テ其申請ニ親族會ノ同意ヲ要セス(大一四・法決「法曹三卷一號」)
 887 本條ノ取消權ハ財産權ニ關スル權利ニシテ相續ノ目的ト爲ルモノトス(昭六・大審「評論二〇卷四號五九頁」)
 888 隱居ヲ爲サントスル親權者カ子ニ代リ單純承認又ハ相續承認ヲ爲スハ利益相反スル行爲ナリ(昭四・法決「法曹七卷六號一〇頁」)一父カ未成年者ノ子ヲ代表シテ利益相反スル行爲ヲ爲シ

五 未成年者ト財產處分・六一項 未成年者ノ成年者ト同一效力。八〇一 夫ト妻ノ財産ノ管理。四一六 未成年者ノ行爲能力。八二三 嫡出子否認ノ訴ト法定代理人。八三五 法定代理人ト認知請求權。八九五 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代リテ戸主權及親權ヲ行フ。八八六・八八八。民訴四五(四三)・四九(四三)・六三(四三)。

第八百八十五條 未成年ノ子カ其配偶者ノ財産ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母之ニ代リテ其財産ヲ管理ス

第八百八十六條 親權ニ服スル子。八七八 親權行使ノ制限。八〇一 親權行使ノ制限。八九三 子ノ財産管理消滅ト必要處分ノ義務及ヒ對抗要件。九二一 未成年者ニ對スル親權行使ノ同意。八八四。親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リテハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十七條 親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

第八百八十八條 親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母ハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第八百八十九條 親權ヲ行フ場合ニ於テハ其一人ト他ノ子トノ利益相反スル行爲ニ付テハ其一方ノ爲メ前項ノ規定ヲ準用ス

六 贈與又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト

第八百七十七條 親權ニ服スル子。八七八 親權行使ノ制限。八八四 親權者ノ管理權。八九七 親權者ノ管理權喪失宣告。八九九 親權ヲ行フ母ト管理權ノ拋棄。九〇〇 後見ノ開始。九二一 未成年者ニ對スル後見人ト親族會ノ同意。六〇六 未成年者ノ行爲能力。商五 未成年者ノ商業ト登記。非訟一六六。一六八。一六九。

第八百八十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行爲ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行爲ノ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百七十七條 親權ニ服スル子。八七八 親權行使ノ制限。三二二 成年。九二二 被後見人ノ財産ノ管理。八八九 自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ用フル親權者ノ義務。八九七 親權者ノ管理權喪失ノ宣告。八九九 親權ヲ行フ母ト管理權ノ財產。八九二 子ニ第三者カ無償ニテ與ヘン財産管理者ノ權利義務。八九三 子ノ財産管理權消滅ト必要處分ノ義務及ヒ對抗要件。一〇六 法定代理人ト復代理人ノ選任。

第八百八十四條 親權者ノ管理權(大一五・中・島田) 八八五

884 親權者ハ其父ナルト母ナルトヲ問ハス自由ニ未成年ノ子ノ爲メニ相續ノ承認ヲ代行スルコトヲ得(昭四・大審「法新二九六五號五頁」)

第八百八十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨ケス

第三〇三條 成年。八七七 親權ニ服スル子。八七八 親權行使ノ制限。八八九 親權者ノ管理權。八九七 親權者ノ管理權喪失宣告。八九九 親權ヲ行フ母ト管理權ノ拋棄。九〇〇 後見ノ開始。九二一 未成年者ニ對スル後見人ト親族會ノ同意。六〇六 未成年者ノ行爲能力。商五 未成年者ノ商業ト登記。非訟一六六。一六八。一六九。

第八百八十一條 未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第三〇三條 成年。八七七 親權。八七八 親權行使ノ制限。八八九 親權者ノ管理權。八九七 親權者ノ管理權喪失宣告。八九九 親權ヲ行フ母ト管理權ノ拋棄。九〇〇 後見ノ開始。九二一 未成年者ニ對スル後見人ト親族會ノ同意。六〇六 未成年者ノ行爲能力。商五 未成年者ノ商業ト登記。非訟一六六。一六八。一六九。

第八百八十二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六ヶ月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得

第八七七條 八七九 親權。九二二 未成年者ニ對スル親族會ノ同意。非訟九二二 子ノ懲戒ニ關スル事件。刑一六六 懲治場留置ノ執行。感化法五。八。少一。四。矯正院法一。二。二。

第八百八十三條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ職業ヲ營ムコトヲ得ス

父又ハ母ハ第六條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第八百八十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行爲ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行爲ノ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八七七條 親權ニ服スル子。八七八 親權行使ノ制限。三二二 成年。九二二 被後見人ノ財産ノ管理。八八九 自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ用フル親權者ノ義務。八九七 親權者ノ管理權喪失ノ宣告。八九九 親權ヲ行フ母ト管理權ノ財產。八九二 子ニ第三者カ無償ニテ與ヘン財産管理者ノ權利義務。八九三 子ノ財産管理權消滅ト必要處分ノ義務及ヒ對抗要件。一〇六 法定代理人ト復代理人ノ選任。

第八百八十四條 親權者ノ管理權(大一五・中・島田) 八八五

タルトキハ其法律行爲ハ特別代理人ノ追認ニ因リ遡及シテ有效トナル(昭三・法決「法曹六卷八號九二頁」)

890 親權者カ子ノ財産管理ノ計算ヲ爲ス場合ニ於テ租税ノ如キハ財産ノ管理費用トシテ當然其子ノ財産ノ收益ト相殺セラレタルモノト看做ス(大一五・大審「法新二六三一號一四頁」)

第八七七條 親權ニ服スル子。八七八條 繼父繼母又ハ嫡母ノ親權行使ノ制限。三〇成年。一〇八條 同一ノ法律行爲ト便宜代理人。八八四條 親權者ノ管理權。九四四以下 親族會。九七五以下 親權者ノ管理權。九四四以下 親族會。九七五以下 親權者ノ管理權。九四四以下 親族會。九七五以下 親權者ノ管理權。

第八七九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ其管理權ヲ行フコトヲ要ス

母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第八七七條 親權ニ服スル子。八八四條 親權者ノ管理權。六五九條 受寄者ノ注意義務。八九七條 親權者ノ管理權喪失宣告。九三六。

第八九〇條 子カ成年ニ達シタルトキハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滞ナク其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及ヒ財産ノ管理ノ費用ハ其子ノ財産ノ收益ト之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第三〇成年。八七七條 親權ニ服スル子。八七九條 親權ノ效力。八八四條 親權者ノ管理權。五〇五以下 親權ノ效力。九二五條 親族會ト後見人ノ報酬。八九一。

第八九一條 前條但書ノ規定ハ無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其財産ニ付テハ之ヲ適用セス

第八九〇條 未成年者ノ子ノ養育費及ヒ財産管理費ト財産收益トノ相殺。五四九條 贈與ノ意義。

第八九二條 無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財産ハ父又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理ヲ指定セザリシトキハ裁判所ハ子、其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理ヲ選任ス

第三者カ管理ヲ指定セシトキト雖モ其管理ノ制限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理ヲ指定セザルトキ亦同シ

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五四九條 贈與ノ意義。八七七條 親權ニ服スル子。八八四條 親權者ノ管理權。八九三條 子ノ財産管理權消滅ト必要處分ノ義務及對抗要件。七二五

第八九三條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ父又ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八八四條 八八五條 親權者ノ管理權。八九二條 子ニ第三者カ無償ニテ與ヘシ財産ノ管理ノ權利義務。

第八九四條 親權ヲ行ヒタル父若クハ母又ハ親族會員ト其子トノ間ニ財産ノ管理ニ付テ生シタル債權ハ其管理權消滅ノ時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

895 父カ死亡又ハ去家ノ後母カ子ノ叔父ト婚姻シタルトキハ其叔父ハ子ノ家族タル場合ト雖子ノ繼父ニシテ子ニ對シテ親權ヲ行フ(大一四・法決「法曹三卷一號一三頁」)

896 管理ニ付何等現實的失當行爲存セサル場合モ前條ノ親權喪失原因ヲ備ヘンカ子ノ親族ハ管理權ノミニ付テモ其喪失宣告ヲ請求シ得(大一四・浦地「新報四九號二六頁」)

子カ未ダ成年ニ達セサル間ニ管理權カ消滅シタルトキハ前項ノ期間ハ其子カ成年ニ達シ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八七七條 親權ニ服スル子。九四五條 親族會員ノ數及ヒ選定。八八四條 親權者ノ管理權。八八六條 親族會ノ同意ヲ求ムルノ親權者ノ義務。八八八條 親權者ノ制限。一六七條 債權ハ十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス。一六六條 消滅時効。一五九條 無能力者ノ權利ト時効ノ停止。三〇成年。九〇〇條 後見ノ開始。九四二條 親族會員ト被後見人トノ間ノ債權。

第八九五條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代ハリテ戶主權及ヒ親權ヲ行フ

第八七七條 親權ニ服スル子。三〇成年。七四六以下 戶主及ヒ家族ノ權利義務。八七九以下 親權ノ效力。七五一條 親族會ト戶主權ノ代行。九三四二項 後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ

第三節 親權ノ喪失

第八百九十六條 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第八七七條 親權ニ服スル子。八七九以下 親權ノ效力。七二五條 親族ノ範圍。八八四條 親權者ノ管理權。九〇〇條 後見ノ開始。九〇八條 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐

第八百九十七條 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財産ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八七七條 親權ニ服スル子。七二五條 親族ノ範圍。八八四條 親權者ノ管理權。八八九條 自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ用フルノ親權者ノ義務。八九九條 親權ヲ行フ母ト管理者ノ拋棄。九〇〇條 後見ノ開始。九二五條 後見人ノ管理權。八九八條 失權宣告ノ取消。九〇八條 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人。民法七三。人訴三一。三七。一八。戶一〇七。

第八百九十八條 前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得

第八九六條 親權喪失ノ宣告。八九七條 親權者ノ管理權喪失宣告。七二五條 親族ノ範圍。人訴三一。三七。一八。戶一〇八。

第八百九十九條 親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得

第八七七條 親權ニ服スル子。八八四條 親權者ノ管理權。九〇〇條 後見ノ開始。九〇一條 遺言ニ依ル

民法 親族 後見 後見ノ開始 後見ノ機關 後見人

900 假處分ニ依リ親權ヲ停止セラレシ場合ハ本條ニ該當セザルモノトス(昭五・法決「法曹九卷二號一一四頁」)

902 準禁治產者ノ保佐人ニ選定セラレシ者ハ其後準禁治產者カ未成年ノ妻ヲ娶リ其妻カ成年ニ達スルモ之カ爲當然退任シテ妻カ保佐人トナルニ非ス(昭三・大審「法新二八三四號一七頁」)

後見人ノ指定・九三五〇親權者ノ管理權ナキ場合ノ後見人ノ權限。

第六章 後見

第一節 後見ノ開始

第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セザルトキ

二 禁治產ノ宣告アリタルトキ

△九〇一以下ニ後見監督人・三〇〇成年・八七七〇親權ニ服スル子・八九六〇親權喪失ノ宣告・八九七〇親權者ノ管理權喪失ノ宣告・八九九〇親權ヲ行フ母ト管理權ノ拋棄・七九一〇妻カ未成年者ナルトキ成年ノ夫ハ其後見人ノ職務ヲ行フ・七〇〇禁治產ノ原因・八〇〇禁治產者ハ之ヲ後見ニ付ス。戸一〇九・一一三。人訴四〇以下。民施七五。

第二節 後見ノ機關

第一款 後見人

第九百一條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セザル者ハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得

△三〇〇成年・八七七〇親權ニ服スル子・一〇六〇以下・八九七〇親權者ノ管理權喪失ノ宣告・八九九〇親權ヲ行フ母ト管理權ノ拋棄・九〇〇一〇後見ノ開始・九一〇〇遺言ニ依ル後見監督人ノ指定・九一〇一〇後見監督人ノ選任・九〇三〇九〇八・九四二五二項ニ遺言ニ依ル親族會員ノ指定。戸一一一・一一三。

第九百二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治產者ノ後見人ト爲ル

妻カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル

夫カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル

妻カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル

△八七七〇親權ニ服スル子・七〇〇禁治產ノ原因・八〇〇禁治產者ハ之ヲ後見ニ付ス。九〇〇二〇禁治產ノ宣告アリタルトキ後見ノ開始・七七五〇婚姻ノ效力ノ發生時期・三〇〇成年・九〇八四・八〇〇後見人ノ缺格・八九六〇親權喪失ノ宣告・八九七〇親權者ノ管理權喪失ノ宣告・九一〇一〇後見監督人ノ選任・九〇三〇九〇九。

第九百三條 前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戶主其後見人ト爲ル

△九〇一〇後見監督人・七三二〇家族ノ範圍・九一〇一〇後見監督人ノ選任・九〇二〇九〇四〇九。

民法 親族 後見 後見ノ機關 後見人

904 甲家戶主死亡シ乙家未成年者其家督相續人ニ選定セラレシ場合ハ右選定相續人ノ後見ハ相續承認ノ時ヨリ開始ス(昭四・法決「法曹七卷四號一一〇頁」)

907 本條第三號ノ所謂自己ハ選定後見人ヲモ包含ス(昭三・大審「評論一七卷民四〇〇頁」)

第九百四條 前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任ス

△九〇一〇後見ノ機關・九四四以下ニ親族會・九一一二項ニ後見監督人ノ選任・九〇五〇九〇九。非訟九六。

第九百五條 母カ財産ノ管理ヲ辭シ、後見人カ其任務ヲ辭シ、親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戶主カ隱居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其父、母又ハ後見人ハ選任ナク親族會ヲ招集シ又ハ其招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

△八九九〇親權ヲ行フ母ト管理權拋棄・九〇七〇後見人ノ辭任・八七七〇親權ニ服スル子・七五二〇以下ニ戶主權ノ喪失・九〇八〇後見人ノ缺格・九四四以下ニ親族會・九四九〇無能力者ノ爲ノ親族會・九〇八一〇九〇九〇保佐人ノ免職・七三七〇七四五・九〇二〇九〇三。非訟九六。

第九百六條 後見人ハ一人タルコトヲ要ス

△九〇一〇後見人ヲ指定シ得ル者・一〇〇六〇法定代理人ト復代理人ノ選任・九二六〇有給管理者ノ使用ト親族會ノ同意・九〇九〇保佐人ノ免職。

第九百七條 後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

一 軍人トシテ現役ニ服スルコト

二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務

第九百八條 後見人ハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

一 軍人トシテ現役ニ服スルコト

二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務

第九百九條 後見人ハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

一 軍人トシテ現役ニ服スルコト

二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務

第九百十條 後見人ハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

一 軍人トシテ現役ニ服スルコト

二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務

三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト

四 禁治產者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者、直系血族及ヒ戶主ハ此限ニ在ラス

五 此他正當ノ事由

△九〇一〇後見ノ機關・九〇九〇保佐人ト親族會ノ招集・九一六〇後見監督人ノ缺格・九〇〇〇後見ノ開始・一一〇以下ニ住所・九〇八〇後見人ノ缺格・七〇〇禁治產ノ宣告・七七五〇婚姻ノ效力ノ發生ノ時期。兵役法以下。

第六章 後見

第二節 後見ノ機關

第一款 後見人

第九〇五條 親權ヲ行フ母婚姻ニヨリ他家ニ入ラントスル時ノ手續(大一〇・京・岡村)

908 本條第八號ハ後見人タルコトヲ得サル者ヲ明示スルト同時ニ裁判所ニ於テ後見人ヲ免職シ得ルコト及免職ノ原因ヲ定メタルモノトス(昭四・大審「評論一九卷二號五三頁」)一所謂任務ニ堪ヘサル事跡ハ親族會員ニ選定セラレタル以前ヨリ存在スルト其選定後ニ存在スルトヲ區別セサルモノトス(昭二・七尾支「法新二八一七號九頁」)

第九百八條 左ニ掲ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治產者及ヒ準禁治產者
- 三 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人
- 四 破產者
- 五 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
- 六 行方ノ知レサル者
- 七 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡、不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者
- 八 九〇一―九〇四ハ後見ノ機關・九〇九ハ保佐人ト親族會ヲ招集・九一六ハ後見監督人ノ缺格・九四六ハ遠隔ノ地ニ居住スル者ト親族會員ノ免除・三二六ハ未成年者ノ行爲能力・八九六ハ親權喪失ノ宣告・八九七ハ親權ヲ行フ母ト管理權ノ拋棄・一一〇ハ準禁治產者ト保佐人・九〇九ハ保佐人ト親族會ヲ招集・九〇〇ハ後見ノ開始・七七五ハ婚姻ノ效力ノ發生時期・七一三・民應七七二項・舊刑三三・三三・刑施一八・一九・三三・三三・破一・二六・六・七。

第九百九條 前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治產者トノ利益相

反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第九百十條 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得

第九百十一條 前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ヲ招集テ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス

第九百十二條 遺言ニ依ル後見監督人ノ指定・九〇一―九〇四ハ後見ノ機關・九四四以下ハ親族會・九一二―九一六ハ後見監督人ノ選任・九一七以下ハ後見ノ事務・九〇一以下ハ後見監督人ノ缺格・九四四以下ハ親族會・一一〇ハ準禁治產者ト保佐人・九〇九ハ保佐人ト親族會ヲ招集・九〇〇ハ後見ノ開始・七七五ハ婚姻ノ效力ノ發生時期・七一三・民應七七二項・舊刑三三・三三・刑施一八・一九・三三・三三・破一・二六・六・七。

第九百十三條 後見人ノ選任・九一四以下ハ親族會ニ於テ後見監督人ノ選任・九一四―九一六ハ後見監督人ノ更迭アリタルトキハ親族會ハ再選スルコトヲ妨ケス

第九百十四條 後見人ノ配偶者、直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス

第九百十五條 後見監督人ノ職務左ノ如シ

第九百十六條 第六百四十四條、第九百七條及ヒ第九百八條ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ準用ス

第九百十七條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財產ノ調査ニ著手シ一ヶ月内ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

915 親權ヲ行フ繼母ト其未成年ノ繼子ト利益相反スル行爲ニ付テハ其後見監督人ニ於テ繼子ヲ代表ス(昭二・法決「法曹五卷一號一〇五頁」)一被後見人ノ消費貸借上ノ債務ニ付後見人カ連帶保證人トナルカ如キハ本條第四號ニ所謂被後見人ト利益相反スル行爲ニ非ス

916 後見人カ後見ノ事務ヲ管理スルニ當リテハ反證ナキ限り正當ニ職務ヲ執行シタリト推定スヘキモノナリ(昭三・大審「彙報

第九百十二條 後見人就職ノ後後見監督人ノ缺ケタルトキハ後見人ハ遲滞ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九百十三條 後見人ノ選任・九一四以下ハ親族會ニ於テ後見監督人ノ選任・九一四―九一六ハ後見監督人ノ更迭アリタルトキハ親族會ハ再選スルコトヲ妨ケス

第九百十四條 後見人ノ配偶者、直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス

第九百十五條 後見監督人ノ職務左ノ如シ

第九百十六條 第六百四十四條、第九百七條及ヒ第九百八條ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ準用ス

第九百十七條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財產ノ調査ニ著手シ一ヶ月内ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第九百十八條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財產ノ調査ニ著手シ一ヶ月内ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第九百十九條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財產ノ調査ニ著手シ一ヶ月内ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第九百二十條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財產ノ調査ニ著手シ一ヶ月内ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第九百二十條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財產ノ調査ニ著手シ一ヶ月内ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

三九卷民五七七頁) — 後見人ハソノ指定ナルト法定ナルト選定ナルトヲ問ハス總テ届出ヲ爲スヘキモノトス (昭四・朝京管「朝司協八卷三號二六頁」)

財產ノ調査及ヒ其目錄ノ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ
 後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財產ノ目錄ヲ調製セサルトキハ親族會ハ之ヲ免職スルコトヲ得
 ◇九〇一以下 後見監督人・九四四以下 親族會・九二〇 後見人就職後ノ被後見人カ取得セル包括財產・九三四二項 後見人ハ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ
 第九百十八條 後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 ◇九〇一以下 後見監督人・九二〇 後見人就職後ノ被後見人カ取得セル包括財產・九三四二項 後見人ハ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ
 第九百十九條 後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財產ノ調査ニ著手スル前ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス
 後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知りテ之ヲ申出テサルトキハ其債權ヲ失フ
 後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フコトヲ知りテ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得
 ◇九〇〇一 九〇五 後見ノ開始・機關・九一〇 以下 後見監督人・九四四以下 親族會・九二〇 後見人就職後被後見人カ取得セル包括財產・九三四二項 後見人ハ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ

第九百二十條 前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財產ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス
 ◇九一七 九一九 後見ノ事務・九八六 家督相続ノ開始ト權利義務ノ承繼・一〇〇一 遺產相続ノ開始ト權利義務ノ承繼・一〇〇四 遺言者ト包括又ハ特定遺贈・九三四二項 後見人ハ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ
 第九百二十一條 未成年者ノ後見人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三條及ヒ第八百八十五條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ母カ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ、未成年者ヲ懲戒場ニ入レ、營業ヲ許可シ、其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 ◇三 成年・九〇〇一 後見ノ開始・八七七 親權ニ服スル子・八七九 八八三 親權者ノ權利・八八五 親權者ノ管理權・九四四以下 親族會・九四七 親族會ノ決議・九三四二項 後見人ハ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ
 第九百二十二條 禁治產者ノ後見人ハ禁治產者ノ資力ニ應ジテ其療養看護ヲカムルコトヲ要ス
 禁治產者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人ノ之ヲ定ム
 ◇七 禁治產ノ原因・九〇〇二 禁治產ノ宣告アリタルトキ後見ノ開始・九四四以下 親族會・九

925 本條ハ親族會カ後見人ノ在職中之ニ報酬ヲ與フルコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノナリト雖後見人カ在職中死亡シタル場合ノ如キハ其相続人ニ報酬ヲ與フルコトヲ得シメタル趣旨ナリト解スルヲ相當トス (昭三・大審「法新二八一八號一一頁」)

四七 親族會ノ決議
 第九百二十三條 後見人ハ被後見人ノ財產ヲ管理シ又其財產ニ關スル法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代表ス
 第八百八十四條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 ◇九〇一 以下 後見監督人・九〇〇 後見ノ開始・九二九 被後見人又ハ未成年者ノ營業ト後見人・四一九 未成年者禁治產者ノ行爲能力・八九二 子ニ第三者カ無償ニテ與ヘシ財產ノ管理ノ權利義務・一〇八 同一ノ法律行爲ト雙方代理・九三五 親權者ニ管理權ナキ場合ノ後見人ノ權限・九三六 民訴四五(四三)・(四九)・(四三)・六三(四三)
 第九百二十四條 後見人ハ其就職ノ初ニ於テ親族會ノ同意ヲ得テ被後見人ノ生活、教育又ハ療養看護及ヒ財產ノ管理ノ爲メ毎年費スヘキ金額ヲ豫定スルコトヲ要ス
 前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル場合ニ於テ豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スルコトヲ妨ケス
 ◇六〇一 以下 貸借・九四四以下 親族會・九四七 親族會ノ決議・九三四二項 後見人ハ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ・九一一
 第九百二十五條 親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財產中ヨリ相當ノ

報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但後見人カ被後見人ノ配偶者、直系血族又ハ戸主ナルトキハ此限ニ在ラス
 ◇九四四 以下 親族會・九四七 親族會ノ決議・九〇〇一 九〇五・九〇二 禁治產者ノ後見人・九〇三 戶主ト後見人・九三四二項 後見人ハ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ・八九〇 未成年者ノ子ノ養育費及ヒ財產管理費ト財產收益ノ相殺
 第九百二十六條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財產管理者ヲ使用スルコトヲ得但第百六條ノ適用ヲ妨ケス
 ◇九〇一 以下 後見監督人・九四四以下 親族會・九四七 親族會ノ決議・九〇六 後見人ハ一人タルコトヲ要ス・九三四二項 後見人ハ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ
 第九百二十七條 親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金銭カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ要ス
 後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金銭カ親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間内ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス
 金銭ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人ノ之ヲ定ム
 ◇九四四 以下 親族會・九四七 親族會ノ決議・九〇一 以下 後見監督人・六五七 以下 寄託・四〇四 法定利率・九三四二項 後見人ハ未成年者

937 成年ノ禁治産者ニ對スル選定後見人ノ任務ハ禁治産者カ死亡シタルトキ又ハ禁治産ノ宣告カ取消サレタル場合ノ外妻ヲ迎ヘタル場合ニ於テモ亦終了スルモノトス(昭二・法決「法曹五卷六號一一五頁」)

第九百三十七條 後見ノ終了

第九百三十八條 後見ノ事務

第九百三十九條 後見ノ終了

第九百四十條 後見ノ事務

第九百四十一條 後見ノ終了

第九百四十二條 後見ノ事務

第九百四十三條 後見ノ終了

第九百四十四條 後見ノ事務

第九百四十五條 後見ノ終了

第九百四十六條 後見ノ事務

第九百四十七條 後見ノ終了

第九百四十八條 後見ノ事務

第九百四十九條 後見ノ終了

第九百五十條 後見ノ事務

第九百五十一條 後見ノ終了

第九百五十二條 後見ノ事務

第九百五十三條 後見ノ終了

第九百五十四條 後見ノ事務

第九百五十五條 後見ノ終了

第九百五十六條 後見ノ事務

第九百五十七條 後見ノ終了

第九百五十八條 後見ノ事務

第九百五十九條 後見ノ終了

第九百六十條 後見ノ事務

第九百六十一條 後見ノ終了

第九百六十二條 後見ノ事務

第九百六十三條 後見ノ終了

第九百六十四條 後見ノ事務

第九百六十五條 後見ノ終了

第九百六十六條 後見ノ事務

第九百六十七條 後見ノ終了

第九百六十八條 後見ノ事務

第九百六十九條 後見ノ終了

第九百七十條 後見ノ事務

第九百七十一條 後見ノ終了

第九百七十二條 後見ノ事務

第九百七十三條 後見ノ終了

第九百七十四條 後見ノ事務

第九百七十五條 後見ノ終了

第九百七十六條 後見ノ事務

第九百七十七條 後見ノ終了

第九百七十八條 後見ノ事務

第九百七十九條 後見ノ終了

第九百八十條 後見ノ事務

第九百八十一條 後見ノ終了

第九百八十二條 後見ノ事務

第九百八十三條 後見ノ終了

第九百八十四條 後見ノ事務

第九百八十五條 後見ノ終了

第九百八十六條 後見ノ事務

第九百八十七條 後見ノ終了

第九百八十八條 後見ノ事務

第九百八十九條 後見ノ終了

第九百九十條 後見ノ事務

第九百九十一條 後見ノ終了

第九百九十二條 後見ノ事務

第九百九十三條 後見ノ終了

第九百九十四條 後見ノ事務

第九百九十五條 後見ノ終了

第九百九十六條 後見ノ事務

第九百九十七條 後見ノ終了

第九百九十八條 後見ノ事務

第九百九十九條 後見ノ終了

第一千條 後見ノ事務

929 民法第一二條第四號ハ妻カ被告タル場合ニハ其適用ナキコト已ニ當院ノ判例トスルコトナリ同第九二九條ノ場合ニ於テモ亦同趣旨ナリ(昭三・大審「法新二八四〇號八頁」)一當該審級ニ於テ防禦者ノ地位ニ立ツ者即チ被告若クハ被上訴人ノ後見人カ被後見人ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲スニ付テハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(昭四・大審「評論一九卷二號三六頁」)

第九百二十九條 後見人カ被後見人ニ代ハリテ營業ノ許可及其取消又ハ制限。九四四以下ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。

第九百三十條 後見人カ被後見人ノ財產又ハ被後見人ノ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第九百二十九條ノ規定ヲ準用ス。

第九百三十一條 後見人ハ未成年者ニ代リテ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本ノ領收ニ付テハ此限ニ在ラス。

第九百三十二條 後見人カ其任務ヲ曠クスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ被後見人ノ財產ヲ管理セシムルコトヲ得。

第九百三十三條 親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得。

第九百三十四條 親族會ノ決議方法。九二三―九三四ノ項ニ後見人ノ法定代理權。九四〇以下ニ後見人被後見人間ノ返還金。九四四以下。九〇一以下。三四二以下。三六九以下。四四六以下。

第九百三十五條 被後見人カ戶主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フ但家族ヲ離隔シ其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若クハ廢嗣家ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。

第九百三十六條 後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親族會ヲ行フ但第九百三十七條乃至第九百四十二條及ヒ前十條ノ規定ヲ準

944 本條所掲ノ者ハ裁判所ニ對シ親族會ノ招集ヲ申請シ得ルト同シク親族會員ニ缺員ヲ生シタル場合ハ兩餘ノ親族會員ト等シク其補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ申請スルコトヲ得(昭三・大審「評論一七卷民六五七頁」)

見ノ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス。後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス。

九〇〇〥後見ノ開始。九〇一〥指定後見人。九〇二〥禁治産者ノ後見人。九〇三〥主ト後見人。九〇四〥親族會ニ因ル後見人ノ選任。九〇五〥親族會ノ招集又ハ招集ノ請求。九三二〥後見ノ計算。九三八〥後見ノ計算ト後見監督人ノ立會。

四〇〥利息ヲ生スヘキ債權ノ利率。九三三〥後見人ノ擔保提供ト親族會。

第九百四十一條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス。

第九百四十二條 第八百九十四條ニ定メタル時効ハ後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用ス。前項ノ時効ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行爲ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス。

一六七〥項債權又ハ所有權ニ非サル財産權ノ消滅時効。九四五〥親族會員ノ選定。九〇〇〥後見ノ開始。一二三〥取消シ得ヘキ行爲ノ取消又ハ追認ノ方法。九〇一〥以下。九一〇〥以下。九四三。

第九百四十三條 前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治産者トノ間ニ之ヲ準用ス。

第七章 親族會

第九百四十四條 本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戶主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス。

九四五〥項八八九ノ準用。一一〥準禁治産者ト保佐人。九四五〥親族會員ノ選定。

九二五〥親族ノ範圍。一一〥準禁治産者ト保佐人。九四九〥無能力者ノ爲メ親族會。九四八〥項親族會ノ通知。九五一〥親族會員ト決議不服ノ訴。七五二〥親族會ト戶主權ノ代行。七七三〥項婚姻ト後見人及ヒ親族會ノ同意。七七三〥項婚姻ト親族會ノ同意。八〇九〥婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意。八四三〥項親族會ト親族會ノ同意。八七八〥親父、繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ノ行使ノ制限。八八六〥親權ヲ行フ母ノ行爲ト親族會ノ同意。八八八〥親權者ト子トノ利益相反スル行爲ト特別代理人ノ選任。九〇四〥親族會ノ後見人ノ選任。九〇五〥親族會ノ招集又ハ其招集ノ請求。九〇九〥保佐人ニ準用。九一五〥後見監督人ト親族會ノ招集。九一七〥財産目錄調製ノ後見人ノ義務。九一九〥項親族會ト後見人ノ免職。九二〇〥後見人就職後被後見人カ包括財産ヲ取消シタル場合。九

947 親族會ノ所謂持廻リ決議ハ違法ナルモ之カ爲當然無効ニアルラス只民法第九五一條ノ規定ニ依リ之ヲ取消シ得ルニ過キス(大一一五・大審「法新二六三三號一二頁」)

二二〥未成年者ニ對スル後見人。九二二〥項禁治産者ノ後見人ト親族會ノ同意。九三七〥管理ノ計算。九三八〥項管理ノ計算ト親族會ノ認可。九七五〥項親族會ノ同意ト法定推定家督相續人ノ廢除。九八二〥法定推定家督相續人ノ廢除ト家督相續人ノ選定。九八三〥家督相續人ノ選定又ハ順序ノ變更。九八五〥家督相續人ノ選定。九〇一〥以下。九一〇〥以下。九一一〥以下。九三二〥九三四〥八四六〥八六三〥項。非訟九六一〥一〇二。

第九百四十五條 親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ據アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定ス。

後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得。

九四六〥親族會員ノ補缺員ノ選定。九〇一〥以下。九五〇〥親族會員ノ辭任。九四四〥親族會ノ招集。九五〇〥親族會員ノ範圍。七二五〥以下。二〇六〥以下。非訟九六一〥九二〥一八一〥項。

第九百四十六條 遺隔ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アル者ハ親族會員タルコトヲ得。事由アル者ハ後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得。

第九百八條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス。

九〇一〥以下。後見人。九一〇〥以下。後見監督人。一一〥準禁治産者ト保佐人。九四五〥親族會員

ノ數及ヒ選定。非訟一〇〇・一〇一。

第九百四十七條 親族會ノ議事ハ會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス。

會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス。

九四四〥親族會ノ招集權者。九四五〥親族會ノ數及ヒ選定。九四八〥親族會ニ於テ意見ヲ述ヘ得ル者。九五一〥九五三。非訟九六以下。

第九百四十八條 本人、戶主、家ニ在ル父母、配偶者、本家竝ニ分家ノ戶主、後見人、後見監督人及保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述フルコトヲ得。親族會ノ招集ハ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス。

七三二〥家ニ在ル戶主ノ親族及其ノ配偶者ト家族ノ範圍。七四六〥家ノ氏。一一〥準禁治産者ト保佐人。九四四〥親族會ノ招集權者。九四九〥無能力者ノ爲メ親族會。九〇一〥以下。九一〇〥以下。

第九百四十九條 無能力者ノ爲メ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス此親族會ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人、其法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ會員之ヲ招集ス。

四〥未成年者ノ法律行爲。七〥禁治産ノ宣告。一一〥準禁治産者ト保佐人。九四四〥親族會ノ招集權者。八七七〥親權ニ服スル子。八八四〥親權者ノ法定代理權。九二二〥後見人ノ管理權。九四五〥親族會員ノ數及選定。九四八〥項親族會

964 家督相続ハ法律行為タル性質ヲ有セサルモノトス從テ本條所定原因ニ依リ家督相続開始スルトキハ前戸主ノ家督相続人タル資格ヲ有スル者ハ法律上當然前戸主ノ身分上財産上ノ地位ヲ承継スルモノニシテ其效力ヲ生スル爲ニ特ニ相続人ニ於テ相続ナル法律行為ヲ爲スヲ要スルモノニ非ス(大ニ五・東地「法新二五四四號九頁」)

民法 相続 家督相続 總則

第五編 相続

第一章 家督相続

第一節 總則

第九百六十四條 家督相続ハ左ノ事由ニ因リテ開始ス

一 戸主ノ死亡、隱居又ハ國籍喪失

二 戸主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ

三 女戸主ノ入夫婚姻又ハ入夫ノ離婚

四 失踪宣告ノ意義及ヒ要件、三一〇失蹤宣告ノ效力、七五二以下ニ隱居ノ要件、九七九法

定推定家督相続人ノ順序ト家督相続人ノ指定、七七九以下ニ婚姻ノ取消、七八六ニ縁組ノ無効又ハ取消ニ因ル婚姻ノ取消、八五二以下ニ縁組ノ取消、八五八ニ縁組取消權ノ拋棄、七八七ニ項

ニ婚姻ノ取消、八五九ニ縁組取消ノ效力、七三六ト入夫婚姻ニ因ル入夫ノ家督相続ト反對ノ意思、八〇八以下ニ協議上ノ離婚、七三四ニ父ノ去家ト子ノ入籍、七三九ニ實家復籍、戸一二五以下、二一六以下、國籍法一八一二四。

第九百六十五條 家督相続ハ被相続人ノ住所ニ於テ開始ス

主ノ扶養ノ義務ノ免除。
第九百六十條 扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リテ之ヲ定ム
第九百六十一條 扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得
第九百六十二條 扶養ノ義務、四〇八ニ選擇債權ノ選擇ノ催告、九六二ニ扶養ニ關スル判決ノ變更又ハ取消
第九百六十三條 扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得
第九百六十四條 扶養義務者、九五五ニ扶養義務者ノ順位、九六〇ニ扶養ノ程度、九六一ニ扶養權利者ト扶養方法ノ決定ノ請求
第九百六十五條 扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
第九百六十六條 扶養當事者、九五七ニ扶養權利者ノ順位、七四七ニ扶養ノ義務、七九〇ニ夫婦ノ扶養ノ義務、四六六一項ニ債權ノ讓渡、九八六ニ家督相続人ト前戸主ノ權利義務ノ承継、一〇〇〇

民法 親族 扶養ノ義務

〇二一ニ住所、九九三ニ遺產相続開始ノ場所。民訴一九(二四)二〇(二四)人訴三三。非訟六五。八五。九四。九七。一〇三。一〇四。一〇七。一〇九。一一一。

第五編 相続

相續制度カ認メラレテ居ル社會的根據(昭六・中杉ノ原)

相續權ノ基礎(昭三・日・河邊)

相續ニ於ケル女子ノ地位(大ニ五・東・鳩山。昭四・東・我妻)

現行相續法中、改正ヲ要スヘキ點ト其ノ改正意見(大ニ二、昭二・東・總稿)

第一章 家督相続

第一節 總則

民法上ノ家督相続制度ノ批判(昭五・京・中島)

九六四 我國ノ家督相続法ニ特有ナル點(昭二・京・中島)

相續開始ノ原因(昭三・日・河邊)(英國)九九二

女戸主カ國籍ヲ爲シ、入夫カ戸主トナリタル後ニ至リ離婚アリタリ家督相続開始スルカ(昭五・中・島田)

民法 相続

民法 相続

970 女戸主ノ私生子間ニ於テハ年長者ハ父ノ認知ヲ受ケザルモ
認知ヲ受ケタル私生子ニ先チ相続權ヲ行スルモノトス (昭四・法
決「評論一〇卷一號一頁」)
九〇九・六〇九 (昭三・大審「評論一八卷五號三五頁」)
九〇九・六〇九 (昭三・大審「評論一八卷五號三五頁」)

966 家督相續回復ノ訴訟ハ民事訴訟ニシテ人事訴訟ニ非サルヲ
以テ該判決ノ效力ハ原則トシテ第三者ニ對シ其效力ヲ及ボサス
(昭三・大審「評論一八卷五號三五頁」)
968 本條ハ家督相續開始當時ニ於ケル胎兒ノ人格ヲ認メタル例
外規定ニシテ家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)

民法 家督相續 家督相續人

民法 家督相續 家督相續人

第九百六十六條 家督相續回復ノ請求權ハ家督相續
人又ハ其法定代理人カ相続權侵害ノ事實ヲ知リタ
ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ
消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ
亦同シ
第九百六十七條 家督相續開始ノ原因ニ九六八ハ家督相
續人ハ八四〇親權者ノ管理權ニ九六三ニ後見人
ノ管理權ニ九四三ニ期間ノ計算法ニ九六六以下ニ
消滅時効ニ九三三ノ戶一〇九九ノ八五二
第九百六十八條 胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生マ
レタルモノト看做ス
前項ノ規定ハ胎兒カ死體ニテ生マレタルトキハ之
ヲ適用セス
第九百六十九條 受遺者ノ缺格ニ一私權ノ事有リ七二
二ノ胎兒ト損害賠償ノ八二〇一遺胎ノ時期ノ推
定ニ九三三ノ戶一二七・一二八・二二〇・二二五・一
六四以下

第九百七十條 家督相續回復ノ請求權ハ家督相續
人又ハ其法定代理人カ相続權侵害ノ事實ヲ知リタ
ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ
消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ
亦同シ
第九百七十一條 家督相續開始ノ原因ニ九六八ハ家督相
續人ハ八四〇親權者ノ管理權ニ九六三ニ後見人
ノ管理權ニ九四三ニ期間ノ計算法ニ九六六以下ニ
消滅時効ニ九三三ノ戶一〇九九ノ八五二
第九百七十二條 家督相續開始當時ニ於ケル胎兒ノ人格ヲ認メタル例
外規定ニシテ家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)

第九百七十三條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百七十四條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百七十五條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百七十六條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百七十七條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百七十八條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百七十九條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百八十條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)

第九百八十一條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百八十二條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百八十三條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百八十四條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百八十五條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百八十六條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百八十七條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百八十八條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百八十九條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)
第九百九十條 家督相續開始後懷胎シタル胎兒ニ適用スルヲ得ス
(昭二・法決「法曹五卷五號一四四頁」)

974 法定ノ推定家督相續人タル資格ヲ取得スルコトナクシテ死亡セル者ノ直系卑族ハ本條ニ依ル家督相續權ヲ有セス(昭三・大審「評論一七卷一〇號七頁」)

第九百七十四條 第九百七十二條及第九百七十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑族アルトキハ其直系卑族ハ第九百七十條及第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ家督相續人ト爲ル

○九六四 家督相續開始ノ原因・三一 失蹤宣告ノ效力・七四四 法定推定家督相續人ノ一家前立禁止・九六九 家督相續人ノ缺格・九七五 法定推定家督相續人ノ廢除・九七六 遺言執行者ト遺產相續人ノ廢除・九九五・七四九 遺言執行者ト遺言・九六八 家督相續人・七二五・七二八

第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキコト
三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト
四 浪費者トシテ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト

此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

第九百七十六條 第九百七十二條及第九百七十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑族アルトキハ其直系卑族ハ第九百七十條及第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ家督相續人ト爲ル

○九七〇 家督相續人ノ順位・七九二 夫婦ノ契約ノ取消ノ自由・七九四 夫婦財產契約ノ登記・八八八 代理ノ親權者ト子トノ利益相反スル行爲ト特別代理人ノ選任・九七六 以下 遺產相續人ノ廢除・二一三〇 遺言分權利者・九九八 遺言分ヲ有スル推定遺產相續人ノ廢除・七 禁治產ノ宣告・二一 準禁治產者ト保護人・八一 三 裁判上ノ離婚・九四四 以下 親族會・九四七 親族會員ノ表決權ノ制限・民八六・人訴三三・三七・三九・一八・戸一三一

九七四 戸主Aニ長男B、次男C、三男Dノ三子アリ次男CニハEナル一子アルモ、BD共ニ子ナシ、右ノ場合ニAニ就テ家督相續開始前次男C先ツ死亡シ、次テ長男B死亡シタリ、DE何レカAヲ相續スヘキカ(昭六・中・杉ノ原) (附例 九七〇)

△承祖相續(大四・關・杉浦、大一三・日・宮本)

972 戸主ノ直系卑族タル家族ニテ一旦分家シタル者カ廢家ノ上第七三七條ノ規定ニ依リ本家ニ復籍スル場合ニ於テモ第七二條ノ規定ニ依ルコトヲ得(昭六・大審「評論二〇卷八號一〇二頁」)

973 戸主ノ長女ノ婿養子ハ戸主ニ長男出生ノ場合ハ法定推定家督相續人ノ地位ヲ失フ(昭五・法決「法曹八卷五號」)

第九百七十一條 前條ノ規定ハ第七百三十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百七十二條 第七百三十七條及第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑族ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑族ナキ場合ニ限リ第九百七十條ニ定メタル順序ニ從ヒテ家督相續人ト爲ル

○九七三 以下 法定推定家督相續人ノ相續權・八二〇 遺胎ノ時期ノ推定・八六〇 養親ト養子トノ親子關係・八一七 父カ認知シタル私生子・八三六 庶子ノ準正・八七五 遺言ノ效果・七三九 遺言夜續・七六三 廢家ト家族・七四三 二項

第九百七十三條 法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニスル養子組組ニ因リテ其相續權ヲ害セラルルコトナシ

○九七〇 家督相續人ノ順位・八三九 法定推定家督相續人タル男子アル場合ノ順位ノ制限・八六〇 條組ニ因リ嫡出子タル身分ノ取得・九七〇 二項 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス。家督相續人ノ順位・九七二・九七四

七四・七四四

△家督相續ニ關シ、女ハ如何ナル特別酌取級ヲ受ケ

テ中ルカ(昭六・東・未弘)

△家督相續ニ於テ庶男子ヲ嫡出女子ヨリ先順位トセラルハ適當カ(昭五・東・藤)

△嫡出子、庶子、私生子ハ家督相續ニ於テ何レカ先順位カ(昭五・日・藤本)

△女戸主カ丁男ト私通シ甲ナル男子ヲ擧クシ後丙男ヲ入夫ニ迎ヘタリ、後日入夫丙男ハ他ノ女ト通シ乙ナル男子ヲ擧ク之ヲ離婚シ女戸主ノ同意ヲ得テ自家ニ入籍キシタリ、女戸主死亡セバ甲・乙・丙其何レニ相續權アルカ(昭三・早・外岡) (附例 七三六・八二七)

△戸主甲ニ男子乙アリ、乙ニ女子丙アリテ先ツ死亡ス(甲)甲ハ丁男ヲ養子トナシ之ヲ相續セシメ得ルカ(2)戊男ヲ丙女ノ夫トシテ迎ヘ之ニ相續セシムルカ法アルカ(昭六・東・我妻) (附例 八五八)

九七一 嫡出子トシテ出生届出アリタル戸主ノ庶子ト戸主ノ養子ト連子トノ家督相續順位(昭二・東・穂積) (附例 七二八)

△出モズル子ハ其ノ親トシテ家督相續ノ順位ニ從テ其ノ親ト同ノ順位ニ在リ

984 本條ノ場合ニ繼父ハ實母ニ先テテ相續權ヲ有ス (昭二・法決「法曹五卷四號一四三頁」)

第九百八十三條 家督相続人ヲ選定スヘキ者ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ニ掲ケタル順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲ササルコトヲ得

○九八二ニ家督相続人ノ選定・九八四以下・非訟九四・九五・九七

第九百八十四條 第九百八十二條ノ規定ニ依リテ家督相続人タル者ナキトキハ家ニ在ル直系尊屬中親等ノ最近キ者家督相続人ト爲ル但親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

○七二六ニ親等ノ計算法・七三二ニ家族ノ範圍・九六九ニ家督相続人ノ順序・九八五ニ家督相続人ノ選定・一〇二〇ニ法定家督相続人タル男子アル場合ノ縁組・一〇三九一ニ遺留分權利ノ開始ノ時ト放棄ノ時及放・一〇三九二ニ遺留分權利者

第九百八十五條 前條ノ規定ニ依リテ家督相続人タル者ナキトキハ親族會ハ被相続人ノ親族・家族・分家ノ戸主又ハ本家若クハ分家ノ家族中ヨリ家督相続人ヲ選定ス

前項ニ掲ケタル者ノ中ニ家督相続人タルヘキ者ナキトキハ親族會ハ他人ノ中ヨリ之ヲ選定ス

親族會ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ前二項ノ規定ニ拘ハラス裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得

○九四四以下ニ親族會・七二五・七二八ニ親族・七三二ニ家族ノ範圍・七四三ニ未成年者ノ他家相

續・分家 廢絶家再興ト移見人ノ同意・九六九ニ家督相続人ノ缺格・一一三〇ニ遺留分權利者・一〇二〇ニ法定家督相続人タル男子アル場合ノ縁組・一〇三九一ニ遺留分權利ノ開始ノ時ト放棄ノ時及放・一〇五一一ニ相續人ノ缺格ト相續財產ノ法人格・一〇五九ニ相續財產ノ國庫歸屬・七六四・一〇五八・非訟九四・九五・九七・戸一二六

九八五 甲家ノ戸主死亡シ、法定ノ推定家督相続人ナクソノ親族會ハ乙家ノ法定推定家督相続人丙ヲ甲家ノ相續人ニ選定セリ丙ハ甲家ノ相續人トシテ甲家ニ入ルヘキヤ(昭五・京・中島) (圖例) 七四四

987 遺骨ハ有體物トシテ所有權ノ目的ト爲ルヲ得ヘキモノニシテ前戸主ノ遺骸モ其家督相續人ノ所有ニ歸屬シ相續人管理權ヲ有ス (昭二・大審「法新二七〇二號一四頁」)

988 家督相續人ノ遺留分ヲ害スヘキ隱居者ノ財産留保ト雖モ減殺請求權ニ服スルニ止マリ當然無効トスヘキニ非ス (昭四・大審「評論一八卷四號三頁」)

第九百八十六條 家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戸主ノ有セシ權利義務ヲ承継ス但前戸主ノ一身ニ專屬セルモノハ此限ニ在ラス

○九六八・九八五ニ家督相續人・九六四ニ家督相續開始ノ原因・一八七ニ遺留分ノ割合・一〇六四ニ遺留分ノ財產處分・七五二以下ニ親族・九七五ニ法定推定家督相續人ノ缺格ノ原因・九七九ニ法定推定家督相續人ノ缺格ト家督相續人ノ指定・九六六ニ遺留分ノ割合・九六六ニ家督相續回復ノ請求權・一〇一七ニ相續ノ承認及ヒ放棄・一七七ニ物權ノ得喪及ヒ變更ノ登記・戸一二五・民訴二〇八(一七八)・二二八(一七八)・二二九(一七八)

第九百八十七條 系譜、祭具及ヒ墳墓ノ所有權ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

○九八六ニ家督相續ノ效力・一一三三ニ遺留分ノ算定ト家督相續ノ特權ニ屬スル權利・九〇九ニ遺留分ノ算定ト家督相續ノ特權ニ屬スル權利・九〇九ニ遺留分ノ算定ト家督相續ノ特權ニ屬スル權利

第九百八十八條 隱居者及ヒ入夫婚姻ヲ爲ス女戸主ハ確定日附アル證書ニ依リテ其財産ヲ留保スルコトヲ得但家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

○九六四・一・三ニ家督相續開始ノ原因・七五二以下ニ遺留分ノ算定ト家督相續ノ特權ニ屬スル權利・八〇七ニ遺留分ノ算定ト家督相續ノ特權ニ屬スル權利

第三節 家督相續ノ效力

○九八六ニ家督相續ノ效力(昭六・日・永田)

九八六 家督相續ト遺留分相續トノ差異(大四・京・岡村・大五・中・島田) 昭五・東・我妻 (圖例) 九六四・九八七・九九二・一〇〇一

△相續ニ於ケル承継ノ特權(大一一・早・島田) (圖例) 一〇〇一

△相續法ニ於ケル債權者ノ保護(大一一・中・藤積) (圖例) 九八九・一〇〇一・一〇二〇・一〇二三・一〇二四・一〇二八・一〇二九・一〇三一・一〇三六・一〇四一・一〇五〇

△相續人ノ承継スヘキ債務ノ範圍(大五・日・柳川) (圖例) 一〇〇一 (圖例) 一〇二三・一〇二五

九八七 我國ノ家督相續法ニ特有ナル點(昭二・京・中島) (圖例) 九六四

九八八 入夫婚姻ヲ爲ス女戸主カ家督相續人ノ遺留分ノ規定ニ反シテ財産ヲ留保シタルトキハ其留保ハ有效カ(大一一・東・藤積) 昭二・明・島田 (圖例) 一一三〇

民法 家督相続ノ效力
 第九百九十一條 國籍喪失ニ因ル家督相続ノ場合ニ於テハ前戸主ノ債權者ハ其前戸主ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 入夫婚姻ノ取消又ハ入夫ノ離婚ニ因ル家督相続ノ場合ニ於テハ入夫カ戸主タリシ間ニ債權者ノ債權ヲ請求スルハ其前戸主ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十二條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ戸主債權者及ヒ前戸主カ特ニ指定セタル債權者ニ限リ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十三條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十四條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十五條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第九百九十一條 外國人土地法一〇一
 第九百九十二條 國籍喪失ニ因ル家督相続ノ場合ニ於テハ前戸主ノ債權者ハ其前戸主ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十三條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十四條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十五條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十六條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十七條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十八條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十九條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第一千〇〇〇條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第九百九十一條 外國人土地法一〇一
 第九百九十二條 國籍喪失ニ因ル家督相続ノ場合ニ於テハ前戸主ノ債權者ハ其前戸主ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十三條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十四條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十五條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十六條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十七條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十八條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十九條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第一千〇〇〇條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得

994 離婚ニ依ル復籍ハ離婚者ノ實家ニ於ケル從前ノ身分ヲ復シムル效アル故遺產相續關係ニ於テモ家族トシテ婚姻前ノ地位ヲ復ス (昭二・大審「彙報三八卷民六七九頁」)
 995 遺產相續人タルヘキ者トハ相續開始ノトキ相續權喪失原因タル事實ナクシテ生存シタランニハ當然遺產ヲ相續スヘキ者ヲ云フ (昭四・大審「評論一八卷四號三頁」)

第九百九十二條 遺產相續人ノ地位ニ死亡ニ因リ開始スルニ至ルニ至リテハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十三條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十四條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十五條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十六條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十七條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十八條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十九條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第一千〇〇〇條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第九百九十二條 遺產相續人ノ地位ニ死亡ニ因リ開始スルニ至ルニ至リテハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十三條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十四條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十五條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十六條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十七條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十八條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第九百九十九條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第一千〇〇〇條 國籍喪失者ノ家督相続人ハ其前戸主ノ債權者ニ對シテ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得

民法 相続 遺留分 第九百九十四條ノ規定
第九百九十四條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十四條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十四條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得

第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得

第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得

1001 戸主甲ノ隠居ニ因リ其長男乙ニ於テ甲ノ有セル本訴債權ヲ承繼取得シタル爲甲ハ最早本訴債權ノ權利者ニ非サリシニ拘ラス本訴ヲ提起シ且之ヲ追行シタル後本訴カ第一審ニ繫屬中死亡シタルトキハ本訴ノ受繼ハ甲ノ遺産相續人全員ニ於テ之ヲ爲スヲ要シ乙ノミニ於テ受繼スヘキニ非ス。(大一四・大審「評論一五卷民二三頁」)

1003 被相續人カ推定遺産相續人ノ一人ト共ニ債權者ニ對シ連

第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得

第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得
第九百九十六條ノ規定ニ依リテ遺留分ノ額ハ被相続人ノ純正遺産ノ一定ノ割合ニシテ算定スルコトヲ得

帯債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ遺産相続開始シタルトキハ連帯債務ヲ負擔シタル相続人ノ責任ニハ變更ナキモ他ノ遺産相続人ハ各自ノ相続分ニ應シテ債務ヲ負擔ス(大一四・法決「法曹三卷一號一一四頁」)

第一千四條 同順位ノ相続人數人アルトキハ各自ノ相続分ハ均等ニシテ之ヲ受ケルニス但直系卑屬數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相続分ハ嫡出子ノ相続分ノ二分ノ一トス

二二八

第一千四條 同順位ノ相続人數人アルトキハ各自ノ相続分ハ均等ニシテ之ヲ受ケルニス但直系卑屬數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相続分ハ嫡出子ノ相続分ノ二分ノ一トス

第一千七條 共同相続人中被相続人ヨリ遺贈ヲ受ケ又ハ婚姻ノ養子縁組ノ分家ノ廢絶家再興ノ爲メ若クハ生計ノ資本トシテ贈與ヲ受ケタルモノアルトキハ被相続人カ相続開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヲ相続財産ト看做ス其前條ノ規定ニ依リテ算定シタル相続分ノ中ヨリ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シ其殘額ヲ以テ其共同相続分トス

第一千九條 共同相続人ノ一人カ分割前ニ其相続分ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ他ノ共同相続人ハ其價額及ヒ費用ヲ償還シテ其相続分ヲ讓受クルコトヲ得前項ニ定メタル權利ハ一ヶ月内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

二二九

第一千四條 同順位ノ相続人數人アルトキハ各自ノ相続分ハ均等ニシテ之ヲ受ケルニス但直系卑屬數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相続分ハ嫡出子ノ相続分ノ二分ノ一トス

二二八

1010 遺産分割ノ方法ハ共同相続人ノ協議ヲ以テ任意之ヲ定メ得此場合分割ノ割合ハ持分ノ割合ニ依リ定ムルヲ本則トスルモ協議ヲ以テ其割合ニヨラス之ヲ定メシトキハ共有持分ノ一部ノ抛棄アリタルモノト看做シ其協議ヲ有効ト解スヘシ (昭四・法決「法曹七卷八號一七一頁」)

第三款 遺産ノ分割

第一千十條 被相続人ハ遺言ヲ以テ分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得
第一千十一條 被相続人ハ遺言ヲ以テ相続開始ノ時ヨリ五年ヲ起スル期間内分割ヲ禁スルコトヲ得
第一千十二條 遺産ノ分割ハ相続開始ノ時ニ起リテ其效力ヲ生ス
第一千十三條 各共同相続人ハ相続開始前ヨリ存スル事由ニ付キ他ノ共同相続人ニ對シ賣主ト同シク其相続分ニ應ジテ擔保ノ責ニ任ス
第一千十四條 各共同相続人ハ其相続分ニ應ジテ他ノ共同相続人ニ對シ共同擔保ノ責ニ任ス
第一千十五條 各共同相続人ハ其相続分ニ應ジテ他ノ共同相続人ニ對シ共同擔保ノ責ニ任ス
第一千十六條 前條ノ規定ハ被相続人カ遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス
第一千十七條 前條ノ規定ハ被相続人カ遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第三款 遺産ノ分割

第一千十八條 被相続人カ承認又ハ抛棄ヲ爲サスニテ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其者ノ相続人カ自己ノ爲メニ相続ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ起算ス
第一千十九條 被相続人カ承認又ハ抛棄ヲ爲サスニテ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其者ノ相続人カ自己ノ爲メニ相続ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ起算ス
第一千二十條 被相続人カ承認又ハ抛棄ヲ爲サスニテ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其者ノ相続人カ自己ノ爲メニ相続ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ起算ス

1017 本條ニ「知リタル時」トハ相続人カ相続開始ノ原因タル事實ノ發生ヲ知リタル時ノ謂ニ非スニテ其原因事實ノ發生ヲ知リ且之カ爲ニ自己カ相続人トナリタルコトヲ覺知シタル時ヲ指稱ス (大一五・大審「新報八四號一二頁」) 一選定又ハ指定若ハ民法第九八四條ノ家督相続人カ既ニ相続開始ヲ爲セル以上ハ本條ノ期間内限定承認ヲ爲シ得ヘキモ抛棄ハ之ヲ爲シ得ス (昭五・法決「法曹九卷一號九六頁」)

第三款 遺産ノ承認及ヒ

第一千十七條 被相続人ハ自己ノ爲メニ相続ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三ヶ月内ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ抛棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得
第一千十八條 被相続人ハ自己ノ爲メニ相続ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三ヶ月内ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ抛棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得
第一千十九條 被相続人ハ自己ノ爲メニ相続ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三ヶ月内ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ抛棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

第三款 遺産ノ承認及ヒ

第一千二十條 被相続人ハ自己ノ爲メニ相続ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三ヶ月内ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ抛棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得
第一千二十一條 被相続人ハ自己ノ爲メニ相続ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三ヶ月内ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ抛棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得
第一千二十二條 被相続人ハ自己ノ爲メニ相続ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三ヶ月内ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ抛棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

1020 指定相続人ハ自己ノ爲ニ開始セル相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ハク若シ承認スルニ於テハ戸主トナルヲ以テ終局的ニ自己ノ屬スル家ヨリ離脱スルノ結果ヲ齎スコトトナルカ故ニ其承認ヲ爲スニ當リテハ戸主ノ同意ヲ得ヘキモノナルコトハ家制度ノ本義ニ照シテ當然ナリ「昭三・大審「法新二七六九號七頁」」

第一千九百九十七條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十八條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十九條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十七條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十八條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十九條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十七條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

1024 本條第一號ハ相続人カ一旦有效ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ニ於テ相続財産ヲ處分シタル場合ニ適用セラルヘキ規定ニ非ス(昭五・大審「評論一九卷七號一二〇頁」)一本條第三號ノ惡意トハ特定ノ相続財産アルヲ知り乍ラ之ヲ財産目錄ニ記載セサル事實アルヲ以テ足り一般債權者ヲ害スル意思アルコトヲ要セス(昭三・大審「法新二八八一號六頁」)

第一千九百九十七條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十八條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十九條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十七條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十八條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

第一千九百九十九條 相続人ハ其能力ヲ失フ前ニ其相続ノ開始ニ必要ナル事項ヲ行ハズニシテ其相続ヲ承認シ又ハ拋棄スルヲ得ルコトヲ得

1034 本法ノ規定ニ依ル相続財産ノ競賣ニ在リテモ賣却代金ヲ以テ競賣不動産ノ上ニ債權又ハ抵當權等ヲ有スル優先權者ニ辨濟ヲ爲シタル後其殘餘ヲ限定承認者ニ引渡スヘキモノトス(昭三・法決「法曹六卷九號一〇九頁」)

第千三十三條 限定承認者ハ前二條ノ規定ニ依リテ各債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第千三十四條 前二條ノ規定ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スニ付キ相続財産ノ賣却ヲ必要トスルトキハ限定承認者ハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ要ス但裁判所ニ於テ

第千三十五條 相続債權者及ヒ受遺者ハ自己ノ費用ヲ以テ相続財産ノ競賣又ハ鑑定ニ參加スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百六十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第千三十六條 限定承認者ト相続財産ノ競賣ニ關スル債權者ノ申立・二七二項ノ競賣ノ期日ト利害關係人・三〇三二項ノ不動產ノ競賣ニ關シテ準用スル民事訴訟法ノ條文。民訴六六四ノ競賣ノ條件。六七一一六七四ノ競落ノ許可ニ付テノ具議。六八〇一六八三ノ競落ト抗告。民一〇四七三項・一〇五〇二項・一〇五七二項。

選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ相続財産ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止ムルコトヲ得

第千三十七條 相続人ト限定承認者トノ間ニ申出テテシ債權者及ヒ受遺者キシテ限定承認者ニ知ラザルシ債權者ハ競賣代金ニ付テテ其權利ヲ行フコトヲ得但相続財産ニ付キ特別擔保ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第千三十八條 被相続人ト限定承認者トノ間ニ限定承認者ノ辨濟下債權者・一〇三三三項ノ限定承認者

第千三十九條 拋棄ハ相続開始ノ時ニ過リテ其效力ヲ生ス

第千四十條 遺產相続人アル場合ニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ其相続分ハ他ノ相続人ノ相続分ニ應ジテ之ニ歸屬ス

第千四十一條 共同相続人ト權利義務。一〇〇四以下ノ規定ニ準用ス

第三節 拋棄

第千四十二條 被相続人ノ直系卑屬カ遺產相続ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ拋棄者ノ直系卑屬ハ拋棄者ト同願

1038 被相続人死亡ノ際其死亡公告ニハ眞正ノ相続人ナリト主張スル甲カ其後乙ノ相続届其他乙ノ戸主トシテノ行動ニ異議ヲ述フルコトナカリシトスルモ被相続人死亡ノ當時甲カ眞實ノ家督相続人タルコトヲ熟知シ居タル事跡ナキ限り叙上ノ事實ノミヲ以テハ未タ甲カ相続權又ハ相続回復請求權ヲ拋棄シタリト云フ可キニラス(大一四・東地) 一遺產相続ノ拋棄ト遺產相続ニヨリ取得シタル權利ノ拋棄トハ全ク其觀念ヲ異ニスルモノナレハ後者ノ場

第千三十六條 限定承認者ハ前二十九條ノ規定ニ從テ公告若クハ催告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ同條第一項ノ期間内ニ或債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シタルニ因リ他ノ債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スル能ハサルニ至リタルトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任ニ第千三十三條乃至第千三十五條ノ規定ニ違反シテ辨濟ヲ爲シタルトキ亦同

第千三十七條 前項ノ規定ハ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者若クハ他ノ債權者又ハ受遺者ノ請求ヲ妨ケタル者ニ適用ス

第千三十八條 前二項ノ場合ニ於テ亦之ヲ適用ス

第千三十九條 相続人ト限定承認者トノ間ニ申出テテシ債權者及ヒ受遺者キシテ限定承認者ニ知ラザルシ債權者ハ競賣代金ニ付テテ其權利ヲ行フコトヲ得但相続財産ニ付キ特別擔保ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第千四十條 遺產相続人アル場合ニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ其相続分ハ他ノ相続人ノ相続分ニ應ジテ之ニ歸屬ス

第千四十一條 共同相続人ト權利義務。一〇〇四以下ノ規定ニ準用ス

第三節 拋棄

第千四十二條 被相続人ノ直系卑屬カ遺產相続ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ拋棄者ノ直系卑屬ハ拋棄者ト同願

ノ受遺者ニ對スル辨濟。一〇三六項ノ限定承認者ト損害賠償。一〇五七二項。

第三節 拋棄

第千三十八條 相続ノ拋棄ヲ爲サント欲スル者ハ其旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス

第千三十九條 相続人カ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サルル拋棄ニ關スル場合。一〇二〇項ノ法定相続人ト拋棄。民九一ノ相続ノ承認拋棄其他ニ關スル民法ノ規定ト其施行前ニ開始シタル相続。非訟事件手續法。一〇四一・一〇六六項遺言書ノ提出ノ開始及ヒ檢認。

第千四十條 遺產相続人アル場合ニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ其相続分ハ他ノ相続人ノ相続分ニ應ジテ之ニ歸屬ス

第千四十一條 共同相続人ト權利義務。一〇〇四以下ノ規定ニ準用ス

第三節 拋棄

第千四十二條 被相続人ノ直系卑屬カ遺產相続ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ拋棄者ノ直系卑屬ハ拋棄者ト同願

合ニ於テハ本條ノ手續ヲ履踐スルコトヲ必要トセス (大九・大審「大判民一三〇七頁」)

第四百一十條 相続ノ放棄ヲ爲シタル者ハ其放棄ニ因リテ相続人ト爲リタル者カ相続財産ノ管理ヲ始メルコトヲ得ルマテ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ其財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第四章 財産ノ分離

第四百一十一條 相続債權者又ハ受遺者ハ相続開始ノ時ヨリ三ヶ月内ニ相続人ノ財産中ヨリ相続財産ヲ分離シテ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得其期間満了ノ後ト雖モ相続財産カ相続人ノ固有財産ト混同セザル間亦同シ

第四百一十二條 財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相続財産ニ付キ相続人ノ債權者ニ先チテ辨済ヲ受ケ

第四百一十三條 財産分離ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ相続財産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四百一十四條 相続人ハ單純承認ヲ爲シタル後ト雖モ財産分離ノ請求アリタルトキハ爾後其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相続財産ノ管理ヲ爲ス

大判一三〇七九

財産分産ノ請求アリタルトキハ相続人ハ第千四十一條第二項ノ期間満了ヲ後相續財産ヲ以テ財産分産ノ請求又ハ配當加入ヲ申出シ得ル債權者及受遺者各其債權ノ割合ニ應ジテ清算シ得ルコトヲ得ス

第千三十二條乃至第千三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十三條乃至第千三十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十四條乃至第千三十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十五條乃至第千三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十六條乃至第千三十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十七條乃至第千三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十八條乃至第千三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十九條乃至第千四十條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十條乃至第千四十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十一條乃至第千四十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十二條乃至第千四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十三條乃至第千四十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十四條乃至第千四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十五條乃至第千四十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十六條乃至第千四十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十七條乃至第千四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十八條乃至第千四十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十九條乃至第千五十條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十條乃至第千五十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十一條乃至第千五十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十二條乃至第千五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十三條乃至第千五十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十四條乃至第千五十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十五條乃至第千五十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十六條乃至第千五十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十七條乃至第千五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十八條乃至第千五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十九條乃至第千六十條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十條乃至第千六十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十一條乃至第千六十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十二條乃至第千六十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十三條乃至第千六十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十四條乃至第千六十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十五條乃至第千六十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十六條乃至第千六十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十七條乃至第千六十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十八條乃至第千六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十九條乃至第千七十條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十條乃至第千七十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十一條乃至第千七十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十二條乃至第千七十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十三條乃至第千七十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十四條乃至第千七十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十五條乃至第千七十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十六條乃至第千七十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十七條乃至第千七十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十八條乃至第千七十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十九條乃至第千八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十條乃至第千八十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十一條乃至第千八十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十二條乃至第千八十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十三條乃至第千八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十四條乃至第千八十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十五條乃至第千八十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十六條乃至第千八十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十七條乃至第千八十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十八條乃至第千八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十九條乃至第千九十條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十條乃至第千九十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十一條乃至第千九十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十二條乃至第千九十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十三條乃至第千九十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十四條乃至第千九十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十五條乃至第千九十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十六條乃至第千九十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十七條乃至第千九十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十八條乃至第千九十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十九條乃至第千百條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千十九條 相続人ハ其固有財産又ハ相續債權者等ノ財産分産ノ請求又ハ配當加入ヲ申出シ得ル債權者及受遺者各其債權ノ割合ニ應ジテ清算シ得ルコトヲ得ス

第千二十條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十一條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十二條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十三條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十四條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十五條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十六條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十七條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十八條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十九條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十一條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十二條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十三條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十四條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十五條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十六條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十七條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十八條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千三十九條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十一條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十二條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十三條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十四條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十五條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十六條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十七條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十八條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千四十九條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十一條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十二條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十三條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十四條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十五條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十六條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十七條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十八條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千五十九條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十一條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十二條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十三條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十四條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十五條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十六條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十七條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十八條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千六十九條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十一條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十二條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十三條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十四條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十五條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十六條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十七條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十八條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千七十九條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十一條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十二條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十三條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十四條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十五條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十六條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十七條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十八條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千八十九條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十一條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十二條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十三條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十四條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十五條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十六條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十七條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十八條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千九十九條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千百條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

1051 相続人職缺ノ規定ハ相続人アルコト分明ナラサル場合ニ關スルモノナレハ一見之ヲ民法施行前ニ絶家シ單ニ處分未済ノ遺産ノ管理精算及ヒ相続人ノ有無ヲ確定スル方法並ニ精算後ニ於ケル遺産ノ歸屬ヲ定メタルモノナレハ相続人ノ有無ヲ確定スル方法以外ノ規定ハ之ヲ適用シ得サルノ理ナキモノトス (大八・東國「法新」一六一〇號一四頁)

第千五十條 相続人カ限定承認ヲ爲スコトヲ得ル間又ハ相續財産カ相続人ノ固有財産ト混合セザル間ハ其債權者ハ財産分産ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第千四十四條 第千二十七條、第千二十九條乃至第千三十六條、第千四十三條乃至第千四十五條及ヒ第千四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニテ準用スル

第千二十九條 規定メタル公告及ヒ催告ハ財産分産ノ請求ヲ爲シタル債權者之ヲ爲スコトヲ要ス

第千二十七條 一〇一九ノ相続人ノ承認及ヒ拋棄・一〇二〇ノ一〇二六ノ單純承認ト限定承認・一〇四一ノ相續財産ノ分産ノ請求ヲ得ル者・一〇四二ノ相續財産ニ付相続人ノ債權者ニ先テテテ清算ヲ受ケル者・一〇四九ノ相続人ト相續債權者及ヒ相続人ノ債權者・一〇五一・一〇五二ノ職缺相續財産ノ主體及ヒ其管理人ノ選任。非訟事件手續法八六・八七。

第千五十一條 相続人アルコト分明ナラサルトキハ相續財産ハ之ヲ法人トス

一〇五二以下ノ職缺相續財産ノ管理及ヒ清算・九七〇・九八五ノ家督相續人・九九四・九九六ノ遺產相續人・一〇二八以下ノ相續ノ拋棄・九六四ノ家督相續ノ開始・九九二ノ遺產相續ノ開始・一〇五五ノ相續人アルコト分明ニナラサル時・一〇五九ノ職缺相續財産ノ歸屬・七五一

第千五十二條 前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續財産ノ管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

裁判所ハ遲滞ナク管理人ノ選任ヲ公告スルコトヲ要ス

一〇五一ノ職缺相續財産ノ主體・一〇二一ノ選擇未定中ノ相續財産管理・一〇四〇ノ相續財産者ノ財産管理・一〇五七ノ相続人アルコト分明セザル時ノ管理人ノ處置。非訟事件手續法六五

第千五十三條 第千二十七條乃至第千二十九條ノ規定ハ相續財産ノ管理ニ關スル事件ヲ管轄スル裁判所ニハ八八ノ第六十五條ニ準用スル條文・六九ノ本條第二項ノ公告ニ記載スル事項・七一ノ第六十九條ニ準用スル民訴條文ノ規定。

第千五十四條 第千二十七條乃至第千二十九條ノ規定ハ相續財産ノ管理人ニテ準用スル

一〇五二ノ職缺相續財産ノ管理人ノ選任・一〇二二ノ職缺相續財産ノ保存ニ必要ナル處分ノ命令及ヒ管理人選任サレタル場合ニ準用スル條文。

第五章 相続人ノ職缺

一〇五一ノ相續人アルコト分明ナラサル相續財産ハ之ヲ法人トストノ規定ノ意義及ヒ立法理由(昭四・東・末弘)

1067 秘密式遺言ノ家督相続人指定ニ關スル事項ト財産分配ニ關スル事項カ二通書面ニ別記セラルル場合モ各二書カ一封筒ニ封入セラレ該封筒ニ所定ノ署名捺印アルトキハ各秘密式遺言ハ家督相続人指定ト財産分配ニ關スル事項トノ二個ノ内容ヲ包含スル一個ノ遺言ナリ (大一五・東地「評論一五卷民一一九九頁」)

第一千六十條 遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス
第一千六十一條 遺言ヲ爲シ得ル者。四一、二項ニ遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ス場合。四二、二項ニ遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタル場合。五、五、四項ニ遺言者ノ死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ贈與。九、八、七項ニ系譜、祭典及ヒ墳墓ノ所有權。一〇、九、二項ニ包括受遺者ノ權利義務。一〇、九、八項ニ遺贈ノ目的カ相続財産ニ屬セサル時。一一、三〇項ニ法定家督相続人タル直系卑屬ト遺留分。一一、三一、一〇項ニ財產相續人タル直系卑屬ト遺留分。一一、三四項ニ遺留分權利者ノ贈與及ヒ遺贈減殺ノ請求。
第一千六十五條 第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス。
第一千六十六條 被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ト爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無効トス
第一千六十七條 前項ノ規定ハ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス
第一千六十八條 後見ノ開始スル場合。九、三、七以下ニ後見ノ終了。九、〇、一ニ後見人。一〇、六、一、一〇、六、三ニ遺言ノ性質。九、〇、二ニ公ノ秩序又ハ善良ナル風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲。九、五、二ニ意思表示カ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタル時。

第二節 遺言ノ方式

第一款 普通方式

第一千六十七條 遺言ハ自筆證書、公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス
第一千六十八條 遺言ト方式。一〇、六、八、一〇、七、〇、一〇、七、六以下ニ特別方式。民施四一八ニ確定日附。九、四、四項ニ遺言ノ成立。取消及ヒ其效力。
第一千六十四條 包括名義ノ遺贈(大一四・中・島田)(國偶)
第一千九二條 遺言トノ差異(大二・東・奥田)

1069 公證人カ遺言者ヨリ遺言ノ内容ヲ聴取シタル後別室ニ於テ遺言ノ本文ヲ認メ更ニ尙遺言者ノ面前ニ於テ之ヲ讀ミ聞ケタル上遺言者及證人各署名シタル公正證書ハ遺言者ノ面前ニ於テ作成セラレタルモノト謂フヲ妨ケス (大一五・東地「評論一五卷民一一九九頁」)

第一千六十八條 自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス
第一千六十九條 公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス
一 證人二人以上ノ立會アルコト
二 遺言者カ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト
三 公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト
四 遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名、捺印スルコト但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得
第一千七十條 秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス
一 遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト
二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用キタル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト
三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆名ノ氏名住所ヲ申述スルコト
四 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコト
第一千六十七條 遺言ノ普通方式。一〇、七、四、一〇、七、五、一〇、七、六以下ニ特別方式。民施四一八ニ確定日附。九、四、四項ニ遺言ノ成立。取消及ヒ其效力。
第一千九二條 遺言トノ差異(大二・東・奥田)

五

公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作りタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名、捺印スルコト
第一千六十七條 遺言ノ普通方式。一〇、七、四、一〇、七、五、一〇、七、六以下ニ特別方式。民施四一八ニ確定日附。九、四、四項ニ遺言ノ成立。取消及ヒ其效力。
第一千七十條 秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス
一 遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト
二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用キタル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト
三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆名ノ氏名住所ヲ申述スルコト
四 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコト
第一千六十七條 遺言ノ普通方式。一〇、七、四、一〇、七、五、一〇、七、六以下ニ特別方式。民施四一八ニ確定日附。九、四、四項ニ遺言ノ成立。取消及ヒ其效力。
第一千九二條 遺言トノ差異(大二・東・奥田)

民法

相続

遺言

遺言ノ方式

特別方式

特別方式

式ニシテ結局遺言ハ成立セス(大一四・大審「大判民一〇五頁」)
一本條ノ立會證人ノ署名ヲ他人ニ於テ代署スルカ如キハ假令本人ノ捺印アリトスルモ方式ニ瑕疵アル遺言ニシテ無効ナリト解スルヲ相當トス(大一四・大審「大判民一二九頁」)

第七十七條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在ル者ハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得
第七十八條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷疾ノ爲メ病院ニ在ルトキハ其院ノ醫師ヲ以テ前項ニ掲ケタル將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得
第七十九條 從軍中疾病、傷疾其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名、捺印シ且證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ選擇シテ理事又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ
第八十條 艦船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
第八十一條 第一千九條ノ規定ハ艦船運轉ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス
第八十二條 遺言者、筆者、立會人及ヒ證人カ各自遺言書ニ署名捺印ヲ要スル場合及ヒ特別方式ノ通則。一〇八一ニ艦船運轉ノ場合ノ遺言。

第七十六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第八十三條 遺言者、筆者、立會人及ヒ證人カ各自遺言書ニ署名捺印ヲ要スル場合及ヒ特別方式ノ通則。一〇八一ニ艦船運轉ノ場合ノ遺言。
第八十四條 遺言中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
第八十五條 遺言者、筆者、立會人及ヒ證人カ各自遺言書ニ署名捺印ヲ要スル場合及ヒ特別方式ノ通則。一〇八一ニ艦船運轉ノ場合ノ遺言。
第八十六條 日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事ノ之ヲ行フ
第八十七條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス
第八十八條 遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス
第八十九條 遺言ノ取消。民法九四ニ遺言ノ成立、取消及ヒ效力。民八二九ニ遺言ニ依ル私生子認知ノ可能。八三二ニ認知ノ效力ノ及ビ。八四八ニ遺言ヲ以テスル養子。九七六ニ遺言ヲ以テスル推定家督相續人ノ廢除。九七七ニ遺言ヲ以テスル推定家督相續人ノ指定又ハ取消。一〇〇〇ニ遺言ヲ以テスル推定家督相續人ノ廢除及ヒ取消。四二二ニ遺言ノ效力。

民法

相続

遺言

遺言ノ方式

特別方式

遺言ノ效力

1087 相續人及以外ノ者ニ遺言ヲ以テ財産ヲ遺贈スル場合ニ於テ裁判所カ遺言者ノ檢認ヲ相續人ニ通知セス從テ右檢認ヲ相續人ニ對抗スルヲ得サリシト雖モ遺言ノ效力カ遺言者ノ死亡ト同時ニ發生スルコトハ之カ爲メニ妨ケラルルコトナシ(昭三・大審「彙報三九卷民一九四頁」)

第九〇條 遺言ノ確認ヲ管轄スル裁判所及ヒ手續ノ費用。一一〇ニ遺言確認申請ノ却下ト即時抗告。明治三三法律一三號民法第七十九條及第七十條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル法律。民法四一八ニ確定日附ト證據力。五五ニ確定日附アルモノトスル場合ノ一。
第八十二條 第一千九條ノ規定ハ艦船運轉ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス
第八十三條 遺言者、筆者、立會人及ヒ證人カ各自遺言書ニ署名捺印ヲ要スル場合及ヒ特別方式ノ通則。一〇八一ニ艦船運轉ノ場合ノ遺言。
第八十四條 遺言者、筆者、立會人及ヒ證人カ各自遺言書ニ署名捺印ヲ要スル場合及ヒ特別方式ノ通則。一〇八一ニ艦船運轉ノ場合ノ遺言。
第八十五條 遺言者、筆者、立會人及ヒ證人カ各自遺言書ニ署名捺印ヲ要スル場合及ヒ特別方式ノ通則。一〇八一ニ艦船運轉ノ場合ノ遺言。
第八十六條 日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事ノ之ヲ行フ
第八十七條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス
第八十八條 遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス
第八十九條 遺言ノ取消。民法九四ニ遺言ノ成立、取消及ヒ效力。民八二九ニ遺言ニ依ル私生子認知ノ可能。八三二ニ認知ノ效力ノ及ビ。八四八ニ遺言ヲ以テスル養子。九七六ニ遺言ヲ以テスル推定家督相續人ノ廢除。九七七ニ遺言ヲ以テスル推定家督相續人ノ指定又ハ取消。一〇〇〇ニ遺言ヲ以テスル推定家督相續人ノ廢除及ヒ取消。四二二ニ遺言ノ效力。

第九〇條 遺言ノ確認ヲ管轄スル裁判所及ヒ手續ノ費用。一一〇ニ遺言確認申請ノ却下ト即時抗告。明治三三法律一三號民法第七十九條及第七十條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル法律。民法四一八ニ確定日附ト證據力。五五ニ確定日附アルモノトスル場合ノ一。
第八十二條 第一千九條ノ規定ハ艦船運轉ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス
第八十三條 遺言者、筆者、立會人及ヒ證人カ各自遺言書ニ署名捺印ヲ要スル場合及ヒ特別方式ノ通則。一〇八一ニ艦船運轉ノ場合ノ遺言。
第八十四條 遺言者、筆者、立會人及ヒ證人カ各自遺言書ニ署名捺印ヲ要スル場合及ヒ特別方式ノ通則。一〇八一ニ艦船運轉ノ場合ノ遺言。
第八十五條 遺言者、筆者、立會人及ヒ證人カ各自遺言書ニ署名捺印ヲ要スル場合及ヒ特別方式ノ通則。一〇八一ニ艦船運轉ノ場合ノ遺言。
第八十六條 日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事ノ之ヲ行フ
第八十七條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス
第八十八條 遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス
第八十九條 遺言ノ取消。民法九四ニ遺言ノ成立、取消及ヒ效力。民八二九ニ遺言ニ依ル私生子認知ノ可能。八三二ニ認知ノ效力ノ及ビ。八四八ニ遺言ヲ以テスル養子。九七六ニ遺言ヲ以テスル推定家督相續人ノ廢除。九七七ニ遺言ヲ以テスル推定家督相續人ノ指定又ハ取消。一〇〇〇ニ遺言ヲ以テスル推定家督相續人ノ廢除及ヒ取消。四二二ニ遺言ノ效力。

1090 遺言者死亡シ遺言カ其效力ヲ生シタル後受遺者死亡シタルトキハ其受遺權ハ受遺者ノ相続人ニ移轉スヘク偶其受遺權カ遺產相續ニ因リ遺贈義務者ニ歸シクリトスルモ之ヲ以テ直ニ右遺言其モノヲ無効トスヘキ理由ナキモノトス (大一一・長控「評論」一卷民二七〇頁)

言ヲ以テ爲シタル寄附行爲。一〇八八遺贈ノ拋棄。一〇九二包括受遺者ノ權利義務。一〇一七相續人ノ承認及ヒ拋棄。一二七項三項停止條件附法律行爲ノ效力發生ト其題及力。一三五始期又ハ終期ヲ附シタル法律行爲。九〇一指定後見人。九一〇遺言ヲ以テスル後見監督人ノ指定ノ可能者。九四五項遺言ヲ以テスル親族會員ノ選定ノ可能者。一〇〇六被相續人ノ遺言ニ依ル相續分ノ決定。
第一千九十八條 受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得
遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス
◇一〇六四遺言者ノ財產處分。一〇八七遺言ノ效力發生。一〇九二包括受遺者ノ權利義務。一〇一七以下相續人ノ承認及ヒ拋棄。一〇八九遺贈ノ承認又ハ拋棄ノ催告。一〇三八相續拋棄ノ申述。一〇三九一項遺言ノ效力發生。一〇九七遺贈カ相續人ニ歸屬スル場合。一〇九〇受遺者ノ相續人ノ承認又ハ拋棄。八八六六親權ヲ行フ母カ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要スル行爲ノ一。
第一千九十九條 遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ對シテ其意思ヲ表示セ

サルトキハ遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス
◇一〇六四遺贈者ノ財產ノ處分。九七〇以下一家督相續人。九九四以下遺產相續人。一〇五一以下相續人ノ廢缺。一〇九二包括受遺者ノ權利義務。一〇一七以下相續人ノ承認及ヒ拋棄。一〇八八遺贈ノ拋棄。一〇二四二單純承認ヲ爲シタルト看做サル場合ノ一。
第一千九十九條 受遺者カ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ其相續人ハ自己ノ相續權ノ範圍内ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
◇一〇六四遺言者ノ財產處分。一〇九二包括受遺者ノ權利義務。一〇一八相續分承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタル時。一〇八八遺贈ノ拋棄。一〇八九遺贈ノ承認又ハ拋棄ノ催告。
第三節 遺言ノ效力
一〇八七 民法一〇八七條第一項ノ意義ヲ説明シ併セテ同第八四八條第二項、第九七六條後段、第九八一條後段ニ於テ養親或ハ被相續人ノ「死亡ノ時ニ遡リテ」ノ效力ヲ生スル「アルハ」之ト同一意義ニ歸着スヘキヤ否ヤヲ明ニセヨ(昭六・九・舟橋)

第一千九十一條 遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スコトヲ得ス
第一千九十二條 第二項ノ規定ハ遺贈ノ承認及ヒ拋棄ニ之ヲ準用ス
◇一〇八八一〇九〇遺贈ノ承認及ヒ拋棄。一〇九二包括受遺者ノ權利義務。一〇二二相續ノ承認及ヒ拋棄ノ取消。
第一千九十二條 包括受遺者ハ遺產相續人ト同一ノ權利義務ヲ有ス
◇一〇六四遺言者ノ財產處分。一〇〇一以下一〇三三遺產相續ノ客體。一〇一七以下相續人ノ承認及ヒ拋棄。一〇二四二單純承認ヲ爲シタルモノト看做サル場合ノ一。一〇二六限定承認ノ申述。一〇三八相續拋棄ノ申述。一〇三九遺贈ノ效力ノ發生。一〇四一以下財產ノ分離。一〇八八一〇九二遺贈ノ承認、拋棄及ヒ其取消。一〇九七遺言ノ相續人ニ歸屬スル場合。一一三一遺產相續人タル直系卑屬ノ遺留分。
第一千九十三條 受遺者ハ遺贈カ辨濟期ニ至ラサル間ハ遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ノ成否未定ノ間亦同シ
◇一〇六四遺言者ノ遺產處分。一〇八七遺言ノ效力發生。九七〇以下一家督相續人。九九四以下遺產相續人。一〇九二包括受遺者ノ權利

義務。一〇五一以下相續人ノ廢缺。三四二以下債權。三六九以下抵當權。四四六以下保證債務。一一七一項停止條件附法律行爲ノ效力ノ發生。一一九二條件附權利義務ノ處分、相續、保存及ヒ擔保。
第一千九十四條 受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
◇一〇六四遺言者ノ財產處分。一〇八七遺言ノ效力發生。八八八九天然果實ト法定果實。一〇六〇以下遺言ノ性質及ヒ方式。
第一千九十五條 遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出シタルトキハ第二百九十九條ノ規定ヲ準用ス
果實ヲ收取スル爲メニ出シタル通常ノ必要費ハ果實ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ得
◇一〇六四遺言者ノ財產處分。一〇八七遺言ノ效力發生。九七〇以下一家督相續人。九九四以下遺產相續人。一〇九二包括受遺者ノ權利義務。一〇五一以下相續人ノ廢缺。
一〇九二 包括名義ノ遺贈(大・四・中・島田) (關係)
一〇六四
一〇九三 條件附遺贈ノ效力(大・四・關・杉浦) (關係)
一〇九六

1098 遺言者死亡當時ハ勿論遺言當時ニ於テ遺言者ノ所有ニ屬セサル建物ヲ以テ遺贈ノ目的トナシタル遺言ハ本條本文ニ因リ無効ナリ (六一一長控「評論」一巻民二七〇頁)

第一千九十六條 遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス
 停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同シ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
 ◇一〇六四遺言者ノ財產處分・一〇八七遺言ノ效力發生・九七四家督相続人タルヘキ者カ家督相続ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相続權ヲ失ヒタル場合・九九五遺贈相續人タルヘキ者カ相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相続權ヲ失ヒタル場合・一二七一項三項停止條件附法律行為ノ效力發生ト題及・一〇九七遺贈カ相續人ニ歸屬スル場合・一〇六〇以下遺言ノ性質及ヒ方式

第一千九十七條 遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ至リタルトキハ受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
 ◇一〇九六遺言ト受遺者ノ死亡・一〇八八遺言ノ拋棄・九七〇以下家督相続人・九九四以下遺言相續人・一〇九二包括受遺者ノ權利義務・一〇三九二項數人ノ遺言相續人中其一人カ拋棄シタル場合・一〇四二項負擔附遺贈ノ拋棄ヲ爲シタル時・一〇六〇以下遺言ノ性質及ヒ方式

第一千九十八條 遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財產ニ屬セサルトキハ其效力ヲ

生セス但其權利カ相續財產ニ屬セサルコトアルニ拘ハラヌ之ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト認ムヘキトキハ此限ニ在ラス
 ◇一〇六四遺言者ノ財產處分・一〇八七遺言ノ效力發生・一〇九九相續財產ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ本條ノ規定ニ依リ有效トナリタル時

第一千九十九條 相續財產ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ規定ニ依リテ有效ナルトキハ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ受遺者ニ移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ取得スルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
 ◇一〇六四遺言者ノ財產處分・一〇八七遺言ノ效力發生・九七〇以下家督相続人・九九四以下遺言相續人・一〇九二包括受遺者ノ權利義務・一〇五一以下相續人ノ廢缺・一〇六〇以下遺言ノ性質及ヒ方式

第一千百條 不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ受遺者カ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス
 ◇一〇六四遺言者ノ財產處分・一〇八七遺言ノ效力發生・九七〇以下家督相続人・九九四以下遺言相續人・一〇九二包括受遺者ノ權利

第一千九十六條 遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス
 停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同シ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
 ◇一〇六四遺言者ノ財產處分・一〇八七遺言ノ效力發生・九七四家督相続人タルヘキ者カ家督相続ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相続權ヲ失ヒタル場合・九九五遺贈相續人タルヘキ者カ相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相続權ヲ失ヒタル場合・一二七一項三項停止條件附法律行為ノ效力發生ト題及・一〇九七遺贈カ相續人ニ歸屬スル場合・一〇六〇以下遺言ノ性質及ヒ方式

第一千九十七條 遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ至リタルトキハ受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
 ◇一〇九六遺言ト受遺者ノ死亡・一〇八八遺言ノ拋棄・九七〇以下家督相続人・九九四以下遺言相續人・一〇九二包括受遺者ノ權利義務・一〇三九二項數人ノ遺言相續人中其一人カ拋棄シタル場合・一〇四二項負擔附遺贈ノ拋棄ヲ爲シタル時・一〇六〇以下遺言ノ性質及ヒ方式

第一千九十八條 遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財產ニ屬セサルトキハ其效力ヲ

下遺言相續人・一〇九二包括受遺者ノ權利義務・一〇五一以下相續人ノ廢缺・一〇六〇以下遺言ノ效力發生・九七〇以下家督相続人・九九四以下遺言相續人・一〇九二包括受遺者ノ權利義務・一〇三九二項數人ノ遺言相續人中其一人カ拋棄シタル場合・一〇四二項負擔附遺贈ノ拋棄ヲ爲シタル時・一〇六〇以下遺言ノ性質及ヒ方式

第一千九十九條 遺言者カ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス
 ◇一〇六四遺言者ノ財產處分・一〇八七遺言ノ效力發生・九七〇以下家督相続人・九九四以下遺言相續人・一〇九二包括受遺者ノ權利

ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス
 ◇一〇六四遺言者ノ財產處分・一〇八七遺言ノ效力發生・九七〇以下家督相続人・九九四以下遺言相續人・一〇九二包括受遺者ノ權利義務・一〇五一以下相續人ノ廢缺・一〇六〇以下遺言ノ性質及ヒ方式

第一千百條 遺言者カ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス
 ◇一〇六四遺言者ノ財產處分・一〇八七遺言ノ效力發生・九七〇以下家督相続人・九九四以下遺言相續人・一〇九二包括受遺者ノ權利

1106 裁判所ニ於テ遺言者ノ檢認ヲ爲シタルトキハ不出頭ノ相続人等ニ對シ其旨ヲ告知スヘキモノナルコトハ非訟事件手續法第一一五條ノ規定スル所ナリト雖モ同項ハ該告知ヲ以テ檢認ノ效力ヲ生スルノ條件ト爲スノ趣旨ニ非ス(昭三・大審「法新二八四〇號一五頁」) 一檢認ハ其ノ性質裁判ニ非ス非訟事件手續法第一八條ハ裁判ニ關スル規定ナルヲ以テソノ性質裁判ニ非サル檢認ニ之ヲ準用スルコトヲ得ス(昭三・大審「法新二八四〇號一五頁」)

利義務。一〇一七相續人ノ承認及拋棄。一〇二四單純承認ヲ爲シタルト看做サルル場合。一〇三八以下相續ノ拋棄。一〇九七遺言カ相續人ニ歸屬スル場合。一〇六〇以下遺言ノ性質及方式。

第一千五百條 負擔附遺贈ノ目的ノ價額カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應シテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千四百條 遺言者ノ財產處分。一〇二五以下限定承認。一〇三三限定承認ニ於ケル辨濟ト受遺者。一一三四遺留分權利者カ贈與滅殺ヲ請求シ得ル限度。一一三六贈與ノ滅殺ト遺言ノ滅殺。一一四一負擔附贈與ニ關スル滅殺ノ請求。一一四一四項負擔附遺贈ヲ受ケタル者ノ負擔義務。一〇六〇以下遺言ノ性質及方式。

第四節 遺言ノ執行

第一千四百六條 遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル後遲滯ナク之ヲ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦同シ前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セザル

人ノ立會ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス
一〇六七以下遺言ノ普通方式。九六四家督相續ノ開始。九九二遺產相續ノ開始。九七〇以下家督相續人。九九四以下遺產相續人。一〇六九公正證書ニ依リ遺言ヲ爲ス方式。一〇七六疾病其ノ他ノ事由ニ因ル特別方式。一〇七九從軍中疾病傷殘其他ノ事由ニ依リ軍人軍屬ノ爲ス遺言。一〇八一艦船遭難ノ場合ノ遺言。一一〇七遺言書ノ提出ヲ怠リ、檢認ヲ經スルテ執行シ又ハ裁判所以外ニ於テ開封シタル者ノ處分。非訟事件手續法一一一。一一六遺言書ノ檢認及開封。
第一千四百七條 前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ、其檢認ヲ經スシテ遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラル
一〇六六遺言書ノ保管者及封印アル遺言書ノ開封。

第四節 遺言ノ執行 一一〇六 遺言執行ノ條件(大ニ日)

1114 遺言執行者カ遺贈金ヲ受遺者ニ分配スルニ當リテハ遺贈ニ充テラルヘキ財產ヲ一應其手ニ集メテ後交付スヘク受遺者相互ノ間ニ於テ擅ニ相殺ヲ爲スカ如キハ遺言執行ノ性質上之ヲ許サス(昭三・大審「彙報三九卷民二六六頁」)

第一千零八條 遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滯ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

一〇六〇以下遺言ノ性質、方式及效力。六四三以下委任。九七〇以下家督相續人。九九四以下遺產相續人。一一〇九以下遺言執行者ノ任務及資格。

第一千九條 遺言執行者カ就職ヲ承諾シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス
一〇八八遺言者ト遺言執行者ノ指定又ハ其委託。一一〇〇遺言執行者ノ就職ノ承諾ノ開始。

第一千十條 相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間内ニ相續人ニ對シテ確答ヲ爲ササルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス
一〇八八遺言者ト遺言執行者ノ指定又ハ其委託。一一〇九遺言執行者ノ就職ノ承諾ト任務ノ開始。九九四以下。九七〇以下。

ルコトヲ得ス
一〇八八遺言者ト遺言執行者ノ指定又ハ其委託。一一〇〇遺言執行者ノ就職ノ承諾ノ開始。

第一千十二條 遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リテ之ヲ選任スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リテ選任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ就職ヲ拒ムコトヲ得ス
一〇八八遺言者ト遺言執行者ノ指定又ハ其委託。一一〇〇遺言執行者ノ就職ノ承諾ノ開始。

第一千十三條 遺言執行者ハ遲滯ナク相續財產ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續人ニ交付スルコトヲ要ス遺言執行者ハ相續人ノ請求アルトキハ其立會ヲ以テ財產目錄ヲ調製シ又ハ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコトヲ要ス
一〇八八遺言者ト遺言執行者ノ指定又ハ其委託。一一〇〇遺言執行者ノ就職ノ承諾ノ開始。

第一千十四條 遺言執行者ハ相續財產ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ

1115 本條ノ處分トハ物權行爲ヲ指スノ義ニシテ給付受領ノ如キヲ包含ス(昭二・大審「評論一六卷民九九六頁」)

第六百四十四條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十一條ノ規定ハ遺言執行者ニ之ヲ準用ス

○一一〇八||遺言者ト遺言執行者ノ指定又ハ其委託・一一二二||遺言執行者ノ選定・一一一六||特
定財産ニ關スル遺言ト遺言執行者ノ權利義務。
一〇二一||相續財産ノ保存ニ必要ナル處分。一〇四
〇||相續財産ノ管理ニ必要ナル處分。一〇四四
〇||固有財産ニ於ケル同一注意ヲ以テ相續財産
管理。一〇五二||相續財産管理人ノ選任。
第六百四十五條 遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人
ハ相續財産ヲ處分シ其他遺言ノ執行ヲ妨クヘキ行
爲ヲ爲スコトヲ得ス

○一一一四||遺言執行者ノ權利義務。九八六||家
督相續ノ開始ト權利義務ノ承継。一〇〇一||遺
產相續人ト被相續人ノ權利義務ノ承継。一〇二二
一||相續財産ノ保存ニ必要ナル處分。一一一六
||特定財産ニ關スル遺言ト遺言執行者ノ權利義
務。

第六百四十六條 前三條ノ規定ハ遺言カ特定財産ニ關
スル場合ニ於テハ其財産ニ付テノミ之ヲ適用ス

○一一一三||遺言執行者ト相續財産目録ノ調製。
一〇一四||遺言執行者ノ權利義務。一一一五||
遺言執行者アル場合ノ相續人ノ行爲ノ制限。一
〇六四||遺言者ト包括又ハ特定遺贈。

第六百四十七條 遺言執行者ハ之ヲ相續人ノ代理人ト
看做ス

第六百四十八條 遺言執行者ハ已ムコトヲ得サル事由
アルニ非サレハ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムル
コトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示
シタルトキハ此限ニ在ラス

遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ第三者ヲシテ
其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ相續人ニ對シ第
百五條ニ定メタル責任ヲ負フ

第六百四十九條 數人ノ遺言執行者アル場合ニ於テハ
其任務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但遺言者カ
其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ
從フ

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ保存行爲ヲ
爲スコトヲ得

○一一〇八||遺言者ト遺言執行者ノ指定又ハ其委
託・一一二二||遺言執行者ノ選定・一〇四一||一〇
六||委任ニ因ル代理人ノ復任權。一〇五||代理
人ノ責任。一〇六||以下。

第六百五十條 遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メタル
トキニ限り之ヲ受クルコトヲ得

裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタルトキハ裁判
所ハ事情ニ依リ其報酬ヲ定ムルコトヲ得

遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第六百
四十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

○一一〇八||遺言者ト遺言執行者ノ指定又ハ其委
託・一一二二||遺言執行者ノ選定・一〇四一||一〇
六||委任ニ因ル代理人ノ復任權。一〇五||代理
人ノ責任。一〇六||以下。

1121 任務ヲ怠リ其他正當ノ理由アルニ非サレハ遺言執行者ヲ解任シ得ス遺言ノ執行カ一刻ヲ争フ急迫ノ事項カ其主要部分ヲ占ムルニ非サル限り遺言執行者カ執行地ニ在サルコトハ未タ以テ之ヲ以テ解任ノ正當ノ理由トナスニ足ラス又遺言執行者ト雖モ必スシモ其遺言ノ有效ヲ信セサルヘカラサルニ非サルヲ以テ之カ無効確認ノ訴ヲ提起シタレハトテ亦之ヲ以テ解任ノ正當理由トナスニ足ラス(昭二・大審「評論一六卷民九九五頁」)

第六百四十一條 遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ利害關係人ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得

○一一〇八||遺言者ト遺言執行者ノ指定又ハ其委託・一一〇九||遺言執行者ノ就職ノ承諾ト任務ノ開始。一一一〇||遺言執行者ノ就職ノ承諾ノ開始。一一二二||遺言執行者ノ選定。非訟一〇七・一〇八。

第六百五十二條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務カ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但之ニ因リテ遺留分ヲ減スルコトヲ得ス

○一一三〇||遺留分權利者。一一三一||遺產相續人ノ遺留分。一一三二||以下。

第五節 遺言ノ取消

第六百五十四條 遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得

○一〇八七||項||遺言ノ效力。五三〇||廣告ノ取消。一一二八||限定承認者ト相續財産ノ管理。

第六百五十五條 遺言者ト遺言執行者ト
ノ關係ニ依リ遺言執行者ノ指定ノ取消
九六||項||詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示。一〇
六七||以下。一一二〇||以下。七八||以下。一〇六一||五三
||以下。民法九四。

第六百五十六條 前ノ遺言ト後ノ遺言ト抵觸スルト
キハ其抵觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ
遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律
行爲ト抵觸スル場合ニ之ヲ準用ス

○五五四||死因贈與。一一二七||遺言ニ依ル家督
相續人ノ指定ノ取消。一〇六〇||以下。

第五節 遺言ノ取消

一一二五 遺言ハ如何ナル場合ニ取消サレタルモノ
ト看做サルルヤ(大元・東・奥田) (例) 一一二六、
一一二七

1130 相続開始前ニ於テハ遺留分ニ付キ保全處分ヲ爲スコトヲ得ス(大一五・法決「法曹四卷三號一〇七頁」)

民法 相続

遺言ノ取消 遺留分

第一千二百六條 遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ故意ニ遺言ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

第一千二百七條 前條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行爲カ取消サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セス但行爲カ詐欺又ハ強迫ニ因ル場合ハ此限ニ在ラス

第一千二百八條 遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ放棄スルコトヲ得ス

第一千二百九條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セザルトキハ相続人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

1項ニ取消シ得ヘキ行爲ノ取消權者。一二二ニ取消シ得ヘキ行爲ノ取消ノ效果。一二七ニ遺言執行者ト相続ノ代理人。

第七章 遺留分

第一千三十條 法定家督相続人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相続人ノ財産ノ半額ヲ受ク

第一千三十一條 遺言執行者ノ指定。一一四ニ遺留分權利者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル有價行爲。一一三四ニ減殺ト遺留分權利者。一一四六・五四九・五五五。民法九五。

第七章 遺留分

第一千三十二條 遺留分ハ被相続人カ相続開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

1133 遺留分算定ニ付相続開始ノ時ヨリ一年前ニ爲サレタル贈與ノ價額ヲ算入スルニハ當事者雙方カ遺留分權利者ノ權利ヲ害スルコトヲ認識シテ爲シタル事實アルノミヲ以テ足ル(昭四・大審「大判六一八頁」)

1134 留保財産額カ相続人ノ受クヘキ遺留分額ヲ超過シタルトキト雖モ財産留保行爲ハ法律上當然無効ニ非ス(昭二・東地「新報一三三號二〇頁」) 一相続人ノ遺留分ヲ無視シタル被相続人ノ

民法 相続 遺留分

第一千三十一條 遺產相続人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相続人ノ財産ノ半額ヲ受ク

第一千三十二條 遺留分ハ被相続人カ相続開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

第一千三十三條 贈與ハ相続開始前一年間ニ爲シタルモノニ限リ前條ノ規定ニ依リテ其價額ヲ算入ス

第一千三十四條 遺言執行者ト相続財產目録ノ調製。一一三〇ニ遺留分權利者。一一三一ニ遺產相続人ノ遺留分。一〇〇七ニ法定相続

第一千三十五條 條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ其價額ヲ算定ス

第一千三十四條 遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ掲ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

財産處分行為ハ自己ノ所有權ヲ行使スルモノナレハ假令相続人ノ相続スヘキ分ヲ無視シタル結果ヲ生スルモ公序良俗ニ反スル行為ニ非ス(昭四・臺高「臺報二三卷一二號一一二頁」)

第一千三百六條 贈與ハ遺贈ヲ滅殺シタル後ニ非サレハ之ヲ滅殺スルコトヲ得ス

第一千三百七條 遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ滅殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千三十八條 贈與ノ滅殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ

第一千三十九條 受贈者ハ其返還スヘキ財産ノ外尙ホ滅殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ返還スルコトヲ要ス

第一千四十條 滅殺ト遺留分權利者ハ八八天然果實ノ意義ハ八九天然果實ノ取得ニ依リ得ス

第一千四十一條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十二條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十三條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十四條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十五條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十六條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十七條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十八條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十九條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十一條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十二條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十三條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十四條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十五條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十六條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十七條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十八條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五十九條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四百三條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四百四條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四百五條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四百六條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四百七條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四百八條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四百九條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百一條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百二條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百三條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百四條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百五條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百六條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百七條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百八條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千五百九條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十一條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十二條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十三條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十四條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十五條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十六條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十七條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十八條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千六十九條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千七十條 遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス者ノ返還義務ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

1 民法施行前ニ遺産相続權ヲ失ヒタル者ハ遺産相続ノ開始カ民法施行後ニ之アリシトスルモ之ニ民法ノ規定ヲ適用シ其相続權ヲ認ムルヲ得ス(昭二・大審「彙報三九卷民六三頁」)

5 土地登記簿謄本ハ國稅徵收法ニ所謂公正證書ニ該當ス(昭三・行政「法新二九一一號九頁」)

民法施行法(明治三十一年六月二十一日)

改正
明治三三—法律七一
明治三九—法律三九
大正一一—法律七一

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民法施行法

第一章 通則

第一條 民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

第二條 (破産法第三二八—三五條ヲ以テ削除)

第三條 (同上)

第四條 證書ハ確定日附アルニ非サレハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナル證據力ヲ有セス

第五條 證書ハ左ノ場合ニ限リ確定日附アルモノトス

一 公正證書ナルトキハ其日附ヲ以テ確定日附トス

二 登記所又ハ公證人役場ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ捺シタルトキハ其印章ノ日附ヲ以テ確定日附トス

三 私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトス

四 確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタルトキハ其證書ノ日附ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トス

五 官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ニ日附ヲ記載シタルトキハ其日附ヲ以テ其證書ノ確定日附トス

第六條 私署證書ニ確定日附アルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者アルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ確定日附簿ニ署名者ノ氏名又ハ其一人ノ氏名ニ外何名ト附記シタルモノ及ヒ件名ヲ記載シ其證書ニ登簿番號ヲ記入シ帳簿及ヒ證書ニ日附アル印章ヲ捺シ且其印章ヲ以テ帳簿ト證書トニ制印ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 證書カ數紙ヨリ成レル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル印章ヲ以テ毎紙ノ綴目又ハ繼目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 確定日附簿ニハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ請求順ヲ以テ前條ノ規定ニ從ヒ記入ヲ爲スコトヲ要ス

確定日附簿ニハ地方裁判所長其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺シ且職印ヲ以テ毎紙ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ納ムルコトヲ要ス

第九條 左ノ法令ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

- 一 明治五年第二百九十五號布告
- 二 明治六年第二十一號布告
- 三 同年第四十號布告
- 四 同年第六十二號布告
- 五 同年第七十七號布告
- 六 同年第七十五號布告
- 七 同年第七十七號布告
- 八 同年第七十五號布告
- 九 同年第七十二號布告
- 十 同年第七十二號布告
- 十一 明治七年第二十七號布告
- 十二 明治八年第六號布告
- 十三 同年第六十三號布告
- 十四 同年第六十二號布告
- 十五 同年第六十四號布告
- 十六 明治九年第七十五號布告
- 十七 同年第九十九號布告
- 十八 明治十年第五十號布告
- 十九 明治十四年第七十三號布告

二十 明治十七年第二十號布告

二十一 明治二十三年法律第九十四號財產委棄法

二十二 同年勅令第二百七十七號擔保提供規則

二十三 明治六年第十八號布告地所賃入書入規則ハ第十一條ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十四條 (明治三十九年法律第十三號ヲ以テ削除)

第十五條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章 總則編ニ關スル規定

第十二條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者ハ其施行ノ日ヨリ禁治產者又ハ準禁治產者ト看做ス

後見人ハ民法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ禁治產者又ハ準禁治產者ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者カ民法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ禁治產者又ハ準禁治產者ノ請求ヲ爲サザリシトキハ其期間經過ノ後ハ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

前項ノ期間内ニ禁治產者又ハ準禁治產者ノ請求アリタルモ裁判所ニ於テ之ヲ却下シタルトキハ抗告期間經過ノ後、若シ抗告アリタルトキハ最後ノ抗告棄却ノ時ヨリ又訴ニ於テ禁治產者又ハ準禁治產者ノ宣告ヲ取消シタルトキハ其判決確定ノ日ヨリ前條第一

第十四條 民法第三十條第三號、第三十五條、第三十六條、刑法附則第四十一條、陸軍刑法第十八條第四號及海軍刑法第九條第四號、第二十二條ハ之ヲ削除ス

第十五條 民法施行前ヨリ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ刑法第五十五條中「行政ノ處分」ノ文字及ヒ陸軍刑法第三十二條中「第三十五條第三十六條」ノ文字ハ之ヲ削除ス

第十六條 民法施行ノ日ニ於テ刑事禁治産者タル者ハ其施行ノ日ヨリ能力ヲ回復ス

第十七條 民法施行前ヨリ刑事禁治産者ノ財産ヲ管理スル者ハ刑事禁治産者又ハ刑事禁治産者カ定メタル他ノ管理者カ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルマテ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第十八條 民法施行前ヨリ刑事禁治産者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第十九條 民法施行前ヨリ住所又ハ居所ヲ去リタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二十條 民法施行前ヨリ不在者ノ財産ヲ管理スル者ハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其管理ヲ繼續ス

第二十一條 民法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ民法施行前ヨリ生死分明ナラサル者ニモ亦之ヲ適用ス

民法施行前既ニ民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ直チニ失効ノ宣告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ失踪者ハ民法ノ施行ト同時ニ死亡シタルモノト看做ス

第二十二條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

第二十三條 民法施行前ヨリ其他社員又ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作リ民法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ主務官廳ニ提出シ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

第二十四條 民法施行前ヨリ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十五條 法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得タルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及ヒ第五號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第二十七條 主務官廳ノ認可ノ年月日

第二十八條 主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條 民法第一項ニ定メタル登記ト同一ノモノト看做ス

28 庵ニシテ寺院明細帳ニ記載セラレタルモノハ法律上人格ヲ有シ隨テ不動産登記申請ノ主體タルヲ得(昭三・法決「法曹六卷九號一〇八頁」)

第二十一條 第十九條第一項ノ法人カ財産目錄又ハ社員名簿ヲ備ヘサルトキハ民法施行ノ後遲滞ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條 法人ノ代表者カ前條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財産目錄若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ五箇以上二百圓以下ノ過料ニ處セラレ

第二十三條 第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スルキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十五條 主務官廳カ正當ノ理由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 法人ノ清算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 判事公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事、監事又ハ清算人タルコトヲ得ス

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内社、社、寺院、同守及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債

權ハ時効ニ因リテ消滅シタルモノト看做ス

第三十條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セザル債權ニ付テハ民法中時効ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十一條 民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但し其時効カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二條 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三條 前條場合ニ於テ民法中時効ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第三十四條 第三十條乃至第三十二條ノ規定ハ時効期間ノ性質ヲ有セザル法定期間ニ之ヲ準用ス

第三章 物權編ニ關スル規定

第三十五條 慣習上物權ト認メタル權利ニシテ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ後ハ民法其他ノ法律ニ定ムルモノニ非サレハ物權タル效力ヲ有セス

第三十六條 民法ニ定メタル物權ハ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ有ス

44 本條ノ規定ハ借地法施行ノ結果同法第一七條ト抵觸スルニ至リタルヲ以テ其適用ヲ排除セラルルモノトス(大一五・東地「法新二五九九號一一頁」)

第三十七條 民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年內ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條 民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 民法施行前ヨリ動産ヲ占有スル者カ民法第九十二條ノ條件ヲ具備スルトキハ民法ノ施行ト同時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第四十條 遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ依リ榜示ヲ爲シタル後一年內ニ其所有者ノ知レサルトキハ民法施行前ニ其榜示ヲ爲シタルトキト雖モ拾得者其所有權ヲ取得ス但遺失物ニ付テハ明治八年第六十六號布告内國船難破及漂流物取扱規則ノ規定ニ從フ

第四十一條 埋藏物ニ付テハ特別法ノ施行ニ至ルマテ遺失物ト同一ノ手續ニ依リテ公告ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 民法施行前ヨリ民法第二百四十二條乃至第二百四十六條ノ規定ニ依レハ所有權ヲ取得スヘカリシ狀況ニ在ル者ハ民法ノ施行ト同時ニ民法ノ規定ニ從ヒテ所有權ヲ取得ス但第三三者カ正當ニ取得シタル權利ヲ妨ケス

第四十三條 共有者カ民法施行前ニ於テ五年ヲ超ユル期間内共有物ノ分割ヲ爲ササル契約ヲ爲シタル

トキハ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス

第四十四條 民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存続期間ノ定ナキモノニ付キ當事者カ民法第二百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍内ニ於テ其存続期間ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽廢又ハ其竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存続ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上權ハ原建物ノ朽廢スヘカリシ時ニ於テ消滅ス

第四十五條 (明治三十四年法律第三十九號ヲ以テ廢止)

第四十六條 民法第二百七十五條及ヒ第二百七十六條ノ期間ハ民法施行前ヨリ同條ニ定メタル事實カ始マリタルトキト雖モ其始ヨリ之ヲ起算ス

第四十七條 民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存続期間カ五十年ヨリ長キトキト雖モ其效力ヲ存ス但其期間カ民法施行ノ日ヨリ起算シテ五十年ヲ超ユルトキハ其日ヨリ起算シテ之ヲ五十年ニ短縮ス

民法施行前ニ期間ヲ定メシテ設定シタル永小作權ノ存続期間ハ慣習ニ依リ五十年ヨリ短キ場合ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ五十年トス

民法施行前ニ永久存続スヘキモノトシテ設定シタル永小作權ハ民法施行ノ日ヨリ五十年ヲ經過シタル後一年內ニ所有者ニ於テ相當ノ價金ヲ拂ヒテ其消滅ヲ請求スルコトヲ得若シ所有者カ此權利ヲ拋棄シ又ハ一年內ニ此權利ヲ行使セサルトキハ爾後一年內ニ永小作人ニ於テ相當ノ代價ヲ拂ヒテ所有權ヲ買取ルコトヲ要ス(明治三十三年法律第七十一號ヲ以テ本項追加)

第四十八條 民法ノ規定ニ從ヘハ民法施行前ヨリ先取特權ヲ有スヘカリシ債權者ハ其施行ノ日ヨリ先取特權ヲ有ス

第四十九條 民法第三百七十條ノ規定ハ民法施行前ニ抵當權ノ目的タル不動産ニ附加シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第五十條 民法第三百七十四條ノ規定ハ民法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス但民法施行ノ日ヨリ一年內ニ特別ノ登記ヲ爲シタル利息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一ノ順位ヲ以テ抵當權ヲ行フコトヲ得

第五十一條 民事訴訟法第六百四十九條第二項及ヒ第三項ヲ改メテ左ノ三項トス

第三項ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任

債權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其買權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ買權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

第四章 債權編ニ關スル規定

第五十二條 明治十年第六十六號布告利息制限法第三條ハ之ヲ削除ス

第五十三條 民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者カ其履行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セサルトキハ民法ノ規定ニ從ヒテ不履行ノ責任ヲ負フ

前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受タルコト能ハサル場合ニ之ヲ適用ス

第五十四條 民事訴訟法第七百三十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ

57 法律ニ於テ公示催告ヲ許ス場合ニ非サルトキト謂フハ法律ニ於テ公示催告ヲ許ス規定ナキ權利又ハ請求ニ付キ公示催告ヲ爲シタル場合ヲ指稱スルモノニシテ法律ニ於テ公示催告ヲ許スモ其申立人カ正當ナル權利者ニ非サリシ場合ノ如キハ之ヲ包含セス(昭二・東地「法新二六九一號一〇頁」)

直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス
 第五十六條 金債ノ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ額ハ其履行ノ日以テ民法第四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム但民法第四百十九條第一項但書ヲ適用スルコトヲ得
 第五十七條 指圖證券、無記名證券及ヒ民法第四百七十一條ニ掲ケタル證券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無効ト爲スコトヲ得
 第五十八條 民法施行前ニ發生シタル債務ト雖モ相殺ニ因リテ之ヲ免ルルコトヲ得
 第五十九條 民法第六百五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル不動産ノ質貸借ニモ亦之ヲ適用ス
 第六十條 第四十五條ノ規定ハ外國人又ハ外國法人ニ土地ヲ質貸シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第六十一條 (刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ之ヲ制除ス)

第五章 親族編ニ關スル規定

第六十二條 民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ規定ニ依リテ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ之ヲ家族トス
 第六十三條 民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家ニ入ルヘキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ在ル者ニハ其規定ヲ適用セス
 第六十四條 民法施行前ニ隱居者又ハ家督相続人カ許容又ハ強迫ニ因リ隱居ヲ爲シ又ハ相續ヲ承認シタルトキハ民法第七百五十九條ノ規定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得但第三十二條及ヒ第三十四條ノ適用ヲ妨ケス
 第六十五條 民法第七百六十條ノ規定ハ民法施行前ニ家督相続人ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス
 第六十六條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組カ其當時ノ法律ニ依レハ無効ナルトキト雖モ民法ノ規定ニ依リテ有效ナルヘキトキハ民法施行ノ日ヨリ有效トス
 第六十七條 民法第七百六十七條第一項ノ期間ハ前條カ民法施行前ニ取消シ又ハ取消サレタルトキト雖モ其取消又ハ取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

68 養嗣子ニ對シ家督相續人廢除其他ノ事由ニヨリ家督相續權ヲ喪失セシムル原因ノ存セサル限リ養嗣子ハ民法施行後ニ於テモ優先的相續權ヲ有ス(昭四・東控「新報一八九號二四頁」)

第六十七條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子縁組ハ之ヲ取消スコトヲ得但其事實力既ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

第六十八條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生ス
 第六十九條 民法施行前ニ婚姻ヲ爲シタル者カ夫婦ノ財產ニ付キ別段ノ契約ヲ爲サザリシトキハ其財產關係ハ民法施行ノ日ヨリ法定財產制ニ依ル
 第七十條 民法施行前ニ夫婚カ其財產ニ付キ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻届出ノ後ニ爲シタルモノト雖モ其效力ヲ存ス但其契約カ法定財產制ニ具ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ六ヶ月内ニ其登記ヲ爲スニ非ザレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 第七十一條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ原因タルヘキトキハ夫婦又ハ養子縁組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 第七十二條 民法施行前ニ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十三條 民法施行前ニ爲シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ原因タルヘキトキハ夫婦又ハ養子縁組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 第七十四條 民法施行前ニ爲シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ原因タルヘキトキハ夫婦又ハ養子縁組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第七十三條 裁判所ハ民法施行前ニ生シタル事實ニ據リテ親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得
 第七十四條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者ノ後見人タル者アルトキハ其後見人ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其任務ヲ行フ
 第七十五條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者カ後見人ヲ有セザルトキハ民法ニ定メタル者其後見人ト爲ル
 第七十六條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者アル場合ニ於テ後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ禁治產ノ宣告アリタルトキハ後見人ハ其宣告ノ時ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ後見人ノ任務ヲ行ヒ禁治產ノ宣告アリタルトキハ保佐人ノ任務ヲ行フ
 第七十七條 民法施行前ニ未成年又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ニ非サル事由ノ爲メニ選任シタル後見人ノ任務ハ民法施行ノ日ヨリ終了ス
 第七十八條 民法第九百三十七條及ヒ第九百四十條乃至第九百四十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

85 民法施行前ニ於テ所謂仲繼相續ヲ爲シタル者カ民法施行後ニ於テ死亡又ハ隱居シ家督相續開始シタル場合ニ於テハ民法ノ規定ニ從ヒ相續順位ヲ定ム (昭二・法決「法曹六卷二號一二三頁」)

88 民法施行前ニ養嗣子トナリタルトキハ其家督相續人タル指定ノ效力ハ民法施行法第一條及同第八八條ノ規定ニ依リ有效ニ之カ取消ヲ爲ササル限リ民法施行後ト雖變更ナシ (大一五・東控「評論一五卷民二五八頁」)

民法第九百三十八條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ選任オク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ選任スルコトヲ得

第八十條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ選任オク後見人ノ財產ヲ調査シ其目録ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項、第三項、第九百十八條及ヒ第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條 民法第九百二十四條及ヒ第九百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財產又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ受ケタル場合ニモ亦之ヲ準用ス

第八十三條 後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財產ヲ賃借セルトキハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ招集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親族會カ同意ヲ爲サザリシトキハ賃借借ハ其效力ヲ失フ

第六章 相續編ニ關スル規定

第八十四條 民法施行前ニ民法第九百六十九條及ヒ第九百九十七條ニ掲ケタル行爲ヲ爲シタル者ト雖モ相續人タルコトヲ得ス

第八十五條 民法第九百七十四條及ヒ第九百九十五條ノ規定ハ相續人タルヘキ者カ民法施行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ準用ス

第八十六條 相續人廢除ノ原因タル事實カ民法施行前ニ生シタルトキト雖モ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 相續人廢除ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ廢除シタル相續人ニモ亦之ヲ準用ス

第八十八條 家督相續人指定ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ指定シタル家督相續人ニモ亦之ヲ準用ス

第八十九條 民法第九百八十九條ノ規定ハ民法施行前ニ前戸主ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ準用ス

第九十條 民法第七七條及ヒ第七八條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ準用ス

第九十一條 相續ノ承認、拋棄及ヒ財產ノ分離ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニハ之ヲ準用セス

第九十二條 相續人廢除ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ準用ス

第九十三條 相續財產ノ管理人カ民法第五十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ同法第五十八條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十四條 遺言ノ成立及ヒ取消ニ付テハ其當時ノ法律ヲ適用シ其效力ニ付テハ遺言者ノ死亡ノ時ノ法律ヲ適用ス

第九十五條 民法第一千三百二十二條乃至第一千三百六條及ヒ第一千三百八條乃至第一千四百五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ準用ス

民法第九百三十八條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ選任オク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ選任スルコトヲ得

第八十條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ選任オク後見人ノ財產ヲ調査シ其目録ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項、第三項、第九百十八條及ヒ第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條 民法第九百二十四條及ヒ第九百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財產又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ受ケタル場合ニモ亦之ヲ準用ス

第八十三條 後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財產ヲ賃借セルトキハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ招集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親族會カ同意ヲ爲サザリシトキハ賃借借ハ其效力ヲ失フ

利息 2 利息制限法ノ制限ヲ超過シタル利息ヲ現實授受スルコトナク更ニ之ヲ貸金ノ目的トシテ取結ヒタル契約ニ基キ債權者カ其辨濟ヲ訴求シタル場合ニ於テハ裁判所ハ新債務ニ繰入レラレタル制限超過利息ニ關スル部分ノ請求ヲ認容スヘキニ非ス (昭五・大審「評論一九卷七號一六〇頁」)

同 5 株金拂込義務ハ商法施行法第一一七條ニ所謂商事ニ關スル債權ニ該當スルヲ以テ本條ノ適用ナキモノニ係リ從テ第二條

利息制限法 (明治十年九月十一日)
(大政官布告第六十六號)

改正 明治三一—法律一一
 大正 八一—法律五九

利息制限法左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト「法律上ノ利息」トス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓未滿ハ一ケ年ニ付百分ノ十五(一割五分)百圓以上千圓未滿ハ百分ノ十二(一割二分)千圓以上百分ノ十(一割)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシ (大正八年法律第五十九號ヲ以テ改正)

第三條 (明治三十一年法律第十一號ヲ以テ本條ヲ削除)

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外他人人民相互ノ契約ヲ以テ金銀貸借等ノ名目ヲ用ル者アルトモ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 「返還期限ヲ違フルルハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ價金罰金違約金料等ヲ差出スヘキ」ヲ約定スルコトアルトモ債主ハ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思慮スルトキハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得」 (商法施行法第十七條參看)

年計計算ニ關スル法律

(明治三十五年十二月二日)
 法律 第五十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年計計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朕國ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第四百三十三條ノ規定ハ年計ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

ノ適用ナシ (昭三・大審「評論一八卷七號一〇〇頁」)

失火 爆發ハ失火ニ非ス從テ本法ヲ適用スヘキ場合ニ該當セス (大八・大控「法新一六四七號一七頁」) 一本法立法ノ所以ハ一般法理ニ從ヒ常ニ失火者ニ賠償ノ責アリト爲サンカ失火シテ窮狀ニ在ル者ニ對シテ過酷ニ失スル憾アルト同時ニ我國古來ノ慣習トシテ火災ヲ天災視スルノ風アルトニ鑑ミシモノトス (大五・東地「法新一八一號二頁」)

失火ノ責任ニ關スル法律 地上權ニ關スル法律

失火ノ責任ニ關スル法律

(明治三十二年三月八日)
 法律 第四十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル失火ノ責任ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民法第七百九條ノ規定ハ失火ノ場合ニハ之ヲ適用セズ但シ失火者ニ重大ナル過失アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

地上權ニ關スル法律

(明治三十三年三月二十七日)
 法律 第七十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地上權ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法施行前他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル者其ノ土地ヲ使用スル者ハ地上權者ト推定ス

第二條 第一條ノ地上權者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ登記ヲ爲スニ非サレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ本法施行前ニ善意ニテ取得シタル第三者ノ權利ヲ害スルコトナシ

民法第六百四十二條ノ規定ハ年計計算ニ關スル法律ヲ準用ス

民法第四百三十三條ノ規定ハ年計ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年計計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朕國ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第四百三十三條ノ規定ハ年計ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

立木ニ關スル法律(明治四十二年四月五日)

改正、昭和六、法律三九

1 土地ニ生立スル樹木ニシテ立木ニ關スル法律ニ依リ所有權保存ノ登記ヲ爲ササルモノハ獨立ノ不動産ト謂フコトヲ得...

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル立木ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 本法ニ於テ立木ト稱スルハ一筆ノ土地又ハ一筆ノ土地ノ一部分ニ植栽ニ依リ生立スル樹木ノ...

就賣スルコトヲ得但シ其ノ就落代金ハ之ヲ供託スヘシ
樹木ノ所有者ハ就賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所ニ相當ノ擔保ヲ供託シテ就賣ノ免除ヲ申立ツルコトヲ得...

17 土地所有者カ地上權設定以前ヨリ有シタル自己所有ノ立木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲スニ付テモ本條ニ依リ地上權者ノ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要スルハ言ヲ俟...

第七條 前條ノ規定ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ル土地ノ質借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ之ヲ準用ス
第八條 地上權者又ハ土地ノ質借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テハ地上權者又ハ質借人ハ抵當權者ノ承諾アルニ非テハ其ノ權限ヲ...

登記番號欄ニハ各立木ニ付登記簿ニ始テ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
表示欄ニハ立木ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス...